

令和2年度 シラバス

第2学年
普通科
志学コース

鳥取城北高等学校

教科名	国語	科目名	現代文B	単位数	3 単位
対象学年	第2学年	対象コース	志学コース(文)	履修形態	必修
科目の目標	近代以降の優れた文章や作品を読解し鑑賞する能力を高めるとともに、思考力を伸ばし心情を豊かにし、更に言語感覚を磨き表現力を身につけ、自ら積極的に読書する姿勢を身につけることにより人生を豊かにする態度を育てる。				
学習内容の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の的確な読解を通して、客観的な理解・認識する力、主体的に思考・判断する力を養う。 ・文学作品を通して、日本語の美しさや表現の豊かさを味わい、自分自身や他の世界に対する感受性や想像力を育む。 ・現代社会で求められる多様な言語能力を養うため、自身の考えを効果的に伝える表現力・コミュニケーション力を高める。 ・生涯にわたり読書に親しむ習慣を身につける。 				
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。	目的や場に応じて効果的に話し的確に聞き取ったり、話し合つたりして、自分の考えをまとめ、深めている。	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。
教科書、教材など	教科書:精選現代文B (東京書籍) 補助教材:精選現代文B 学習課題ノート(東京書籍)、常用国語便覧(浜島書店)				
授業形態	講義・演習(学級単位による授業)				
年間授業計画					
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間
1	4	世界をつくり替えるために	・評論を読み、表現の特徴に注意して筆者の主張を的確に捉える。 ・冒頭の文の主旨を読み取り、逆接について理解し、本文の着眼の仕方について考え、まとめる。	学ぶことの意味について、筆者の主張を読み取り、自分に引き寄せて考える。 具体例に注目して筆者の主張を理解し、芸術の見方について考える。	9
	5	ミロのヴィーナス	・小説を自己の問題に引き付けて味わう姿勢を養い、自己について考えを深める。 ・評論の文章を読み、具体例がどのように結論の根拠となっているかを学ぶ。	登場人物の心情を表現に即して把握し、主人公の内面と苦悩について考える。 具体的な事例と筆者の意見の関係に注意して読み、言語と自我の構造について考える。	9
	6	山月記			12
	7	相手依存の自己規			
	見えない季節・未確認飛行物体・竹・永訣の朝		・詩の構成、展開に沿って作者の心情を深くつかむ。 ・比喩や対比の表現の特徴と効果をつかむ。	表現やリズムに留意して音読みし、特色として気づいたことやその効果について考える。	12
					・作品を表現に即して深く読み取り、作者の感動の焦点をおさえ、味わうことができたか。

2	8	旅する本	・登場人物の心情を表現から読み取り、その変化を的確に捉え、作品の主題を考える。	「旅する本」という表現に込められた寓意を把握し、「本」について考えを広げる。	3	・授業の取り組み姿勢、応答と発問、意見発表の意欲と的確さ、課題の提出、ノートの整理、小テスト・定期考査の成績
	9	科学的「発見」とは おじいさんのランプ	・さまざまな物事に対する判断やものの見方、学術研究などの基本に関わる問題をつかむ。 ・情報化の進行により人間と知との関係は大きく変化していることを理解し、視点を変えることでその問題を理解する。	本文中の二つの課題を追体験して読み、科学的視点の持ち方とその意義を理解する。 話題と主張の関係に着目して読み、時代とともに変わっていく本の在り方について考える。	12	・授業の取り組み姿勢、応答と発問、意見発表の意欲と的確さ、課題の提出、ノートの整理、小テスト・定期考査の成績 ・授業の取り組み姿勢、応答と発問、意見発表の意欲と的確さ、課題の提出、ノートの整理、小テスト・定期考査の成績
	10	消費されるスポーツ 牡丹花は(短歌) プラタナス(俳句)	・スポーツを社会学的な視野で捉え、「大衆消費社会」の姿について考える。 ・短詩形文学の感動の焦点をおさえ、主題をとらえられる。	筆者の提示する問題を読み取って整理し、メディアとスポーツの関係について理解を深める。 さまざまな表現、内容を整理し、さまざまな取り合わせや表現方法を整理する。	12	・授業の取り組み姿勢、応答と発問、意見発表の意欲と的確さ、課題の提出、ノートの整理、小テスト・定期考査の成績 ・授業の取り組み姿勢、応答と発問、意見発表の意欲と的確さ、課題の提出、ノートの整理、小テスト・定期考査の成績
	11	こころ 「である」と「する」こと	・作品を深く読んで人間のあり方についての問題意識をつかむ。 ・明晰な論理展開を読み取り、日本の近代化の特質とその問題について考える。	人間関係における人物の心情を的確に把握して、人の心のありようにについて考えを深める。 例示と意見の関係を整理して主張を捉え、変化する社会における人間の在り方について考える。	12	・授業の取り組み姿勢、応答と発問、意見発表の意欲と的確さ、課題の提出、ノートの整理、小テスト・定期考査の成績 ・授業の取り組み姿勢、応答と発問、意見発表の意欲と的確さ、課題の提出、ノートの整理、小テスト・定期考査の成績
	12	人間の運命と科学 蟻	・社会と人間のあり方を主題とする評論を読み、自己の価値観と照らし合わせて考える。 ・文体や修辞など表現上の特色をとらえ、作品に描かれた情景や心情を味わう。	論の展開と構成を把握して主張を捉え、科学と人間の関係について考えを深める。 視点の移動に注意しながら、描かれた場面や状況を読み取り、主題について考える。	12	・授業の取り組み姿勢、応答と発問、意見発表の意欲と的確さ、課題の提出、ノートの整理、小テスト・定期考査の成績 ・授業の取り組み姿勢、応答と発問、意見発表の意欲と的確さ、課題の提出、ノートの整理、小テスト・定期考査の成績
3	1	藤野先生	・翻訳文学の文章を読み、文体・時代性・心理などを自信と対比しながら味わう。	「私」が出会った藤野先生の人間像と「私」の思いと、時代背景に注意し、表現に即して読み取る。	6	・授業の取り組み姿勢、応答と発問、意見発表の意欲と的確さ、課題の提出、ノートの整理、小テスト・定期考査の成績
	2	日本人の美意識	・日本の美意識の特質を理解し、それが生活行動や生活感覚にまで及んでいることについて考える。	図を適切に参照して本文中の対比を捉え、日本と西欧の美意識の違いを理解する。	9	・授業の取り組み姿勢、応答と発問、意見発表の意欲と的確さ、課題の提出、ノートの整理、小テスト・定期考査の成績
	3	地図の想像力	・提示された問題について考え、自分の見解や意見を持ち、それを自分の言葉で表す。	論理的文章を読んで、それに対する自分の考えを意見文に書く。	9	・授業の取り組み姿勢、応答と発問、意見発表の意欲と的確さ、課題の提出、ノートの整理、小テスト・定期考査の成績

教科名	国語	科目名	古典B	単位数	3単位	
対象学年	第2学年	対象コース	志学コース(文)	履修形態	必修	
科目の目標	古典としての古文と漢文を読解し、鑑賞する能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典に親しむことによって人生を豊かにする態度を育てる。					
学習内容の概要	古文および漢文を読解し鑑賞するために、読み、語句、文法事項、表現上の特色等を理解して古典に親しみ、文章に現れた思想、感情、古典常識を通してものの見方、感じ方、考え方を豊かにし、日本文化との関係について考える。以上の観点から指導し、共通テストに対応できる学力を身につける。					
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解	
	言語文化や伝統に対する関心を深め、国語を尊重する姿勢を持ち、進んで古典に親しもうとしている。	古典に表れた思想や感情の特徴、表現上の特色などについて、筋道を立てて自分の考えをまとめ、発表したり話し合ったりすることができる。	学習した古典の作品について、積極的に情報を収集・活用して進んで表現することで、自分の考えをまとめるとともに深めることができる。	文章や作品の内容を構成や展開に即して的確に捉えることができる。また、古典に表れた思想や感情を読み取り、ものの見方・感じ方・考え方を豊かにすることができる。	古典の理解に役立てるための音声・表記・語句・語彙・漢字等を理解し、知識を身につけている。	
教科書、教材など	教科書:『精選古典B改訂版』(三省堂) 標準教科書:『体系古典文法』(数研出版) 『体系古典文法 準拠ノート』(数研出版)『新明説漢文』(尚文出版)『重要古文単語315』(桐原書店)					
授業形態	講義・演習(学級単位による授業)					
年間授業計画						
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価
1	4	(古)説話 ・十訓抄 ・宇治拾遺物語 ・古今著聞集 (漢)小話 ・季札挂劍 漱石枕 梁上君子 病入膏 不顧後患 紀昌貴虱 畏饅頭 (古)隨筆(一) ・徒然草・方丈記	・説話に対する理解を深め、古文に親しむ態度を育てる。 ・短い文章を読み、漢文の面白さを味わう。 ・句法に注意しながら正確な理解をする。 ・各章段の主題を現代に当てはめ自分自身の考え方、生き方を振り返る。	◆助動詞の復習 文法事項を踏まえながら、展開や心情を適切に読み取る。 ◆1年次の復習 漢文に親しむとともに、登場人物の考え方や話の面白さを読み取る。 ◆助詞の学習 文章中の表現を根拠にし、筆者の生き方や考え方を話し合う。	9 9 12 12	語句や表現に即して、説話の展開を読み取ろうとしている。 助動詞の用法を理解する。 話の面白さを味わい、登場人物の生き方などについて考えようとする。 基本的な句法を理解する。 筆者の人生観や人間観を読み取っている。 形の上で紛らわしい語を文法的に識別できる。
2	8	(漢)漢詩(近体詩) 鹿柴 宿建德江 春夜洛城聞笛 別董大 涼州詞 送友人月夜 (古)物語(一) ・竹取物語 ・伊勢物語 ・大和物語	・漢詩の種類とその特徴を理解する。 ・登場人物の人間関係を正確に掴み、微妙な心理の変化を理解する。	漢詩に描かれた人物や情景・心情などを表現に即して読み取る。 物語の展開や語句を表現に即して読み取るとともに、当時の人々が物語に込めた思いを考える。	3 12 12	漢詩の詩形や押韻、対句などについて理解する。 それぞれの漢詩が表現している内容や情感を理解する。 文章を通して、登場人物の行動と心情を読み取る。 基本的な敬語法について理解する。

11	(漢)史伝 ・鴻門之会 ・四面楚歌	・古代中国の歴史の面白さを味わい、登場人物の魅力を味わう。	話の展開を読み取るとともに、歴史のおもしろさや登場人物の魅力について話し合う。	12 著名な逸話について興味を持ち、内容を深く知ろうとする。 『史記』や司馬遷について理解する。
12	(古)隨筆 ・枕草子	・各章段の主題を現代に当てはめ自分自身の考え方、生き方を振り返る。	古典に表れた人間の生き方や考え方について、文章中の表現を根拠に話し合う。	12 筆者の美意識や機知を読み取る。 当時の宮廷生活を理解しようとする。
1	(漢)思想 儒家・道家の思想 ・論語・孟子・荀子	・一語一句の意味、語順、文脈に注意しながら内容を正確に読解する。	◆願望・抑揚◆選択個々の相違点を意識し、儒家・道家の主張について考える。	6 簡潔な表現や巧みな比喩に注目しながら、内容を的確に読み取り、思想を理解する。
2	(古)物語(二) ・源氏物語	・登場人物の人間関係を正確に掴み、微妙な心理の変化を理解する。	登場人物の心情を場面に応じて読み取る。	9 物語の内容を理解するとともに、興味関心を高める。 紛らわしい敬語法を正確に読み取る。
3	・大鏡	・敬語について正しい理解を得る。	歴史の流れの中で、登場人物の境遇や心情を読み取る。	9 歴史物語の特徴と文学的意義を理解する。

教科名	理科	科目名	地学基礎	単位数	2 単位	
対象学年	第2学年	対象コース	志学コース(文系)	履修形態	選択必修	
科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を高め、目的意識を持つて観察、実験などを行い、地学的に探求する能力を育てるとともに、地学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。					
学習内容の概要	1 惑星としての地球 2 活動する地球 3 大気と海洋 4 移り変わる地球 5 地球の環境 6 宇宙の構成					
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	A 関心・意欲・態度 自然の事物・現象に关心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探求しようとするとともに、科学的な態度を身につけている。	B 思考・判断 地学や地学現象を通して、自然現象の中に問題を見出し、探求する過程を通して、事象を科学的に考察した考えを表現している。	C 技能・表現 地学や地学現象について、目的意識を持って観察・実験を行い、科学的に探求する能力と技術を身につけていく。	D 知識・理解 地学の基本的な概念や原理を理解し、科学的な知識や見方を身につけている。		
教科書、教材など	教科書:地学基礎(教研出版)					
授業形態	講義・演習形式の授業を主体とし、必要に応じて観察・実験を行う。					
年間授業計画						
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価
1	4	第1編 惑星としての地球 第1章 太陽系の中の地球	太陽系の他の惑星と比較しながら地球の特徴を調べ、地球の誕生について理解する。	太陽系の天体 地球の誕生	6	<ul style="list-style-type: none"> 太陽系の誕生、地球の特徴に関心を持っている。 A 太陽系の誕生、地球の特徴が理解できている。 D
	5	第2章 地球の形と大きさ	地球の大きさに対するスケールを理解し、その歴史を踏まえて理解する。	地球の形と大きさ	6	<ul style="list-style-type: none"> 地球の形・大きさ・構造に興味を持っている。 A エラトステネスの方法を通して地球の大きさを求められる。 B
	6	第3章 地球の構造	固体地球の層構造や構成物質の化学組成を理解し、プレートの理解につなげる。	地球の構造	8	<ul style="list-style-type: none"> 地球の内部構造について、化学的・物理的に説明できる。 B 地球の内部構造について、化学的・物理的な特徴を理解できている。 D
	7	第2編 活動する地球 第1章 プレートの運動とそれに伴う現象	プレートの運動について理解し、火山活動と地震活動を総合的に理解する。	プレートテクトニクス プレート境界で発生する現象	8	<ul style="list-style-type: none"> 震源、火山が特定の地域に分布していることとプレート運動との関連が理解できている。 D 火山活動について興味を持ち、その仕組みや原因をプレート運動と関連付けて知ろうとしている。 A
	7	第2章 火山	マグマの性質と火山の噴火様式や火山地形との関係を理解する。	ホットスポットとブルーム 火山活動 火成岩	8	<ul style="list-style-type: none"> 火成岩について興味を示し、その観察に意欲的に取り組んでいる。 A 火成岩の観察・実習を通して鉱物や組織を調べ、火成岩を分類することが出来ている。 C 火成岩の色調の違いについて整理され理解できている。 D
	8	第3章 地震	プレートの沈み込み地帯で起こる地震現象を理解する。それに伴う変動地形と変成作用まで理解する。	地震 変動地形 変形作用	2	<ul style="list-style-type: none"> 地震発生の仕組みについてプレート運動と関連付けて説明、推論できている。 B 地震の存在を地球内部に原因があることを理解できている。 B

2	9	第3編 大気と海洋 第1章 地球の熱収支	大気圏の構造とともに、太陽の放射エネルギーによる地球の熱収支について理解する。	大気の構造 地球全体の熱収支	8	・大気の構造と地球全体の熱収支について整理され、地球規模で熱が輸送されていることが理解できている。 D
		第2章 大気と海水の運動	太陽の放射エネルギーが大気の運動や気象の変化を起こすことを理解し、大気や海洋が熱収支のバランスにとって重要なことを理解する。	大気の大循環 海水の運動		・大気と海洋について、興味・関心を示している。 A
10		第4編 移り変わる地球 第1章 地層の形成	地層が形成される仕組みや、地質構造を理解するとともに、地層を観察する方法を理解する。	堆積作用と堆積岩 地層の形成	8	・大気の大循環や海水の運動を緯度による太陽放射の受熱量と関連付けて考えることができている。 B
11		第2章 古生物の変遷と地球環境	地球と生命の関係の理解を深め、地球環境の変遷および地質ち台の区分や時間的なスケールを理解する。	地質時代の区分と化石 古生物の変遷	8	・地層が形成される仕組みや地層や岩石の観察について興味・関心を示している。 A
						・地層が形成される仕組みや地層や岩石の観察について興味・関心を示している。 B
						・地層が形成される仕組みについて考えることが出来ている。 C
12	12	第5編 地球の環境 第1章 環境と人間	気候変動のような時間スケールの大きな現象を考える場合に、大気と海洋、雪氷を含む地表を全球的にとらえることが必要なことを理解する。		8	・地層や岩石の観察、実験を通じて、過去に起こった出来事やその形成などに関する調べることが出来ている。 D
		第2章 日本の自然環境	日本の自然環境の特徴を知るとともに、そこで起こっている災害を理解する。			・化石の観察を通して、地質時代の区分や地球環境の変遷について興味・関心を示している。 A
						・化石の観察を通じて地質時代の区分を調べることが出来る。 C
						・地球環境の移り変わりと古生物の変遷が関連付けられて整理、理解できている。 D
						・地球環境の変化に気づき、興味・関心を示している。 A
						・地球環境の変化を人間生活を関連付けて科学的に考えることが出来ている。 B
						・自然環境の変化をデータを用いて科学的に考察することが出来ている。 C
						・地球規模の自然環境の変化が科学的に理解できている。 D
						・持続可能性について関心を示し、代替エネルギー等の活用に興味・関心を示している。 A

3	1 2	第6編 第1章 太陽と恒星	太陽のエネルギー源や構造、太陽の活動のようすなどについて学び、恒星の性質や進化の過程を理解する。	太陽の活動 太陽の一生と恒星	4 6	・恒星としての太陽の進化を考え A することが出来ている。 ・太陽の表面の現象およびその D 特徴が理解できている。
3		第2章	ビッグバンによる宇宙の誕生を理解し、宇宙の構造を知る。	宇宙の構造 宇宙の誕生	6	・宇宙の誕生に関心を持ち、地球の特徴を知ろうとする意欲を持つている。 ・銀河が分布している宇宙の広がりと構造を統合的に把握しようとしている。 ・太陽系から超銀河団までの階層の中で、それぞれの構造が理解できている。 ・宇宙の誕生からの時間の中で、D 水素やヘリウムの原子核が作られるなど、宇宙が進化していくことが理解できている。

教科名	理科	科目名	化学基礎	単位数	2 単位
対象学年	第2学年	対象コース	志学コース(文系)	履修形態	選択必修
科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化への関心を高め、目的意識を持つて観察、実験などを行い、科学的に探求する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。				
学習内容の概要	1 化学と人間生活 2 物質の構成 3 物質の変化				
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	A 関心・意欲・態度 自然の事物・現象に关心や探求心を持ち意欲的にそれらを探求しようとするとともに、科学的态度を身につけていく。	B 思考・判断 化学や化学現象を通して、自然現象の中に問題を見いだし、探求する過程を通して、事象を科学的に考察した考え方を表現している。	C 技能・表現 化学や化学現象について、目的意識をもって観察・実験を行い、科学的に探求する能力と技術を身につけていく。	D 知識・理解 化学の基本的な概念や原理・概念を理解し、科学的な知識や見方を身につけていく。	
教科書、教材など	教科書:化学基礎新訂版(実教出版) 副教材:リードα 化学基礎(数研出版)、フォトサイエンス化学図録(数研出版)				
授業形態	講義・演習(学級単位による授業)を主体とし、必要に応じて観察・実験および問題演習を行				

年間授業計画						
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価
1	4	序 化学と人間生活	生活の中の化学について再発見をし、化学の役割について理解を深める。		6	・化学と人間生活における役割について関心を示し、理解しようとする。 ・物質の状態変化は、構成粒子の分子運動に関係し、それが温度や圧力によるものであることを論理的、総合的に判断できる。
	5	第1章 物質の構成 1節 物質の探求 2節 物質の構成粒子	物質が原子、イオン、分子から構成されていることを理解する。 構成粒子の違いと物質の種類の違いを理解する。		6	・物質の構成粒子や量的関係に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけている。
	6	第2章 物質と化学結合 1節 イオン結合	イオンの生成を電子配置と関連付けて理解し、イオン結合及びイオン結合からなる物質の性質を理解する。		8	・物質の構造は、化学結合の仕方の違いに関わりがあることを意欲的に探究しようとする。
	7	2節 共有結合と分子間力	共有結合を電子配置と関連付けて理解し、分子からなる物質の性質を理解する。さらに、分子間の結合によって物質ができる事を理解する。		8	・物質の性質は、結合の違いによって異なることを代表的な物質の性質の比較から推論できる。
		3節 金属結合	金属原子間の結合及び金属からなる物質の性質を理解する。			・物質の構成粒子の違いによる結合・結晶の差異を、代表的な物質から具体的に理解し、知識を身につけている。

8	第3章 物質の変化 1節 物質量と化学反応式	原子量・分子量・式量などの物質量の基本事項を学ぶ。 物質量と溶液の濃度の関係を学ぶ。 化学反応式は化学反応に関与する物質とその量的関係を表すことを理解する。 化学の進歩の歴史と基本的な法則の発見の経緯について理解する。	原子量と分子量・式量 物質量 溶液の濃度 化学反応式 基本法則に関連した化学史	2 8 8	・原子量・分子量・式量と物質量の定義を理解し、物質量を用いた基本的な計算ができ、化学変化には一定の量的関係があることを考察できる。 ・化学式を使用できるとともに、原子量、分子量、式量と物質量の知識を身につけている。また、物質量の概念を用いて、化学変化の量的関係を把握する方法を理解し、知識を身につけている。
9					B D
10					
11	2節 酸と塩基	水溶液の酸性・塩基性の強弱と水素イオン濃度との関係及びpHについて理解する。 酸と塩基の性質と、中和反応に関与する物質の量的関係を理解する。 中和滴定と滴定曲線により、中和反応を理解する。	酸と塩基 水素イオン濃度とpH 中和反応と塩基 中和滴定	8	・酸、塩基や中和反応に関心を持ち、それらを日常生活に関連付けて意欲的に探究しようとする。 ・酸・塩基の観察、実験をもとに共通性を見出し、酸・塩基の定義を理解し、日常生活と関連づけて酸・塩基反応を考察できる。
12					C
1	3節 酸化還元反応	酸化・還元の定義を学び、酸化・還元を統一的に理解する。また、酸化剤や還元剤の反応や実用電池の形成の関係を理解する。	酸化と還元 酸化剤と還元剤 酸化還元反応の起こりやすさ 身のまわりの酸化還元反応	4 6 6	・実用電池や金属の製錬と酸化還元反応との関連性を見出し、論理的に考察し、科学的に判断できる。 ・電子の授受や酸化数の変化から酸化還元反応を理解し、知識を身につけている。 ・金属のイオン化傾向とそれによる反応性の違いを理解し、実用電池など身近に酸化還元反応が利用されていることを知っている。
2					D
3					D

教科名	数学	科目名	数学B	単位数	2 単位
対象学年	第2学年	対象コース	志学コース	履修形態	必修
科目の目標	ベクトル、数列および確率分布と統計的な推測について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。				
学習内容の概要	『ベクトル』向きと大きさを持つベクトル量の概念を学び、それが力や速度などを表す指標となることを理解する。また、ベクトルを図示したり、加えたり引いたりするとはどういうことかを学ぶ。さらに、ベクトルの成分による表現方法や内積について考える。『数列』いろいろな規則性をもつ数列について調べ、数列の和や数学的帰納法について学ぶ。『確率分布と統計的な推測』数学Aで学んだ確率についてさらに深く理解を進める。次にいろいろなデータを整理して分析するための理論を学ぶ。				
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	A: 数学への関心・意欲・態度	B: 数学的な見方や考え方	C: 数学的な表現・処理	D: 数量・図形などについての知識・理解	
	<ul style="list-style-type: none"> 多面的にものを見たり、理論性のあるいろいろな考えに触れたり、試行錯誤しながら考え、主体的に数学的な見方や考え方のよさを学ぼうとする。 身近な事象を数学化し、積極的に数学を活用しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 数学的な見方や考え方のよさを認識できる。 自らの思考過程を振り返りながらより発展的に考え一般化して問題の本質を探ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 数学的な見方や考え方を生かし自分から工夫して問題を解決したり判断することができます。 設定した数学的な課題を既習事項や公理・定義等を基にして分析・整理し、数学的に考察したことを明確に表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 数理的に考察し処理することのよさや既習事項などを体系的に整理し活用できる。 構成した数学的な知識の意味を考えたり、見いだした数学的な知識をいろいろな場面に活用できる。 文化や社会生活において数学が果たしている役割などを理解している。 	
教科書、教材など	教科書:改訂版 高等学校 数学B(数研出版) 補助教材:チャート式 解法と演習 数学II+B(数研出版)				
授業形態	講義・演習(学級単位による授業)				
年間授業計画					
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間
1	4	第1章 平面上のベクトル			A/B/C/Dの総合評価
	5	第1節 ベクトルとその演算	<ul style="list-style-type: none"> 平面上のベクトルについてその意味、相等、加法、減法及び実数倍について理解させる。 ベクトルの演算については数の演算と類似の法則が成立することを理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 有向線分とベクトル ベクトルの表記 ベクトルの加法 零ベクトル ベクトルの減法 ベクトルの実数倍 ベクトルの計算 ベクトルの平行 ベクトルの分解 ベクトルの成分表示 和、差、実数倍の成分表示 座標平面上の点とベクトル ベクトルの内積 成分による内積の表示 ベクトルのなす角 内積の性質 	6
		1. ベクトル			
		2. ベクトルの演算			
		3. ベクトルの成分			
		4. ベクトルの内積			
			<ul style="list-style-type: none"> 座標との関連において成分表示を取り扱い、ベクトルとその演算についての理解を深める。 二つのベクトルのなす角や成分表示に関連付けてベクトルの内積の意味や基本的な性質について理解させ、平面图形の性質の考察に内積を活用できるようにする。 	補充問題	6

1	6	第2節 ベクトルと平面図形 5. 位置ベクトル 6. ベクトルの図形への応用 7. 図形のベクトルによる表示 研究: 点と直線の距離	<ul style="list-style-type: none"> ・位置ベクトルを活用することによって図形の性質の考察において形式的な処理ができる理解させいろいろな平面図形の性質の考察に位置ベクトルを活用できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・位置ベクトル ・内分点・外分点の位置ベクトル ・三角形の重心の位置ベクトル ・位置ベクトルの利用 ・直線上の点 ・内積の利用 ・ベクトルに平行な直線 ・異なる2点を通る直線 ・ベクトルに垂直な直線 <p>補充問題 章末問題</p>	8
		第2章 空間のベクトル 1. 空間の点 2. 空間のベクトル	<ul style="list-style-type: none"> ・空間座標の概念を導入し、その意味や表し方について理解させる。 ・成分などの平面上のベクトルの考え方を空間に拡張して空間ベクトルを理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・空間の点の座標 ・原点Oと点Pの距離 ・空間のベクトル ・ベクトルの分解 ・ベクトルの成分表示 ・和、差、実数倍の成分表示 ・座標空間の点とベクトル ・ベクトルの内積 ・ベクトルの垂直 ・位置ベクトル ・平面上の点の位置ベクトル ・内積の利用 ・2点間の距離と内分点・外分点の座標 ・座標平面に平行な平面の方程式 ・球面の方程式 	
2	8	3. ベクトルの成分 4. ベクトルの内積	<ul style="list-style-type: none"> ・内積や位置ベクトル、ベクトル方程式などの平面上のベクトルの考え方を空間に拡張して空間ベクトルを理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・位置ベクトル ・平面上の点の位置ベクトル ・内積の利用 ・2点間の距離と内分点・外分点の座標 ・座標平面に平行な平面の方程式 ・球面の方程式 	2
	9	5. ベクトルの図形への応用 6. 座標空間における図形		<p>補充問題</p>	8
2	10	第3章 数列 第1節 等差数列と等比数列 1. 数列と一般項 2. 等差数列 3. 等比数列 4. 等差数列の和 5. 等比数列の和	<ul style="list-style-type: none"> ・数列{an}についてnとanとの対応関係に着目し、数列の一般項の意味を理解させる。 ・等差数列と等比数列を理解させ、それらの一般項を求め、さらに第n項までの和を求めることができるようにして、数列を身近な問題の解決などに活用できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数列の表記 ・数列の一般項をnで表す ・等差数列 ・等差数列の一般項 ・等差数列の性質 ・等差数列の和の公式 ・自然数の和、奇数の和 ・等比数列 ・等比数列の一般項 ・等比数列の性質 ・等比数列の和の公式 	8
				<p>補充問題</p>	

	11	第2節 いろいろな数列 6. 和の記号 Σ 7. 階差数列 8. いろいろな数列 の和	<ul style="list-style-type: none"> ある数列の一般項は、その数列の各項の階差に着目すれば容易に求められる場合があることを理解させる。 数列$\{n\}$, $\{n^2\}$, $\{n^3\}$などの和を扱う。 $\{n(n+1)\}$などについて、第n項までの和を Σ を用いて表しその値を求めるができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然数の2乗の和 和の記号 Σ 和の記号 Σ の性質 階差数列 階差数列から一般項を求める 数列の和と一般項 いろいろな数列の和 群に分けられた数列 <p>補充問題</p>	8	
2	12	第3節 数学的帰納法 9. 漸化式 研究: 隣接2項間漸化式 隣接3項間漸化式 10. 数学的帰納法	<ul style="list-style-type: none"> 数列を漸化式で表現し、漸化式の意味を理解させ、簡単な漸化式を用いて表された数列の一般項を求めることができるようになる。 自然数nを用いて表された命題を証明する一つの方法として、数学的帰納法の意味とその扱い方を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 数列の漸化式と項 漸化式から一般項を求める 数学的帰納法の原 等式の証明 不等式の証明 <p>補充問題</p> <p>章末問題</p>	8	
	1	問題演習			4	
3	2				6	
	3				6	

教科名	地理歴史	科目名	日本史B	単位数	3 単位	
対象学年	第2学年	対象コース	志学コース(文系)	履修形態	選択必修	
科目的目標		<p>我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察させ、我が国伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。</p> <p>原始・古代から現代に至る歴史の展開を、同じ地理歴史科の世界史や地理との関連を一層重視して、国内外の地理的条件やアジアを含む世界史的視野に立ち、政治、経済、社会、文化、国際環境など歴史を構成する要素を統合した幅広い見方で大きく把握させる。同時に、各時代の国家・社会の特色や時代の変遷に関する総合的な考察を通じて、我が国がどのような特色をもち、どのような伝統が形成されてきたかについての認識を深めることを重視している。その際、諸事象の本質をその歴史的な形成・展開の過程の実証的な考察によってとらえる歴史的な見方や考え方を身に付け、歴史的な思考力の育成を図るとともに、国際社会に主体的に生き平和的で民主的な国家・社会を形成する日本国民としての自覚と資質を養うことがこの科目のねらいである。</p>				
学習内容の概要		<p>1 「原子・古代の日本と東アジア」では、旧石器時代から平安時代までを扱い、原始社会の特色及び古代国家と社会や文化の特色について、東アジア世界の動向と関連付けて考察させる。なお、この大項目における「歴史と史料」では、歴史が諸資料に基づいて考察され、叙述されていることの理解を図ると同時に、歴史への関心を高め、文化財保護の重要性に気づかせる。</p> <p>2 「中世の日本と東アジア」では、中世国家と社会や文化の特色について、東アジア世界の動向と関連付けて考察させる。なお、この大項目における「歴史の解釈」では、諸資料を活用して、歴史的事象の推移や変化、相互の因果関係を考察するなどの活動を通じて、歴史の展開の置ける諸事象の意味や意義を解釈させる。</p> <p>3 「近世の日本と世界」では、近世国家と社会や文化の特色について、国際環境と関連づけて考察させる。なお、この大項目における「歴史の説明」では、歴史的事象には複数の歴史的解釈が成立立つことに気付かせ、それぞれの根拠や論理を踏まえて、筋道を立てて考えを説明させる。</p>				
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)		a. 関心・意欲・態度	b. 思考・判断・表現	c. 資料活用の技能	d. 知識・理解	
		<ul style="list-style-type: none"> ・日本の歴史展開に関心と問題意識を高めているか。 ・民主的、平和的国家。社会の一員としての自覚を深め、現代日本社会に生きる意欲を高めているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本史の知識を踏まえて、現代日本の課題を歴史的視点から考察しようとしているか。 ・追求し、考察した過程や結果を適切な方法で表現しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本史の基本的な事柄に関する諸資料を様々な方法で収集しているか。 ・日本史の理解に必要な情報を主体的に選択して活用し、歴史的事柄を追求する方法を身に付けているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本史を理解するために必要な知識を身に付けているか。 ・日本史と世界史を関連づけながら理解しているか。 ・地域の歴史と日本史の関連を理解しているか。 	
教科書、教材など		教科書:詳説日本史B(山川出版) 補助教材:日本史のライブラリー(とうほう)				
授業形態		講義・演習(学級単位による授業)				
年間授業計画						
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価
1	4	第1部 原始・古代	人類文化の発生を考え、日本列島における旧石器文化・縄文文化の時代の社会を理解する。	・図表を理解しながら、原始的な生活や文化を総合的に理解させる。	9	日本列島における旧石器文化・縄文文化の成立を自然環境の変化や大陸との影響に着目してとらえることができたか。
	5	第1章 日本文化のあけぼの 1. 文化の始まり 2. 農耕社会の成立 3. 古墳とヤマト政権	古墳時代後期～終末期の変容と、ヤマト政権の政治制度を理解する。	・稻作の普及が国家の成立につながる過程を構造と結びつけながら理解させる。 ・大陸文化の影響を直後に受けていることをおさえ、文化の新たな展開につなげさせる。	9	古墳時代から終末期にかけての文化・生活の変化、大王を中心とする政治制度を踏まえ、ヤマト政権を総合的に理解できたか。

	6	第2章 律令国家の形成 1. 飛鳥の朝廷 2. 律令国家への 3. 平城京の時代 4. 天平文化 5. 平安王朝の形	律令国家が成立するまでの政治の動向と白鳳文化の形成過程について考察し、律令に基づく国内統治体制について理解する。	・文化史ではセンター試験を考慮し、教科書の写真等を利用して視覚による理解も深めさせる。	12	血縁関係の推古天皇による政権運営や飛鳥文化の形成、律令体制の過程と白鳳文化の形成過程や大宝律令に基づく、統治組織・官僚制・土地と民衆の把握・税制及び密教芸術が生まれた弘仁・貞觀文化の意義を理解できたか。
	7	第3章 貴族政治と国風文 1. 摂関政治 2. 国風文化 3. 地方政治の 展開と武士	摂関政治の成立過程と政治運営への影響について考察し、新しい貴族文化として国風文化が展開されたことを理解する。	・寺院や仏像のプリントを配布して視覚から特徴を理解させる。 ・藤原氏の台頭と国風文化の関連を考えさせる。	12	律令体制の変容の観点から摂関政治を考察し浄土教の出現による浄土の信仰の変容、かな文学の成立による国文学の発達に着目して、貴族の生活・文化や武士の反乱や成長などから中世社会の萌芽を見出すことを理解できたか。
2	8 9	第Ⅱ部 中世 第4章 中世社会の成立 1. 院政と平氏の台 2. 鎌倉幕府の成 3. 武士の社会 4. 蒙古襲来と 幕府の衰退 5. 鎌倉文化	院政期前後の土地支配形態を踏まえて、院政期の政治・経済・社会・文化を理解する。鎌倉幕府が東国の地方政権から全国的な武家政権に成長していく過程や鎌倉仏教が成立するなど、文化的な新しい機運が生まれたことを理解する。	・激動の時代、宗教・思想・文学が人を動かし社会を変える力を持つことを、資料集等を用いて理解を深めさせる。	3 12	院政期の政治構造や経済・社会・文化・外戚関係や日宋貿易の展開、平氏政権の特性、封建制度の成立、文永の役・弘安の役、得宗専制政治の展開、農業・商工業の発達による社会の変動、永仁の徳政令の発布、鎌倉仏教の多様な動きの社会的・思想的な意義やその影響について考察できたか。
10		第5章 武家社会の成長 1. 室町幕府の成立 2. 幕府の衰退と 庶民の台頭 3. 室町文化 4. 戦国大名の登場	南北朝の動乱から室町幕府の成立と安定について、日本諸地域の動向などを踏まえ、幕府の動搖や武家文化と公家文化及び大陸文化と伝統文化の関わりについて理解する。	・室町時代は社会背景をもとに、大きく文化の特色が異なることを理解させる。	12	建武政権の成立と崩壊を踏まえ南北朝の動乱を考察し、守護大名に着目して室町幕府の機構の確立、日明貿易・日朝貿易の展開、土一揆の発生、南北朝・北山・東山文化を通じ、武家・公家文化の融合、禅文化の果たした役割などを踏まえ、能・狂言・茶の湯・生け花などを理解できたか。
11		第III部 近世 第6章 幕藩体制の確立 1. 織豊政権 2. 桃山文化 3. 幕藩体制の成立 4. 幕藩社会の構造	大航海時代と呼ばれる世界史的背景を踏まえて、欧州人の東アジアへの進出とその影響や幕藩体制の確立期の兵農分離や村落・都市支配などを理解する。	・織豊政権下の文化との関連でその特色を学ばせる。	12	鉄砲やキリスト教の伝来、南蛮貿易の展開を踏まえてヨーロッパ世界との接触とその影響、検地や刀狩、織豊政権の統一過程と桃山文化が幅広い国際性を持つつ、生活文化の中に溶け込んでいったこと、秀吉の朝鮮侵略や南蛮文化にも着用して考察できたか。

3	12 1	第7章 幕藩体制の展開 1. 幕政の安定 2. 経済の発展 3. 元禄文化	17世紀後半から18世紀前半までの幕府の安定期について、その平和と秩序の確立の視点で理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・身分社会を維持するため、儒学が果たした役割を資料集で深め、特に幕府の禁教・仏教界策を中止させる。 ・上方文化の背景を学び、その代表作家や作品、なぜ文化の担い手が町人に移ったのか、その背景を学ばせる。 	<p>9 9</p> <p>文治政治への転換から元禄時代・正徳の政治を取り上げ、幕政の安定過程や農業技術の進歩に伴う農業生産の進展、貨幣・金融制度の確立による商品経済・流通の発達、三都の発達、元禄文化について、町人の経済的繁栄や商業活動の拡大、幕府の教學として発展する儒学に着目し、文学・学問・美術を踏まえて考察できたか。</p>
2		第8章 幕藩体制の動搖 1. 幕政の改革 2. 宝暦・天明期 の文化	農村や都市の変容により幕藩体制が動搖する中、幕府や諸藩が行った諸改革の意義とその影響を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・幕府の政策と洋学の発達との関連を学ばせる。 ・伝統文化の否定、その再発見に重点をおき学ばせる。 	<p>9 9</p> <p>幕府・諸藩の経済的窮乏、百姓一揆・打ちこわしの頻発、享保の改革や田沼時代の諸政策の意義、鎖国政策への批判や寛政の改革・文化文政時代・天保の改革における失政、寺子屋など庶民教育機関の普及、浮世絵など文化における近代化の芽生えを考察できたか。</p>
3		3. 幕府の衰退と 近代への道 4. 化政文化			

教科名	地理歴史	科目名	世界史B	単位数	3 単位	
対象学年	第2学年	対象コース	志学コース(地理A選択者)	履修形態	選択必修	
科目の目標	世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。					
学習内容の概要	<p>1. 身近なものや日常生活にかかわる主題、我が国の歴史にかかわる主題など、適切な主題を設定し追究する学習を通して、歴史に対する関心と世界史学習への意欲を高める。</p> <p>2. 人類は各地の自然環境に適応しながら農耕や牧畜を基礎とする諸文明を築き上げ、やがてそれらを基により大きな地域世界を形成したことを把握させる。</p> <p>3. ユーラシアの内陸及び海域のネットワークを背景に、諸地域世界の交流が一段と活発になり、新たな地域世界の形成や再編を促したことなどを把握させる。</p> <p>4. アジアの繁栄とヨーロッパの拡大を背景に、諸地域世界の結合が一層進んだことを把握させるとともに、主権国家体制を整え工業化を達成したヨーロッパの進出により、世界の構造化と社会の変容が促されたことを理解させる。</p> <p>5. 科学技術の発達や生産力の著しい発展を背景に、現代世界は地球規模で一体化し、相互依存を強めたことを理解させる。また、国際対立と国際協調、科学技術と現代文明などの観点から20世紀の歴史の特質を考察させ、未来を展望させる。</p>					
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	a. 関心・意欲・態度	b. 思考・判断・表現	c. 資料活用の技能	d. 知識・理解		
	世界の歴史の大きな枠組みと流れに対する関心と課題意識を高め、意欲的に追及するとともに、国際社会を主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとする。	世界の歴史から課題を見出し、文化の多様性と現代社会の特質を世界的視野に立って多角的・多面的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断する。	世界の歴史についての諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を身につけるとともに、追及し考察する過程や結果を適切に表現する。	世界の歴史についての基本的な事柄を、我が国の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。		
教科書、教材など	教科書:詳説世界史B(山川出版) 補助教材:新詳世界史図説(浜島書店)・新世界史研究ノート応用編(啓隆社)					
授業形態	講義・演習(学級単位による授業)					
年間授業計画						
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価
1	4	世界史のとびら 序章 先史の世界	・世界史学習への関心・意欲を喚起する。	・気候変動と人類の生活・漂流民・砂糖から見た歴史を学ぶ。	9	a. 諸地域世界に対する関心と改題意識を持ち、各世界の形成過程を意欲的に追及しようとしているか。
	5	第1章 オリエントと地中海世界	・人類の進化の過程を把握する。 ・オリエントの古代文明の成立、ギリシア・ローマの発展過程を理解する。	・人類の起源と文明の誕生を学ぶ。 ・メソポタミア、エジプトを中心にオリエント世界の特質やギリシア・ローマ世界の特質を理解させる。	9	b. 諸地域世界の歴史について多角的・多面的に考察し、歴史的意義を的確・公正に判断しているか。
	6	第2章 アジア・アメリカの古代文明	・古代インド史の特質を仏教を中心に理解する。 ・中国の古代文明から秦・漢の国家形成を理解する。	・東南アジア・インド文明の形成を理解させる。 ・中国において、文明の起源から漢帝国までの動向を理解させる。	12	c. 諸地域世界に対する資料を活用して、追及し考察した過程や結果を適切に表現できるか。
	7		・古アメリカ文明の特徴を理解する。	・南北アメリカ文明の特徴を理解させる。	6	d. 諸地域世界の形成過程を理解し、基礎的な知識を身につけているか。

1	7	第3章 内陸アジア世界・東アジア世界の形成	<ul style="list-style-type: none"> ・スキタイ、匈奴などの騎馬民族のユーラシア世界における役割を理解する。 ・隋や唐の中央集権的国家の形成について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・10世紀までの騎馬遊牧民の活動を理解させる。 ・東アジア北方民族の興亡と魏晋南北朝から島までの東アジア文化圏形成の流れを理解させる。 	6	<p>a. 諸地域世界に対する関心と課題意識を持ち、各世界の形成過程を意欲的に追及しようとしているか。</p> <p>b. 諸地域世界の歴史について多角的・多面的に考察し、歴史的意義を的確・公正に判断しているか。</p> <p>c. 諸地域世界に対する資料を活用して、追及し考察した過程や結果を適切に表現できるか。</p> <p>d. 諸地域世界の形成過程を理解し、基礎的な知識を身につけているか。</p>
2	8 9				3 12	
	10	第4章 イスラーム世界の形成と発展	<ul style="list-style-type: none"> ・イスラーム教成立の経過およびイスラーム世界について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アラブ人とイスラーム帝国の発展、トルコ系民族の活動、南アジア・アフリカのイスラーム化について認識し、イスラーム世界の形成・拡大の過程を把握し、理解させ 	12	<p>a. 諸地域世界の形成過程を現代の課題と照らし合わせながら理解しようとしているか。</p> <p>b. 諸地域世界の歴史について多角的・多面的に考察し、歴史的意義を的確・公正に判断しているか。</p> <p>c. 諸地域世界に対する資料を活用して、課題や事象を追及・考察した過程や結果を適切に表現できるか。</p> <p>d. 諸地域世界の交流と再編を理解し、その知識を理解しているか。</p>
11		第5章 ヨーロッパ世界の形成と発展	<ul style="list-style-type: none"> ・イスラーム文化の世界史的意義について認識する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中世ヨーロッパ世界の形成と発展、特徴について理解する。 	12	
	12	第6章 内陸アジア世界・東アジア世界の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・ユーラシア東西交流におけるモンゴル帝国の歴史的意義について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・内陸アジアで活躍したトルコ系民族の活動および国家形成を把握させる。 ・モンゴル帝国によるユーラシア大陸の一體化を理解させる。 	6	
3	1				9	
2		第7章 アジア諸地	<ul style="list-style-type: none"> ・明の社会・経済、文化の発展、清の統治体制の特徴を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・明および清帝国と朝鮮や日本との関係、東南アジア世界、イスラーム世界の動向を知り、その関係性を理解させる。 	9	<p>a. 一体化する世界を理解し、社会の変化について意欲的に追及しようとしているか。</p> <p>b. 一体化する世界について、多角的・多面的に考察し、歴史的意義を的確・公正に判断しているか。</p> <p>c. 一体化する世界に関する資料を活用して、諸課題を追及し、考察した過程や結果を適切に表現できるか。</p> <p>d. 一体化する世界を理解し、社会の変化について基本的な知識を身につけているか。</p>
3					9	

教科名	地理歴史	科目名	世界史B	単位数	4 単位	
対象学年	第2学年	対象コース	志学コース(地歴B2科目選択者)	履修形態	選択必修	
科目の目標	世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。					
学習内容の概要	<p>1. 身近なものや日常生活にかかわる主題、我が国の歴史にかかわる主題など、適切な主題を設定し追究する学習を通して、歴史に対する関心と世界史学習への意欲を高める。</p> <p>2. 人類は各地の自然環境に適応しながら農耕や牧畜を基礎とする諸文明を築き上げ、やがてそれらを基により大きな地域世界を形成したことを把握させる。</p> <p>3. ユーラシアの内陸及び海域のネットワークを背景に、諸地域世界の交流が一段と活発になり、新たな地域世界の形成や再編を促したことなどを把握させる。</p> <p>4. アジアの繁栄とヨーロッパの拡大を背景に、諸地域世界の結合が一層進んだことを把握させるとともに、主権国家体制を整え工業化を達成したヨーロッパの進出により、世界の構造化と社会の変容が促されたことを理解させる。</p> <p>5. 科学技術の発達や生産力の著しい発展を背景に、現代世界は地球規模で一体化し、相互依存を強めたことを理解させる。また、国際対立と国際協調、科学技術と現代文明などの観点から20世紀の歴史の特質を考察させ、未来を展望させる。</p>					
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	a. 関心・意欲・態度		b. 思考・判断・表現	c. 資料活用の技能	d. 知識・理解	
	世界の歴史の大きな枠組みと流れに対する関心と課題意識を高め、意欲的に追及するとともに、国際社会を主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとする。		世界の歴史から課題を見出し、文化の多様性と現代社会の特質を世界的視野に立って多角的・多面的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断する。	世界の歴史についての諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を身につけるとともに、追及し考察する過程や結果を適切に表現する。	世界の歴史についての基本的な事柄を、我が国の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。	
教科書、教材など	教科書:詳説世界史B(山川出版) 補助教材:新詳世界史図説(浜島書店)・新世界史研究ノート応用編(啓隆社)					
授業形態	講義・演習(学級単位による授業)					
年間授業計画						
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価
1	4	世界史のとびら 序章 先史の世界	・世界史学習への関心・意欲を喚起する。 ・人類の進化の過程を把握する。	・気候変動と人類の生活・漂流民・砂糖から見た歴史を学ぶ。 ・人類の起源と文明の誕生を学ぶ。 ・メソポタミア、エジプトを中心にオリエント世界の特質やギリシア・ローマ世界の特質を理解させる。	12	a. 諸地域世界に対する関心と改題意識を持ち、各世界の形成過程を意欲的に追及しようとしているか。
	5	第1章 オリエントと地中海世界	・オリエントの古代文明の成立、ギリシア・ローマの発展過程を理解する。	・東南アジア・インド文明の形成を理解させる。	12	b. 諸地域世界の歴史について多角的・多面的に考察し、歴史的意義を的確・公正に判断しているか。
	6	第2章 アジア・アメリカの古代文明	・古代インド史の特質を仏教を中心に理解する。 ・中国の古代文明から秦・漢の国家形成を理解する。 ・古アメリカ文明の特徴を理解する。	・中国において、文明の起源から漢帝国までの動向を理解する。 ・南北アメリカ文明の特徴を理解させる。	16	c. 諸地域世界に対する資料を活用して、追及し考察した過程や結果を適切に表現できるか。
						d. 諸地域世界の形成過程を理解し、基礎的な知識を身につけているか。

1	7	第3章 内陸アジア世界・東アジア世界の形成	<ul style="list-style-type: none"> ・スキタイ、匈奴などの騎馬民族のユーラシア世界における役割を理解する。 ・隋や唐の中央集権的国家の形成について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・10世紀までの騎馬遊牧民の活動を理解させる。 ・東アジア北方民族の興亡と魏晋南北朝から島までの東アジア文化圏形成の流れを理解させる。 	16	<ul style="list-style-type: none"> a. 諸地域世界の形成過程を理解し、基本的な知識を身につけているか。 b. 諸地域世界の歴史について多角的・多面的に考察し、歴史的意義を的確・公正に判断しているか。 c. 諸地域世界に対する資料を活用して、追及し考察した過程や結果を適切に表現できるか。 d. 諸地域世界の交流と再編を理解し、その知識を理解しているか。
2	8	第4章 イスラーム世界の形成と発展	<ul style="list-style-type: none"> ・イスラーム教成立の経過およびイスラーム世界について理解する。 ・イスラーム文化の世界史的意義について認識する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アラブ人とイスラーム帝国の発展、トルコ系民族の活動、南アジア・アフリカのイスラーム化について認識し、イスラーム世界の形成・拡大の過程を把握し、理解させる。 	4	
	9				16	
10		第5章 ヨーロッパ世界の形成と発展	<ul style="list-style-type: none"> ・中世ヨーロッパ世界の形成と発展、特徴について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ビザンツ帝国の特色、西ヨーロッパ封建社会の形成とキリスト教の関係を理解させる。 	16	
11		第6章 内陸アジア世界・東アジア世界の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・ユーラシア東西交流におけるモンゴル帝国の歴史的意義について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・内陸アジアで活躍したトルコ系民族の活動および国家形成を把握させる。 ・モンゴル帝国によるユーラシア大陸の一體化を理解させる。 	16	
12		第7章 アジア諸地域の繁栄	<ul style="list-style-type: none"> ・明の社会・経済、文化の発展、清の統治体制の特徴を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・明および清帝国と朝鮮や日本との関係、東南アジア世界、イスラーム世界の動向を知り、その関係性を理解させる。 	16	<ul style="list-style-type: none"> a. 一体化する世界を理解し、社会の変化について意欲的に追及しようとしているか。 b. 一体化する世界について、多角的・多面的に考察し、歴史的意義を的確・公正に判断しているか。 c. 一体化する世界に関する資料を活用して、追及し考察した過程や結果を適切に表現できるか。 d. 一体化する世界を理解し、社会の変化について基本的な知識を身につけているか。
3	1	第8章 近世ヨーロッパ世界の形成	<ul style="list-style-type: none"> ・主権国家体制の成立や宗教改革など、大きなヨーロッパにおける動きを、当時の国際関係中に位置付けながら理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大航海時代やルネサンス、宗教改革を通してヨーロッパ世界の拡大と変革を理解するとともに、主権国家体制の成立と国際秩序の形成の過程を理解させる。 	8	
	2				12	
	3	第9章 近代ヨーロッパ世界の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・オランダの海洋霸権やイギリス、フランスの台頭、プロイセンの強国化、ロシアの台頭について国際関係を踏まえて理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主権国家が採用した重商主義政策とその結果でもある国際関係とその対立、発生した戦争とその後について理解する。 	12	

教科名	地理歴史	科目名	地理B	単位数	3 単位	
対象学年	第2学年	対象コース	志学コース	履修形態	選択必修	
科目の目標	現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚を養う。					
学習内容の概要	(1) 現代世界の地理的な諸問題を地域性をふまえて考察する。 (2) 現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚を養う。					
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	a 関心・意欲・態度 現代世界の地理的な諸問題に対する課題意識を高め、それを意欲的に追求しているか。	b 思考・判断 現代世界の地理的事象から課題を見出し、それに地域性をふまえて考察する。また国際社会の変化を踏まえて公正に判断しているか。	c 技能・表現 地図や統計資料などの諸資料を収集し、現代世界の地理的事象を追求する技能を身につけるとともに、考察した課程や結果を表現しているか。	d 知識・理解 現代世界の地理的な諸課題についての基本的な事柄や追求の方法を理解し、その知識を身につけているか。		
教科書、教材など	教科書:新詳地理B(帝国書院) 補助教材:新詳高等地図、新詳地理資料COMPLETE2020(帝国書院)					
授業形態	講義形式					
年間授業計画						
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価
1	4	〈第I部〉 『さまざまな地図と地理的技能』 地理情報と地図 地図の活用と地域調査	地域調査の一連の方 法を理解する。	現代世界の地図 地図の種類とその利用 地理情報の地図化	9 9	c 地図や統計などの諸資料を収集し、現代世界の地理的事象を追求する技能を身につけるとともに、考察した課程や結果を表現しているか。
	5	〈第II部〉 『現代世界の系統地理的考察』	地形環境が構成する各種の地形の特徴を理解し、具体的な事例を通して人間生活とのかかわりを考察する。 世界の気候区や土壤带・植生の特徴を理解し、人間生活との関わりを考察する。日本列島の地帯構造や地形、気候の特色について理解する。 農業地域区分と分類について理解し、自然条件との関わりを考察する。	世界の地形 世界の気候 日本の自然の特徴と人々の生活 環境問題	12 12 3	a 現代世界の地理的な諸問題に対する課題意識を高め、それを意欲的に追求しているか。 d 現代世界の地理的な諸課題についての基本的な事柄や追求の方法を理解し、その知識を身につけているか。 a 現代世界の地理的な諸問題に対する課題意識を高め、それを意欲的に追求しているか。 d 現代世界の地理的な諸課題についての基本的な事柄や追求の方法を理解し、その知識を身につけているか。
	6	自然環境				
	7					
	8					

2	9	資源と産業	産業の発達と変化について、自然環境とのかかわりやグローバル化の視点から考察する。 資源・エネルギー問題について、現代世界の資源・エネルギー問題を体感し、世界の資源をめぐる問題、エネルギー生産や消費の抱える課題、日本の資源・エネルギー問題を考察する。	産業の発達と変化 世界の農林水産業 食料問題 世界のエネルギーと鉱山資源	12	b 現代世界の地理的事象から課題を見出し、それに地域性を踏まえて考察する。また、国際社会の変化を踏まえて公正に判断しているか。 a 現代世界の地理的な諸問題に対する課題意識を高め、それを意欲的に追求しているか。
	10					
	11		資源分布や生産・消費について特徴を理解する。様々な工業の特色と立地条件について理解する。	資源・エネルギー問題 世界の工業 第3次産業 世界を結ぶ交通・通信 現在世界の貿易と経済圏	12	b 現代世界の地理的事象から課題を見出し、それに地域性を踏まえて考察する。また、国際社会の変化を踏まえて公正に判断しているか。 d 現代世界の地理的な諸課題についての基本的な事柄や追求の方法を理解し、その知識を身につけているか。
	12	人口・村落・都市	人々の生活の地域的差異、消費・余暇活動の影響、集落の立地条件や発達・形態による分類と特色を理解する。 村落と都市について、村落・都市の立地や発達・機能や、日本の都市の特徴を考察する。	世界の人口 人口問題 村落と都市	9	c 地図や統計などの諸資料を収集し、現代世界の地理的事象を追求する技能を身につけるとともに、考察した課程や結果を表現しているか。 d 現代世界の地理的な諸課題についての基本的な事柄や追求の方法を理解し、その知識を身につけているか。
3	1					
3	2	生活文化 民族・宗教	民族と宗教について、民族と言語、世界の宗教の分布や特徴、生活との関わりについて考察する。	生活文化 民族と宗教	9	a 現代世界の地理的な諸問題に対する課題意識を高め、それを意欲的に追求しているか。
	3			現代世界の国家 民族区分とは何か 地域区分の様々なスケール	9	b 現代世界の地理的事象から課題を見出し、それに地域性を踏まえて考察する。また、国際社会の変化を踏まえて公正に判断しているか。

教科名	数学	科目名	数学II	単位数	4 単位	
対象学年	第2学年	対象コース	志学コース(文系)	履修形態	必修	
科目の目標	図形と方程式、指數関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を育てる。					
学習内容の概要	(図形と方程式)座標や式を用いて、直線や円などの基本的な平面图形の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。 (指數関数・対数関数)指數関数及び対数関数について理解し、それらの事象の考察に活用できるようにする。 (三角関数)角の概念を一般角まで拡張して、三角関数及び三角関数の加法定理について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 (微分・積分の考え方)微分・積分の考え方について理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。					
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	A:数学への関心・意欲・態度	B:数学的な見方や考え方	C:数学的な表現・処理	D:数量・图形などについての知識・理解		
	図形と方程式、指數関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えにおける考え方に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする	図形と方程式、指數関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えにおいて、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通じて、数学的な見方や考え方を身に付けている。	図形と方程式、指數関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えにおいて、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能技術を身に付けている。	図形と方程式、指數関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考え方における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けている。		
教科書、教材など	教科書:改訂版 高等学校数学II(数研出版) 補助教材:チャート式 解法と演習数学II+B(数研出版)					
授業形態	講義・演習					
年間授業計画						
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価
	4	第3章 図形と方程式	座標や式を用いて、直線や円などの基本的な平面图形の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようする。	第1節 点と直線 1. 直線上の点 2. 平面上の点 3. 直線の方程式 4. 2直線の関係 問題	12	A/B/C/Dの総合評価
	5			第2節 円 5. 円の方程式 6. 円と直線 7. 2つの円 問題	12	
	6	第4章 三角関数	角の概念を一般角まで拡張して、三角関数及び三角関数の加法定理について理解し、それらを事象の考察に活用できるようする。	第3節 軌跡と領域 8. 軌跡と方程式 9. 不等式の表す領域 問題 章末問題	16	
	7			第1節 三角関数 1. 角の拡張 2. 三角関数 3. 三角関数のグラフ	16	

8			4	A/B/C/Dの総合評価	
9			16		
10	第5章 指数関数と対数関	指数関数及び対数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	16		
11	第6章 微分法と積分法	微分・積分の考え方について理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	16		
12			16		
1			8		
2			12		
3			12		

教科名	保健体育	科目名	体育	単位数	2 単位		
対象学年	第2学年	対象コース	志学コース	履修形態	必修		
科目の目標	各種運動の合理的な実践を通じて、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようとする。また、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。						
学習内容の概要	体づくり運動、体ほぐし、体力を高める運動、各種目における基本技能の習得、各種目のルール等の知識習得、生徒の自主性によるゲーム運営と安全への意識の向上。						
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	関心・意欲・態度	思考・判断	運動技能	知識・理解			
	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、自ら進んで計画的に運動しようとする。	自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指し、活動の仕方を考え、工夫している。	自己の能力と各種運動の特性に応じた技能を高め、体力向上のための合理的な行い方を身につけている。	運動の意義や必要性及び運動の特性と合理的な行い方を理解し、知識を身につけている。			
教科書、教材など	特になし						
授業形態	実技(男女別合併授業)						
年間授業計画							
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価	
1	4	オリエンテーション	年間計画を十分に理解し、授業に積極的に参加できるようとする。	授業の内容、方法、評価などについて説明する。	6	授業中の行動の観察	
	5	体育理論	スポーツの歴史、現代スポーツの特徴。	スポーツの歴史、技術、ドーピングについて学習。	6	授業中の行動の観察 評価テスト(総時数6時間) 授業中の行動の観察 実技テスト	
	6	体つくり運動	体つくり運動の特性を理解し、体をほぐしたり体力を高めたりする。	城北体操の習得。	8	診断テスト結果	
	7	新体力テスト	自己の体力と運動能力を把握する。	正しい測定を行い、自己の能力診断をする。	8	授業中の行動の観察 実技テスト	
	8	陸上競技	自己の能力に応じて運動技能を高め、競技したり記録を高める。	自己の能力や課題に応じて、目標を設定し、その解決に向けて練習する。	2	授業中の行動の観察 実技テスト	
	9	バレー・ボール	自己の能力に応じて運動技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようとする。	種目の特性を理解し、個人やチームの能力や課題を把握し、練習を工夫する。	8	授業中の行動の観察 実技テスト	
	10	ソフトボール	自己の能力に応じて運動技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようとする。	種目の特性を理解し、個人やチームの能力や課題を把握し、練習を工夫する。	8	授業中の行動の観察 実技テスト	
	11	サッカー	自己の能力に応じて運動技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようとする。	種目の特性を理解し、個人やチームの能力や課題を把握し、練習を工夫する。	8	授業中の行動の観察 実技テスト	
	12	バスケットボール	自己の能力に応じて運動技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようとする。	種目の特性を理解し、個人やチームの能力や課題を把握し、練習を工夫する。	8	授業中の行動の観察 実技テスト	
	3	1	バドミントン	自己の能力に応じて運動技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようとする。	種目の特性を理解し、個人やチームの能力や課題を把握し、練習を工夫する。	4	授業中の行動の観察 実技テスト
	2	3	ダンス	感情をこめて踊ったり、仲間と楽しく踊ったりし、発表できるようとする。	ダンスの特性を理解し、基本動作やリズム感、協調性を養うようとする。	6	授業中の行動の観察 作品の評価

※ 年間を通しての出席状況

教科名	芸術	科目名	音楽I	単位数	1単位		
対象学年	第2学年	対象コース	志学コース	履修形態	選択必修		
科目の目標	・音楽に対する興味・関心を深め、意欲的に音楽活動に取り組む態度を身に付ける。 ・音楽的感性・技能を身に付け、音楽の生み出す曲想やリズムなどの美しさを感じ取りながら表現する能力を養う。						
学習内容の概要	・音楽理論の基礎～音楽を学習する上での最も基礎的な音楽上の決り事について学習する。 ・実技～アルトリコーダーを使用し、独奏曲や二重奏曲をグループ学習で学ぶ。 ・鑑賞～バロック時代からの作曲家の紹介と、その作品を鑑賞する。 また、音楽に関わりの深い映画を鑑賞する。						
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	意欲・関心・態度	芸術的な感受や表現の工夫	創造的な表現の技能	鑑賞の能力			
教科書、教材など	MOUSA1(教育芸術社) アルトリコーダー						
授業形態	講義、実技、鑑賞						
年間授業計画							
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価	
1	4	オリエンテーション アルトリコーダー実技	B♭ C♯の運指を覚える。	二重奏「小さな木の実」	3	正確な運指と曲に合った表現がで演奏することができたか。	
	5	6	音楽の歴史と鑑賞	古典派の作曲家とその音楽を理解する。 映画により、モーツアルトについて深く知る。	ハイドン モーツアルト ベートーヴェン 「アマデウス」	3 4 4	作曲家の生い立ちや時代背景を理解し、作品を味わうことができたか。 モーツアルトについてより深く知ることができたか。
2	8	アルトリコーダー実技	読譜能力を高める。 レガート奏法を身につける。	二重奏「魔弾の射手」 二重奏「愛の喜び」	1 4	正確な運指と曲に合った表現がで演奏することができたか。	
	9	10	音楽の歴史と鑑賞	ロマン派の作曲家とその音楽を理解する。	シューベルト メンデルスゾーン J.シュトラウス ショパン 「陽のあたる教室」	4 4	作曲家の生い立ちや時代背景を理解し、作品を味わうことができたか。
	11	12	鑑賞	映画と映画中の音楽を味わう。		4	映画と映画中の音楽を味わうことができたか。
	3	1	アルトリコーダー実技 鑑賞	F♯ D♯の運指を覚える。 ロマン派の作曲家とその音楽を理解する。	二重奏「少年時代」 ドボルザク スマタナ	2 3 3	正確な運指と曲に合った表現がで演奏することができたか。 作曲家の生い立ちや時代背景を理解し、作品を味わうことができたか。

教科名	芸術	科目名	美術 I	単位数	1 単位	
対象学年	第 2 学年	対象コース	志学コース	履修形態	選択必修	
科目の目標	美術の幅広い活動を通して、生涯にわたり美を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、描写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、美術の伝統と文化についての理解を深める。					
学習内容の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・サンドアート制作…砂を使った絵画技法を学び作画を行う。 ・水墨画…墨についての学習を通じ様々な表現法を身に付け、創作活動に生かす。名画や完成作品の鑑賞、批評会などの言語活動も適宜行う。 					
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	意欲・関心・態度	芸術的な感受や表現の工夫	創造的な表現の技能	鑑賞の能力		
	美の創造的活動の喜びを味わい、美の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。	墨、色砂のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	創造的な色彩表現をするために、基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身に付け表している。	日常生活の美術の効用や美の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、美のよさや美しさを創造的に味わっている。		
教科書、教材など	高校生の美術 I (日本文教出版) スケッチブック、書道セット、サンドアートセット、和紙					
授業形態	講義、実技、鑑賞					
年間授業計画						
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価
1	4	オリエンテーション	前年の学習を振り返るとともに、美の藝術的要素を理解し表現する。 墨の技法について理解し、その特性を生かして作品に取り組む。	'墨を知ろう' '食べ物を描こう' '人物を描こう'	3	墨の特性を踏まえ、水墨画の藝術的要素を理解し、個性を活かした表現が出来たか。
	5	水墨画の世界①			3	墨の明暗を美しく表現し、濃淡の用法を身に付け、表現することが出来たか。
	6				4	
	7				4	
2	8	水墨画の世界②	有名画家の技法を学習し、その技法を異なった画材で行い作品に取り組む。 サンドアートの作品や表現の多様性を理解し、用法を身に付け、表現する。	'北斎漫画とは' '映像学習' '北斎になろう' '色砂に親しもう' '練習作品を作ろう'	1	映像の中から、その作者の技法を学び、表現することができたか。
	9				4	
	10	砂絵、サンドアートの世界①			4	砂絵の内容を踏まえ、砂の藝術的要素を理解し、個性を活かした表現が出来たか。また、練習作品の制作で、技法を身に着けることができたか。
	11				4	
	12				4	
3	1	砂絵、サンドアートの世界②	学習した技法を生かし、意図に応じた個性的な表現の工夫をする。	'オリジナル作品を描こう'	2	グラデーション、混色など、様々な技法を使い表現が出来たか。
	2				3	
	3				3	

教科名	芸術	科目名	書道I	単位数	1 単位
対象学年	第2学年	対象コース	志学コース	履修形態	選択必修
科目の目標	書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。				
学習内容の概要	<ul style="list-style-type: none"> 漢字仮名交じりの書…高校での古典臨書を生かし、感興や意図に応じた題材(書く言葉)の設定や創造的な作品制作を行う。 漢字の書…中国及び日本の名筆(古典作品)の臨書学習を通じ様々な表現法や用筆法を身に付け、創作活動に生かす。 仮名の書…日本の重要文化である仮名の発生と展開を理解し、また臨書学習を通じ様々な表現法や用筆法を身に付け、創作活動に生かす。 <p>古典や完成作品の鑑賞、批評会などの言語活動も適宜行う。</p>				
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	意欲・関心・態度	芸術的な感受や表現の工夫	創造的な表現の技能	鑑賞の能力	
	書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。	書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	創造的な書表現をするために、基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身に付け表している。	日常生活の書の効用や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっている。	
教科書、教材など	書I(教育図書) 鳥取城北高校選定筆、固形墨、半紙				
授業形態	講義、実技、鑑賞				

年間授業計画						
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価
1	4	漢字の書の学習① 【楷書の古典に学ぶ】	書の歴史や作者の人物像、表現の多様性を理解し、楷書の用筆法を身に付け、表現する。	【古典臨書】 ①顏氏家廟碑 ②鄭羲下碑 ③牛橛造像記 【創作】 古典を基にした一字創作	3 3 4	古典に関わる様々な背景を理解するとともに、唐代、北魏時代の楷書の用筆法を身に付け、表現することが出来たか。
	5 6 7	漢字の書の学習② 【行書の古典に学ぶ】	書の歴史や作者の人物像、表現の多様性を理解し、行書の用筆法を身に付け、表現する。	【古典臨書】 ①争坐位文稿	4	古典に関わる様々な背景を理解するとともに、行草書の用筆法を身に付け、表現することが出来たか。
2	8 9 10 11 12	漢字仮名交じりの書② 漢字の書の学習③ 【篆書・隸書の古典に学ぶ】 創作活動	・学習した古典の用筆法に基づいた表現を行う。 ・感興や意図に基づく個性的な表現の工夫を行う。 書の歴史や作者の人物像、表現の多様性を理解し、篆・隸書の用筆法を身に付け、表現する。	「自作の高校生短歌を書こう」 【古典臨書】 ①甲骨文②泰山刻石 ③曹全碑 書道カレンダーを作ろう	1 4 4 4 4	短歌制作に意欲的に取り組み、表現においては古典を基にした、感興や意図に応じた表現の工夫ができたか。 古典に関わる様々な背景を理解するとともに、篆書、隸書の用筆法を身に付け、表現することが出来たか。 題材の選定に工夫を凝らし、言葉の内容に沿った自分なりの表現が出来たか。
3	1 2 3	仮名の書の学習	・仮名の歴史や諸要素を理解する。 ・仮名の用筆法を身に付け、表現する。	基本点画練習 【古筆臨書】 ①高野切第3種 ②寸松庵色紙 【創作】 古筆を基にした半紙創作	2 3 3	日本独自の伝統文化であるかなの歴史や古典の背景を理解するとともに、仮名の基本的な用筆法を身に付け、表現することが出来たか。

教科名	外国語	科目名	コミュニケーション英語Ⅱ	単位数	5 単位	
対象学年	第2学年	対象コース	志学コース(文系)	履修形態	必修	
科目的目標		<p>英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。</p> <p>具体的な言語活動は以下の通り。</p> <p>ア. 事物に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。</p> <p>イ. 説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。また、聞き手に伝わるように音読する。</p> <p>ウ. 聞いたり読みだしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする。</p> <p>エ. 聞いたり読みだしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、簡潔に書く。</p>				
学習内容の概要		<p>(1)音読 意味の区切りで読む。(チャンクリーティング・リート'アント'ルックアップ・シャドーリング)</p> <p>(2)テキスト理解 「英語」を「英語」で理解する。</p> <p>(3)技能統合活動 読みだり、聞いたりした内容を話したり、書いたりする活動につなげていく。</p> <p>教科書の英文の内容を基本に発展的な自己表現活動を行う。</p> <p>(4)補充リーディング 教科書の本文の内容に関連する英文読解を行う。</p> <p>(5)発表活動 学習内容をベースに、次のような活動を行う。エッセイライティング、スピーチライティング、「要約ライティング」、グラフィックオーガナイザーを用いての口頭発表、意見発表、意見交換</p>				
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)		A:コミュニケーションへの関心・意欲・態度	B:外国語表現の能力	③外国語理解の能力	④言語や文化についての知識・理解	
		コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーション活動を図ろうとする。	外国語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。	外国語を聞いたり読みだりして、情報や考えなどを適切に理解している。	外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けているとともに、その背景にある文化などを理解している。	
教科書、教材など	LANDMARK English Communication II(啓林館)					
授業形態	講義・演習(学級単位による授業)					
年間授業計画						
学期	月	單元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価
1	4	Lesson1 I'm the Strongest!	<ul style="list-style-type: none"> 車いすテニスのルールを理解する。 慎吾が車いすテニス選手になるまでの経緯を理解する。 慎吾がどのようにスランプを克服したか理解する。 プロ車いすテニス選手としての慎吾の願いを理解する。 	完了形の分詞構文、受動態の分詞構文について理解する。	15	A [ア]言語活動への積極的な取り組み [イ]コミュニケーションを継続する努力 B [ア]正確さ(リズム・イントネーション・文法、情報の内容) [イ]適切さ(場面や状況に応じた表現、声の大きさ、速さ) C [ア]正確さ(リズム・イントネーション・文法などの知識を利用した理解) [イ]適切さ(場面や状況、目的に応じた聞き取り、読み取り) D [ア]言語についての知識 [イ]文化についての理解

5	Lesson2 Tokyo's Seven-minute Miracle	・新幹線の清掃員が7分間で行うことについて理解する。 ・清掃員が何と呼ばれているか、彼らのどのような点が評価されているか理解する。 ・清掃員に対する高い評価の背景を理解する。	強調のための倒置、形式目的語のitについて理解する。	15	A [ア]言語活動への積極的な取り組み [イ]コミュニケーションを継続する努力 B [ア]正確さ(リズム・イントネーション・文法。情報の内容) [イ]適切さ(場面や状況に応じた表現。声の大きさ、速さ) C [ア]正確さ(リズム・イントネーション・文法などの知識を利用した理解) [イ]適切さ(場面や状況、目的に応じた聞き取り、読み取り) D [ア]言語についての知識 [イ]文化についての理解
6	Lesson3 Saint Bernard Dogs	・セントバーナード犬の救助犬としての歴史を理解する。 ・優秀な救助犬、バリーの功績を理解する。 ・セントバーナード犬が壳りに出された経緯を理解する。	現在完了進行形、現在完了形の受動態、S+V+分詞について理解する。	20	A [ア]言語活動への積極的な取り組み [イ]コミュニケーションを継続する努力 B [ア]正確さ(リズム・イントネーション・文法。情報の内容) [イ]適切さ(場面や状況に応じた表現。声の大きさ、速さ) C [ア]正確さ(リズム・イントネーション・文法などの知識を利用した理解) [イ]適切さ(場面や状況、目的に応じた聞き取り、読み取り) D [ア]言語についての知識 [イ]文化についての理解
7 8	Lesson4 Chanel's Style	・IT業界とファッション業界、それぞれの革新者について理解する。 ・シャネルがシンプルで快適な服を作った時代背景について理解する。 ・シャネルが考案したファッション品を理解する。	S+V+分詞／S+V+O+分詞、付帯状況を表すwith+O+Cについて理解する。	20 5	A [ア]言語活動への積極的な取り組み [イ]コミュニケーションを継続する努力 B [ア]正確さ(リズム・イントネーション・文法。情報の内容) [イ]適切さ(場面や状況に応じた表現。声の大きさ、速さ) C [ア]正確さ(リズム・イントネーション・文法などの知識を利用した理解) [イ]適切さ(場面や状況、目的に応じた聞き取り、読み取り) D [ア]言語についての知識 [イ]文化についての理解
2	9	Lesson5 Science of Love	・なぜ人は恋をするのかの発表の概要を理解する。 ・子ども時代の経験、遺伝子、体内の化学物質、それぞれを理由とする3つの学説を理解する。	同格のthat節、疑問詞+do you think(+S)+V?について理解する。	20 A [ア]言語活動への積極的な取り組み [イ]コミュニケーションを継続する努力 B [ア]正確さ(リズム・イントネーション・文法。情報の内容) [イ]適切さ(場面や状況に応じた表現。声の大きさ、速さ) C [ア]正確さ(リズム・イントネーション・文法などの知識を利用した理解) [イ]適切さ(場面や状況、目的に応じた聞き取り、読み取り) D [ア]言語についての知識 [イ]文化についての理解

	10	Lesson6 Gaudi and His Messenger	<ul style="list-style-type: none"> ・ガウディーとサグラダ・ファミリアの歴史を理解する。 ・外尾が専任彫刻家になるまでの経緯を理解する。 ・外尾が述べる、ガウディーの信条について理解する。 	関係副詞の非限定用法, if節を用いない仮定法について理解する。	20	<p>A [ア]言語活動への積極的な取り組み [イ]コミュニケーションを継続する努力 B [ア]正確さ(リズム・イントネーション・文法。情報の内容) [イ]適切さ(場面や状況に応じた表現。声の大きさ, 速さ) C [ア]正確さ(リズム・イントネーション・文法などの知識を利用した理解) [イ]適切さ(場面や状況, 目的に応じた聞き取り, 読み取り) D [ア]言語についての知識 [イ]文化についての理解</p>
	11	Lesson7 Letters from a Battlefield	<ul style="list-style-type: none"> ・硫黄島の戦いや、栗林中将の作戦について理解する。 ・硫黄島から兵士が家族に宛てた手紙について理解する。 ・レッスン本文を読んでのエッセイを書く。 	譲歩を表す複合関係詞, 動名詞の意味上の主語について理解する。	20	<p>A [ア]言語活動への積極的な取り組み [イ]コミュニケーションを継続する努力 B [ア]正確さ(リズム・イントネーション・文法。情報の内容) [イ]適切さ(場面や状況に応じた表現。声の大きさ, 速さ) C [ア]正確さ(リズム・イントネーション・文法などの知識を利用した理解) [イ]適切さ(場面や状況, 目的に応じた聞き取り, 読み取り) D [ア]言語についての知識 [イ]文化についての理解</p>
	12	Lesson8 Edo:A Sustainable Society	<ul style="list-style-type: none"> ・今日のごみ問題について理解する。 ・江戸時代の循環型社会について理解する。 ・江戸時代の自然環境と生活水準の変化を理解する。 ・江戸時代の循環型社会が成功した理由を理解する。 	注意すべき関係代名詞の非限定用法, 独立分詞構文について理解する。	20	<p>A [ア]言語活動への積極的な取り組み [イ]コミュニケーションを継続する努力 B [ア]正確さ(リズム・イントネーション・文法。情報の内容) [イ]適切さ(場面や状況に応じた表現。声の大きさ, 速さ) C [ア]正確さ(リズム・イントネーション・文法などの知識を利用した理解) [イ]適切さ(場面や状況, 目的に応じた聞き取り, 読み取り) D [ア]言語についての知識 [イ]文化についての理解</p>
3	1	Lesson9 AI and Our Future	<ul style="list-style-type: none"> ・AIとは何か理解する。 ・「ディープ・ラーニング」を用いてAIができることについて理解する。 ・AIがもたらしうる利点について理解する。 ・AIの潜在的な危険性について理解する。 ・AIについて意見交換する。 	as if[though]+仮定法, 助動詞+have+過去分詞について理解する	10	<p>A [ア]言語活動への積極的な取り組み [イ]コミュニケーションを継続する努力 B [ア]正確さ(リズム・イントネーション・文法。情報の内容) [イ]適切さ(場面や状況に応じた表現。声の大きさ, 速さ) C [ア]正確さ(リズム・イントネーション・文法などの知識を利用した理解) [イ]適切さ(場面や状況, 目的に応じた聞き取り, 読み取り) D [ア]言語についての知識 [イ]文化についての理解</p>

	2	Lesson10 Bhutan: A Happy Country	<ul style="list-style-type: none"> ・震災後の日本を訪れたブータン国王夫妻について理解する。 ・ブータンの地理と歴史を理解する。 ・ブータンの国民総幸福量への捉え方について理解する。 	強調構文、副詞節中の<S+be>の省略について理解する。	15	<p>A [ア]言語活動への積極的な取り組み [イ]コミュニケーションを継続する努力 B [ア]正確さ(リズム・インтоーション・文法。情報の内容) [イ]適切さ(場面や状況に応じた表現。声の大きさ, 速さ) C [ア]正確さ(リズム・インтоーション・文法などの知識を利用した理解) [イ]適切さ(場面や状況, 目的に応じた聞き取り, 読み取り) D [ア]言語についての知識 [イ]文化についての理解</p>
	3	Reading3 My Education, My future	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の教育に対して責任を持つことについて理解する。 ・同世代の高校生や有名人がどのように難題に取り組み, 成功したか理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どのような目的のため勉強しているか書く。 	15	<p>A [ア]言語活動への積極的な取り組み [イ]コミュニケーションを継続する努力 B [ア]正確さ(リズム・インтоーション・文法。情報の内容) [イ]適切さ(場面や状況に応じた表現。声の大きさ, 速さ) C [ア]正確さ(リズム・インтоーション・文法などの知識を利用した理解) [イ]適切さ(場面や状況, 目的に応じた聞き取り, 読み取り) D [ア]言語についての知識 [イ]文化についての理解</p>

教科名	地理歴史	科目名	世界史B	単位数	4 単位
対象学年	第2学年	対象コース	志学コース(地歴B2科目選択者)	履修形態	選択必修
科目の目標	世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。				
学習内容の概要	<p>1. 身近なものや日常生活にかかわる主題、我が国の歴史にかかわる主題など、適切な主題を設定し追究する学習を通して、歴史に対する関心と世界史学習への意欲を高める。</p> <p>2. 人類は各地の自然環境に適応しながら農耕や牧畜を基礎とする諸文明を築き上げ、やがてそれらを基により大きな地域世界を形成したことを把握させる。</p> <p>3. ヨーラシアの内陸及び海域のネットワークを背景に、諸地域世界の交流が一段と活発になり、新たな地域世界の形成や再編を促したことを探る。</p> <p>4. アジアの繁栄とヨーロッパの拡大を背景に、諸地域世界の結合が一層進んだことを把握するとともに、主権国家体制を整え工業化を達成したヨーロッパの進出により、世界の構造化と社会の変容が促されたことを理解させる。</p> <p>5. 科学技術の発達や生産力の著しい発展を背景に、現代世界は地球規模で一体化し、相互依存を強めたことを理解させる。また、国際対立と国際協調、科学技術と現代文明などの観点から20世紀の歴史の特質を考察させ、未来を展望させる。</p>				
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	a. 関心・意欲・態度	b. 思考・判断・表現	c. 資料活用の技能	d. 知識・理解	
	世界の歴史の大きな枠組みと流れに対する関心と課題意識を高め、意欲的に追及するとともに、国際社会を主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとする。	世界の歴史から課題を見出し、文化の多様性と現代社会の特質を世界的視野に立って多角的・多面的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断する。	世界の歴史についての諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を身につけるとともに、追及し考察する過程や結果を適切に表現する。	世界の歴史についての基本的な事柄を、我が国の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。	

教科書: 詳説世界史B(山川出版)
補助教材: 新詳世界史図説(浜島書店)・新世界史研究ノート応用編(啓隆社)

授業形態: 講義・演習(学級単位による授業)

年間授業計画

学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価
1	4	世界史のとびら 序章 先史の世界 第1章 オリエントと地中海世界	・世界史学習への関心・意欲を喚起する。 ・人類の進化の過程を把握する。 ・オリエントの古代文明の成立、ギリシア・ローマの発展過程を理解する。	・気候変動と人類の生活・漂流民・砂糖から見た歴史を学ぶ。 ・人類の起源と文明の誕生を学ぶ。 ・メソポタミア、エジプトを中心にオリエント世界の特質やギリシア・ローマ世界の特質を理解させる。	12	a. 諸地域世界に対する関心と改題意識を持ち、各世界の形成過程を意欲的に追及しようとしているか。 b. 諸地域世界の歴史について多角的・多面的に考察し、歴史的意義を的確・公正に判断しているか。
	5				12	c. 諸地域世界に対する資料を活用して、追及し考察した過程や結果を適切に表現できるか。
	6	第2章 アジア・アメリカの古代文明	・古代インド史の特質を仏教を中心に理解する。 ・中国の古代文明から秦・漢の国家形成を理解する。 ・古アメリカ文明の特徴を理解する。	・東南アジア・インド文明の形成を理解させる。 ・中国において、文明の起源から漢帝国までの動向を理解する。 ・南北アメリカ文明の特徴を理解させる。	16	d. 諸地域世界の形成過程を理解し、基礎的な知識を身につけているか。

1	7	第3章 内陸アジア世界・東アジア世界の形成	<ul style="list-style-type: none"> スキタイ、匈奴などの騎馬民族のユーラシア世界における役割を理解する。 隋や唐の中央集権的国家の形成について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 10世紀までの騎馬遊牧民の活動を理解させる。 東アジア北方民族の興亡と魏晋南北朝から島までの東アジア文化圏形成の流れを理解させる。 	16	<ul style="list-style-type: none"> a. 諸地域世界の形成過程を理解し、基本的な知識を身につけているか。 b. 諸地域世界の歴史について多角的・多面的に考察し、歴史的意義を的確・公正に判断しているか。 c. 諸地域世界に対する資料を活用して、追及し考察した過程や結果を適切に表現できるか。 d. 諸地域世界の交流と再編を理解し、その知識を理解しているか。
2	8	第4章 イスラーム世界の形成と発展	<ul style="list-style-type: none"> イスラーム教成立の経過およびイスラーム世界について理解する。 イスラーム文化の世界史的意義について認識する。 	<ul style="list-style-type: none"> アラブ人とイスラーム帝国の発展、トルコ系民族の活動、南アジア・アフリカのイスラーム化について認識し、イスラーム世界の形成・拡大の過程を把握し、理解させる。 	4	
	9				16	
10		第5章 ヨーロッパ世界の形成と発展	<ul style="list-style-type: none"> 中世ヨーロッパ世界の形成と発展、特徴について理解する。 		16	
11		第6章 内陸アジア世界・東アジア世界の展開	<ul style="list-style-type: none"> ユーラシア東西交流におけるモンゴル帝国の歴史的意義について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ビザンツ帝国の特色、西ヨーロッパ封建社会の形成とキリスト教の関係を理解させる。 内陸アジアで活躍したトルコ系民族の活動および国家形成を把握させる。 モンゴル帝国によるユーラシア大陸の一体化を理解させる。 	16	
12		第7章 アジア諸地域の繁栄	<ul style="list-style-type: none"> 明の社会・経済、文化の発展、清の統治体制の特徴を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 明および清帝国と朝鮮や日本との関係、東南アジア世界、イスラーム世界の動向を知り、その関係性を理解させる。 	16	<ul style="list-style-type: none"> a. 一体化する世界を理解し、社会の変化について意欲的に追及しようとしているか。 b. 一体化する世界について、多角的・多面的に考察し、歴史的意義を的確・公正に判断しているか。 c. 一体化する世界に関する資料を活用して、追及し考察した過程や結果を適切に表現できるか。 d. 一体化する世界を理解し、社会の変化について基本的な知識を身につけているか。
3	1	第8章 近世ヨーロッパ世界の形成	<ul style="list-style-type: none"> 主権国家体制の成立や宗教改革など、大きなヨーロッパにおける動きを、当時の国際関係中に位置付けながら理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 大航海時代やルネサンス、宗教改革を通してヨーロッパ世界の拡大と変革を理解させるとともに、主権国家体制の成立と国際秩序の形成の過程を理解させる。 	8	
	2				12	
	3	第9章 近代ヨーロッパ世界の展開	<ul style="list-style-type: none"> オランダの海洋霸権やイギリス、フランスの台頭、プロイセンの強国化、ロシアの台頭について国際関係を踏まえて理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 主権国家が採用した重商主義政策との結果でもある国際関係とその対立、発生した戦争とその後について理解させる。 	12	

教科名	地理歴史	科目名	地理A	単位数	2 単位	
対象学年	第2学年	対象コース	志学コース	履修形態	選択必修	
科目の目標	1 地理への興味・関心を持ち、主体的に学習する態度を育てる。 2 現代世界についての地理的な認識をいっそう深めるとともに、国際社会における立場と役割を考えさせる。					
学習内容の概要	現代世界の地理的な諸課題を地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。					
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	関心・意欲・態度		思考・判断	技能・表現	知識・理解	
	現代世界の地形的な諸課題に対する関心と課題意識を高め追求し、国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとする。		現代社会の地理的事象から課題を見いだし、それを多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえて公正に判断する。	地図や統計などの諸資料を集め、有用な情報を選択、活用できるようにする。	現代世界の地理的な諸課題について基本的な事柄の追求の方針を理解し、その知識を身につけている。	
教科書、教材など	高等学校新地理A 初訂版(帝国書院)、新詳高等地図 初訂版(帝国書院)					
授業形態	講義・演習(学級単位による授業)					
年間授業計画						
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価
1	4	第1部 1章 1節 1 地上の現象と地球上の位置 2 経度の違いと時差 3 球面と平面の世界 4 国家の領域と国境 5 日本の領域と領土問題	地図上の位置と国家について理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・緯度や経度の基本的なしくみと、時差のしくみについて理解する ・地球を地図におきかえるさまざまな図法について理解する ・国家の領土・領空・領海の範囲について理解する ・日本の位置と排他的経済水域の範囲や資源の利用について理解する ・国家間の結びつきが軍事的結合から経済的結合へと変化したことを理解する ・航空交通の発達により、地球規模での国際交流が活発化したことを探る ・日本における観光の国際化について理解する 	6	時差のしくみや時差と日常生活との関連をふまえて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。
	5	2節 1 結びつきを強める現代世界 2 世界を結ぶ交通 3 世界を一つに結ぶ通信 4 拡大する世界の貿易 5 観光の国際化と人々の移動	グローバル化が進む世界について理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・国家の領域とさまざまな国境についての基本的な事がらを理解し、それらの知識を身につけている。 ・結びつきを強める現代社会に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。 ・国際的な観光の広がりについての基本的な事がらや追究の方針を理解し、その知識を身につけている。 	6	

	2章 1節 生活に影響を与える環境条件とは	生活に影響を与える環境条件について理解する	・自然環境と社会環境について理解する	世界の人々の生活・文化は、自然環境や社会環境と深く関わって成り立っていることを理解し、その知識を身につけています。人々の生活と地形に関する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。
6	2節 1さまざまに変化する大地と生活 2世界の大地形と人々の生活 3山地・平野の地形と人々の生活 4海岸の地形と人々の生活 5氷河地形・カルスト地形・乾燥地形と人々の生活	人々の生活と地形について理解する	・地形を形成する内的營力と外的營力について理解する ・河川がつくる山地・平野の地形の種類や特徴と人々の生活との関係を理解する ・海岸でみられる地形の特徴と、人々の生活との関わりについて理解する ・氷河地形・カルスト地形・乾燥地形の特徴や人々の生活との関わりについて理解する	8 山地・平野・海岸・氷河・カルスト・乾燥地形と人々の生活との関わりについての基本的な事がらや追究の方法を理解し、その知識を身につけています。
7	3節 1生活と気候のかかわり 2熱帯の気候と人々の生活 3乾燥帯の気候と人々の生活 4温帯の気候と人々の生活 5亜寒帯・寒帯の気候と人々の生活	人々の生活と気候について理解する	・気候の特徴と人間生活との関わりについて理解する ・各気候区の分布や特徴を理解する	8 気温・降水量・などの気候要素についての基本的な事がらや追究の方法を理解し、その知識を身につけています。 各気候帯に暮らす人々の生活についての基本的な事がらや追究の方法を理解し、その知識を身につけています。
2	4節 1生活を支える世界の農業 2生活を支える世界の工業	人々の生活と産業について理解する	・農業の発達と自給的農業・商業的農業について理解する ・さまざまな製品をつくる工業の発達と種類について理解する	8 生活を支える世界の農業、工業に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。
8	5節 1生活と宗教・言語のかかわり 2生活・文化のグローバル化	人々の生活と文化について理解する	・世界の三大宗教をはじめとする宗教の特徴や、宗教と人々の生活との関わりを理解する ・グローバル化が進む世界について、その影響を理解する	2 生活・文化的グローバル化をめぐる諸課題についての基本的な事がらや追究の方法を理解し、その知識を身につけています。
9	3章 1節 1中国の自然環境 2中国の歴史と社会 313億人の食を支える農業農民 4急進する工業と資源・環境 5生活の変化と格差の拡大	中国の生活と文化について理解する	・中国の社会が日本どのように異なるかを理解する ・気候と農業との関係と、地域により異なる食文化について理解する ・工業化の変遷とその背景について理解する	8 中国の内陸部と沿岸部、北部と南部の自然環境の違いについて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 中国的経済発展や地域格差についての基本的な事がらや追究の方法を理解し、その知識を身につけています。

	<p>2節</p> <p>1 朝鮮半島の自然環境 2 韓国の歴史と日本との交流 3 産業の発展と生活の変化</p>	韓国の生活と文化について理解する	韓国の歴史や文化について、日本との関わりをふまえながら基本的な事がらや追究の方法を理解し、その知識を身につけている。
	<p>3節</p> <p>1 東南アジアの自然環境 2 東南アジアの歴史と民族 3 東南アジアの農業とその変化 4 工業の発展とASEAN</p>	東南アジアの生活と文化について理解する	東南アジアの歴史と民族に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。東南アジアの工業化について、モノカルチャー経済からの脱却やASEANの役割をふまえて、基本的な事がらや追究の方法を理解し、その知識を身につけている。
10	<p>4節</p> <p>1 インドとその周辺の自然環境 2 インド世界の歩みとヒンドゥー教 3 インドの産業の発展</p>	インドの生活と文化について理解する	インドとその周辺の自然環境の特徴について、山脈の位置や季節風(モンスーン)の影響と関連させながら基本的な事がらや追究の方法を理解し、その知識を身につけている。
	<p>5節</p> <p>1 中央アジア・西アジア・北アフリカの自然環境 2 地域の歴史とムスリムの生活 3 豊かな石油資源と人々の生活</p>	中央アジア・西アジア・北アフリカの生活と文化について理解する	8 イスラームと人々の生活との関わりについて基本的な事がらや追究の方法を理解し、その知識を身につけている。 豊かな石油資源と人々の生活について基本的な事がらや追究の方法を理解し、その知識を身につけている。
	<p>6節</p> <p>1 サハラ以南のアフリカの自然環境 2 サハラ以南のアフリカの歴史と文化 3 変わるサハラ以南のアフリカ</p>	サハラ以南のアフリカの生活と文化について理解する	サハラ以南のアフリカの歴史とさまざまな民族の伝統的・文化について、基本的な事がらや追究の方法を理解し、その知識を身につけている。
	<p>7節</p> <p>1 ヨーロッパの自然環境 2 ヨーロッパの歩みと文化 3 ヨーロッパの産業 4 ヨーロッパの統合 5 統合による影響と課題</p>	ヨーロッパの生活と文化について理解する	ヨーロッパの自然環境について、高緯度の割に温暖な気候や地域により異なる地形のようすをふまえ、基本的な事がらや追究の方法を理解し、その知識を身につけている。

	<p>8節</p> <p>1 ロシアとその周辺の自然環境 2 ロシアの歴史と社会の変化 3 ロシアの産業と日本との結びつき</p> <p>9節</p> <p>1 アメリカ合衆国との周辺の自然環境 2 移民の歴史と多文化社会 3 大規模な農業とアグリビジネス 4 先端技術産業の発展と工業の変化</p> <p>10節</p> <p>1 ラテンアメリカの自然環境 2 混血社会と多様な文化 3 ラテンアメリカの産業とその変化</p> <p>11節</p> <p>1 オーストラリアとその周辺の自然環境 2 オーストラリアの結びつきの変化 3 自然を生かした産業</p> <p>4章 1節 1 地球的課題の特性とその解決</p> <p>2節 1 さまざまな環境問題 2 热帯林の破壊とその解決 3 地球温暖化の現状と対策</p> <p>3節 1 限りある資源・エネルギー</p>	<p>ロシアの生活と文化について理解する</p> <p>アメリカ合衆国の生活と文化について理解する</p> <p>ラテンアメリカの生活と文化について理解する</p> <p>オーストラリアの生活と文化について理解する</p> <p>複雑にからみ合う地球的課題について理解する</p> <p>世界の環境問題について理解する</p> <p>世界の資源・エネルギー問題について理解する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ロシアの自然環境の特徴を理解する ・経済を支える資源をめぐる動きや、外国企業との関係について理解する ・自然環境に適した農業地域の特徴とその背景について理解する ・アメリカ合衆国の先端技術産業が世界をリードしている背景を理解する ・ラテンアメリカの自然環境について理解する ・大土地所有制と農業の変化について理解する ・オーストラリアとその周辺の自然環境について理解する ・自然環境に適した農業が行われていることを理解する ・地球規模で直面している深刻な課題について、どのような地域的特徴があるかを理解する ・世界で起こるさまざまな環境問題について理解する ・地球温暖化によってどのような問題が発生するのか理解する ・世界の資源やエネルギーはどこで生産、消費されているかを理解する 	<p>ロシアの産業と日本との結びつきについて、ロシア経済を支える資源をめぐる動きや外国企業との関係をふまえ、基本的な事がらや追究の方法を理解し、その知識を身につけている。</p> <p>アメリカ合衆国の工業の変遷や先端技術産業の発展と地域経済統合について、基本的な事がらや追究の方法を理解し、その知識を身につけている。</p> <p>ラテンアメリカの産業についての基本的な事がらや追究の方法を理解し、その知識を身につけている。</p> <p>オーストラリアとその周辺の自然環境についての基本的な事がらや追究の方法を理解し、その知識を身につけている。</p> <p>オーストラリアの自然を生かした産業についての基本的な事がらや追究の方法を理解し、その知識を身につけている。</p> <p>複雑にからみ合う地球的課題について、その背景にある先進国と発展途上国との経済格差などに着目し、基本的な事がらや追究の方法を理解し、その知識を身につけている。</p> <p>さまざまな環境問題とその解決に向けた取り組みについての基本的な事がらや追究の方法を理解し、その知識を身につけている。</p> <p>資源・エネルギーをめぐる問題とその対策や今後のエネルギーのあり方についての基本的な事がらや追究の方法を理解し、その知識を身につけている。</p>	<p>8</p> <p>8</p>
12					

		4節 1 人口増加と少子化・高齢化 2 地域で異なる人口問題	世界の人口問題について理解する	・地域による人口問題の違いやその背景を理解する	世界の人口問題に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている
		5節 飢餓と飽食	世界の食料問題について理解する	・世界の食料生産・消費には著しいかたよりがあることを理解する	世界の食料をめぐる課題について、生産と消費の著しいかたよりに着目し、その解決に向けた取り組みなどについて、基本的な事がらや追究の方法を理解し、その知識を身につけている。
3	1	6節 1 都市への人口集中と諸問題 2 地域で異なる都市・居住問題	世界の都市・居住問題について理解する	・都市への人口集中が世界的に進んだ背景と、どのような都市問題が発生しているのか理解する	4 世界の都市・居住問題とその解決に向けた取り組みについて、基本的な事がらや追究の方法を理解し、その知識を身につけている。
		第2部 1章 1 身近な地図とその特色 2 GISのしくみと使える技術 3 GIS技術の活用と地図 4 目的に合わせた地図の作成	身近にあるさまざまな地図について理解する	・身のまわりには、さまざまな一般図と主題図があることを理解する ・GISやGPSのしくみについて理解する ・情報を地図化する方法を習得し、自分で地図を作成する	身のまわりに普及するGISを用いた技術の活用について紙地図と比較しながら、基本的な事がらや追究の方法を理解し、その知識を身につけている。 自分で地図を作成することへの関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究している。
	2	2章 1 日本の自然環境 2 火山災害と防災 3 地震被害と防災 4 風水害と防災 5 身近な地域の防災を考える	日本の自然環境と防災について理解する	・日本の地形や気候の特徴を捉え、その自然環境がどのような自然災害と結びつくか理解する ・梅雨や台風の時期に発生しやすい風水害の種類と防災について理解する	6 身近な地域で発生しやすい災害を捉え、自分たちにできることを考察し、その知識を身につけている。
	3	3章 1 地域を調べる課題の設定 2 調査の調査 3 調査内容の発表	身近な地域の課題と地域調査	・地域調査を行うためには、目的やテーマをはっきりさせることができ大切であることを理解する ・調査内容のまとめ方や発表方法を習得し、実践する	6 調査発表に資する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 調査内容のまとめ方や発表方法についての基本的な事がらや追究の方法を理解し、その知識を身につけている。

教科名	地理歴史	科目名	世界史A	単位数	2 単位
対象学年	第2学年	対象コース	志学コース(文・理)	履修形態	選択必修
科目の目標	1 近現代史を中心とする世界の歴史を、わが国の歴史と関連付けながら理解させる。 2 人類が直面する課題を政治・経済・文化・生活など様々な観点から考察させることによって、歴史的思考力を育てる。 3 国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を育成する。				
学習内容の概要	近世以前の諸地域世界の特質をつかんだ上で、大航海時代を背景にアジア世界とヨーロッパ世界が接触や交流・進出を深め世界が一体化に向かいはじめる状況を概略的に把握する。また、近現代史以降一体化がさらに進んでいく状況を、わが国と関連付けながら歴史的に理解し、あわせて人類の今後の課題について具体的に考察する。				
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	a.関心・意欲・態度 近現代史を中心とする世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求するとともに、国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとしている。	b.思考・判断・表現 近現代史を中心とする世界の歴史から課題を見出し、世界史的視野にたって多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断している。	c.資料活用の技能 近現代史を中心とする世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追求する方法を身につけるとともに、追及し考察した過程や結果を適切に表現している。	d.知識・理解 近現代史を中心とする世界の歴史についての基本的な事柄を、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身につけている。	
教科書、教材など	教科書 明解 世界史A (帝国書院) 副教材 明解 世界史Aノート (帝国書院)				
授業形態	講義形式・グループ学習(学級単位による授業)				
年間授業計画					
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間
1	4	1部 世界の一体化と日本 1章 前近代の諸文明 序節 人類の始まり 1節 東アジアの文明	各地域世界が形づくられていく過程を理解する。 東アジアを通して、日本を含む東アジアの文明の特質を理解する。	人類の登場と、農耕・牧畜による食料生産革命。人類が文明を築き、歴史時代へはいっていくありさまを概観。 東アジアの風土と諸民族、封建制度、漢字文化圏、儒教思想、律令体制、文治主義、冊封体制。	6 【関】食料生産革命、文明の成立などについて関心を高め、意欲的に追究するとともに、人類史について考えようとしている。 【思】この時代について考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】先史時代について概観し、人間の進化を把握するとともに、基本的知識を身につけている。 【関】東アジアについて関心を高め、意欲的に追究するとともに、東アジアの特質について考えようとしている。 【思】考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】日本を含む東アジアの文明の特質を構造的視野から把握し、基本的知識を身につけている。

	5	2節 南アジアの文 3節 東南アジア 4節 西アジア・北ア フリカの文明	南アジアの文明の特質を理解する。 東南アジアの特質を理解する。 西アジア・北アフリカの文明の特質を理解する。	南アジアの風土と諸民族と宗教。仏教、ヒンドゥー教、イスラームの影響。 自然環境や地理的位置に着目。インドと中国の両文明の影響の様子。それぞれの地域での多様な社会と文化。 西アジア・北アフリカの風土と諸民族。イスラームの成立と拡大・分裂。	6	【関】南アジアについて関心を高め、意欲的に追究するとともに、南アジアの特質について考えようとしている。 【思】考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】南アジアの文明の特質を構造的視野から把握し、基本的知識を身につけている。 【関】東南アジアについて関心を高め、意欲的に追究するとともに、東南アジア世界の特質について考えようとしている。 【思】考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】東南アジアの特質を構造的視野から把握し、基本的知識を身につけている。
	6	5節 ヨーロッパの文 明 6節 南北アメリカの 文明	ヨーロッパの文明の特質を理解する。 南北アメリカ大陸において独自の文化が築かれていたことを理解する。	ヨーロッパの風土と諸民族。ギリシア・ローマ文明の伝統。キリスト教の発展。封建社会。 南北アメリカ大陸の風土と先住民。ヨーロッパが進出する以前の南北アメリカ大陸独自の文化。	8	【関】ヨーロッパについて関心を高め、意欲的に追究するとともに、ヨーロッパ文明の特質について考えようとしている。 【思】考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】ヨーロッパの文明の特質を構造的視野から把握し、基本的知識を身につけている。 【関】南北アメリカの独自の文明に対する関心を高め、意欲的に追究するとともに、特質について考えようとしている。 【思】特質を考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】南北アメリカの文明の特質を構造的視野から把握し、基本的知識を身につけている。
		7節 ユーラシアの 交流圏	ユーラシアの交流圏が成立していくようすを巨視的かつ視覚的に把握し、相互の文化受容の進展について理解する。	ユーラシア規模の交流圏が成立していくようす。		【関】ユーラシアの交流圏に対する関心を高め、意欲的に追究し、考えようとしている。 【思】考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】ユーラシア規模の交流圏の成立とそれを支えた内陸および海域(都市や港市)のネットワークを把握し、基本的知識を身につけている。

	7	2章 一体化に向かう世界 1節 繁栄するアジア	アジア諸地域の安定した支配と経済の繁栄を背景に、文化も黄金時代を迎えたことを理解する。	アジアのティムール・オスマン・ムガル・明・清などの諸帝国の政治と社会と文化。	8	【関】アジア諸地域に対する関心を高め、意欲的に追究し、その特色について考えようとしている。 【思】考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】成熟期を迎えたアジア諸地域の特色を理解し、その知識を身につけている。
2	8	2節 大航海時代と新たな国家の形成	16世紀頃から始まつた世界の一体化への動きと新たなヨーロッパのわく組みとなった主権国家体制の形成について理解する。	ルネサンスと宗教改革、新航路の開拓。16世紀頃から始まつた主権国家体制の形成。	2	【関】16～18世紀にかけてのヨーロッパ世界に対する関心を高め意欲的に追究し、考察しようとしている。 【思】考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】ヨーロッパではルネサンスと宗教改革、新航路の開拓を経て主権国家体制が形成され、アメリカではヨーロッパ人による征服と入植・開発が先住民社会の変質を余儀なくしたこと、またアジア貿易への参入やメキシコ銀の流入がヨーロッパ経済の成長と転換をもたらしたことを把握し、その知識を身につけている。
	9	3章 欧米の工業化とアジア諸国 の動搖 1節 ヨーロッパとアメリカの諸革命	市民社会および国民国家の形成が進行したことを理解する。	アメリカ諸国の独立、フランス革命、産業革命。西ヨーロッパとアメリカの産業社会。	8	【関】18世紀後半から19世紀にかけてのヨーロッパとアメリカの諸革命に対する関心を高め、意欲的に追究し近代世界が確立したことについて考えようとしている。 【思】社会の産業化と国民国家の形成により近代世界が確立したことを見直して、一連の思考の過程を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用して、社会の産業化と国民国家の形成により近代世界が確立したことを見直す技能を身につけている。 【知】18世紀後半から19世紀にかけてのヨーロッパとアメリカの諸革命について理解し、その知識を身につけている。
10	2節 自由主義・ナショナリズムの進展	自由主義とナショナリズムが進展していくようすとアメリカの発展について理解する。	19世紀後半のヨーロッパ、アメリカ社会。	19世紀後半のヨーロッパ、アメリカ社会。	8	【関】1848年頃に関心を持ち、意欲的に追究し、考えようとしている。 【思】1848年頃を考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】1848年頃のを資料を収集し、適切に活用する技能を身につけている。 【知】1848年を転換点として、自由主義とナショナリズムが進展したことを理解し、その知識を身につけている。
	3節 アジア諸国の動搖	アジア諸国の動搖のようすを理解する。	オスマン帝国の弱体化やムガル帝国の崩壊。ヨーロッパ諸国のアジア進出とアジア諸国の状況。植民地化や従属化の過程での抵抗と挫折。伝統文化の変容。	オスマン帝国の弱体化やムガル帝国の崩壊。ヨーロッパ諸国のアジア進出とアジア諸国の状況。植民地化や従属化の過程での抵抗と挫折。伝統文化の変容。		【関】ヨーロッパの進出によって引き起こされた変貌に対する関心を高め、意欲的に追究するとともに、その特質について考えようとしている。 【思】考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】ヨーロッパ諸国のアジア進出とアジア諸国の状況など、アジア諸国の動搖を理解し、その知識を身につけている。

	11	4節 東アジアの大変動 2部 地球社会と日本 1章 現代世界の芽ばえと世界大戦 1節 現在につながる社会の形成	東アジアの大変動を理解する。 20世紀といふ時代の特質を把握するとともに、世界の支配・従属関係を伴う一体化と社会の変容を理解する。	アヘン戦争やアロー戦争。東アジアの伝統的な国際秩序が崩壊していく過程。ヨーロッパ諸国の東アジア進出と東アジア諸国の状況。半植民地化や従属化の過程での抵抗と挫折。 交通革命。マスメディアの発達。企業や国家の巨大化。社会の大衆化と政治や文化の変容。公教育の普及と国民統合。世界の変容。	8	【問】ヨーロッパの進出によって引き起こされた変貌に対する关心を高め、意欲的に追究するとともに、その特質について考えようとしている。 【思】考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】ヨーロッパ諸国の東アジア進出と東アジア諸国の状況、半植民地化や従属化の過程での抵抗と挫折、その中の日本の対応など、東アジアのようすを理解しその知識を身につけている。 【問】19世紀社会の急激な変化と世界の一体化に対する关心を高め、意欲的に追究するとともに、その特質を人類史的視野から考えようとしている。 【思】考察し、判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し、適切に活用する技能を身につけている。 【知】20世紀といふ時代の特質を人類史的視野から把握するとともに、人口移動から世界の支配・従属関係を伴う一体化と社会の変容を理解しその知識を身につけている。
	12	2節 第一次世界大戦がもたらしたもの	20世紀初頭の変化の様相を理解する。	第一次世界大戦。ロシア革命、ソヴィエト連邦の成立。戦争と革命による国際秩序の変化。アメリカの大衆生活とその波及。	8	【問】第一次世界大戦、平和の意義などに対する关心を高め意欲的に追究するとともに、20世紀初頭の変化の様相について考えようとしている。 【思】考察し一連の思考の過程を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】第一次世界大戦の原因と性格、ロシア革命の展開と影響、戦争と革命による国際秩序の変化、国際協調とヴェルサイユ体制、アメリカ的生活様式の資本主義社会への普及について理解し、その知識を身につけている。
3	1	3節 “民族自決”を求めて	“民族自決”を求めたアジアのナショナリズムの動きを理解する。	インド・中東および東アジアの民族運動。アジアのナショナリズム。	4	【問】民族運動に対する关心を高め意欲的に追究するとともに、アジアのナショナリズムの動きについて考えようとしている。 【思】考察し一連の思考の過程を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】第一次世界大戦後の民族運動の動向が世界史の新しい潮流をつくり出したことを理解し、その知識を身につけている。
	4	4節 経済危機から第二次世界大戦へ	第二次世界大戦と20世紀前半の国際政治の流れを概観し、国際関係の変遷と社会の特質を理解する。	第二次世界大戦。及ぼした影響。平和の意義。国際政治、国際関係の変遷と社会の特質。		【問】戦争の特質と平和の意義について考え、国際社会に生きる日本人としての自覚をもとうとしている。 【思】考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】世界恐慌と資本主義の変容、20世紀前半の国際政治の流れ、第二次世界大戦の原因や性格、平和の意義について理解し、その知識を身につけている。

	2	2章 冷戦から地球社会へ 1節 冷たい戦争の時代	第二次世界大戦後の米ソ対立、アジア・アフリカの民族運動と独立を理解し、核兵器問題やアジア・アフリカ諸国が抱える問題などについて考察する。	第二次世界大戦後の米ソ両陣営の対立。アジア・アフリカの民族運動と植民地支配からの独立。核兵器問題やアジア・アフリカ諸国が抱える問題。	6	<p>【関】大戦後の世界動向について関心を高め、意欲的に追究し考え、国際社会に生きる日本人としての自覚をもとうとしている。</p> <p>【思】考察し判断した過程や結果について適切に表現している。</p> <p>【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。</p> <p>【知】第二次世界大戦後の米ソ両陣営の対立、アジア・アフリカの民族運動と植民地支配からの独立、平和共存と多極化の進展などを通して、1970年頃までの世界の大きな動向について理解しその知識を身につけている。</p>
	2	2節 冷戦終結への道のり	米ソ冷戦の終結などから、世界が大きく変容し、今日に至っていることを理解する。	米ソ冷戦の終結。世界の変容。	6	<p>【関】1970年代以降世界の大きな変容に対する関心を高め、意欲的に追究し考え、国際社会に生きる日本人としての自覚をもとうとしている。</p> <p>【思】考察し判断した過程や結果について適切に表現している。</p> <p>【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。</p> <p>【知】市場経済の世界化、米冷戦の終結などから、1970年代以降の世界の大きな変容について理解し、その知識を身につけている。</p>
3	3節 地球社会への歩み	日本が世界の諸国・諸地域と多様性を認め合いながら共存する方向を模索し、これからの中の国際社会における日本の役割について考察する。	冷戦終結後の世界の政治・経済の動向。これからの国際社会における日本。	6	<p>【関】これからの中の国際社会における日本の役割、共存する方向について考え、国際社会に生きる日本人としての自覚をもとうとしている。</p> <p>【思】考察し判断した過程や結果について適切に表現している。</p> <p>【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。</p> <p>【知】冷戦終結後の世界の政治・経済の動向、これからの中の国際社会における日本の役割、日本が世界の諸国・諸地域と多様性を認め合いながら共存する方向について理解し、その知識を身につけている。</p>	

教科名	公民	科目名	倫理	単位数	2 単位	
対象学年	第2学年	対象コース	志学	履修形態	選択	
科目の目標	人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成と人間としてのあり方生き方について理解と思索を深めさせるとともに、人格の形成に努める実践的意欲を高め、他者とともに生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。					
学習内容の概要	古今東西の幅広い知的蓄積を通して、現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、人間としての在り方生き方に関わる情報を調べてまとめるぎのうを身に付ける。また、自立した人間として他者と共によりよく生きる自己の生き方についてより深く思索する力や、現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論などを活用して、論理的に思考を深め、説明したり対話したりする力を養う。人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしたりする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察やより深い思索を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を深める。					
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	a. 関心・意欲・態度	b. 思考・判断・表現	c. 資料活用の技能	d. 知識・理解		
	人間尊重の精神と自己形成について関心を高め、人格の形成と生きる主体としての自己の確立に努める実践的意欲を持つとともに、諸課題を探究する態度を身につけ、人間としてのあり方生き方について自覚を深めようとする。	生きる主体としての自己の確立について広く課題を見いだし、人間の存在や価値について多面的・多角的に考察し探究し、良識ある公民として広い視野に立って主体的かつ公正に判断し、その過程や結果を様々な方法で適切に表現する。	青年期における自己形成や人間としてのあり方生き方などに関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を主体的に選択して、これらを自己形成に資するように活用し、学び方を身につける。	青年期における自己形成や人間としてのあり方生き方などに関する基本的な事柄を、生きる主体としての自己確立の課題とつなげて理解し、人格の形成に生かす知識として身につけている。		
教科書、教材など	「高等学校 改訂版 倫理」(第一学習社)					
授業形態	講義・演習(学級単位による授業)					
年間授業計画						
学期	月	單元	單元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価
1	4	1章 青年期の課題と自己形成 ①よく生きることを求めて ②青年期の課題 1-青年期とは何か 2-青年期の思考と感情 3-青年期の人間関係 4-青年期の自己形成 2章 人間としての自覚	・青年期にはどのような発達課題があるのかを考える。 ・青年期の心身の特徴を把握するとともに、青年期の悩みの心理的特徴に気づき、悩むことが自己形成につながることを理解する。 ・生きることの意味についていろいろな視点から考え、今後の自分の生き方に生かす知識として身につける。	人間とは何か 他者との関係 知恵こそ人間の特質 青年期とは何か 発達課題について 青年期の拡大	6	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
	5	①ギリシャの思想 1-哲学の形成 2-ソクラテス 3-プラトン 4-アリストテレス 5-ギリシャ思想の展開 ②キリスト教 1-ユダヤ教の世界 2-イエス 3-キリスト教の発展 ③イスラーム	・ギリシャの思想家のものの見方・考え方を理解することにより、古代ギリシャの思想は、私たちにとってどのような意味を持つのかを考える。 ・ソクラテスの「無知の知」やプラトンのイデア論はどのようなものであるか、両者を比較しながら考察する。 ・アリストテレスの現実主義の立場を、プラトンのイデア論と対比しながら理解する。 ・キリスト教が愛の宗教であるといわれるのはなぜかを多面的・多角的に考察する。 ・ユダヤ教やキリスト教とはどのように関係するかを理解する。	物事の根源の探究 ロゴスにかなう説明 徳の教師ソフィスト 相対主義 人々の生き方を問い合わせ 無知の知 魂への配慮 ソクラテスの死が問うもの イデア論の確立 洞窟の比喩 エロースと想起 魂と国家 哲人政治の思想 イデア論批判 ユダヤ教の成立	6	
	6				8	

	④仏教 1-インドの思想文化 2-ゴータマの教説 3-仏教思想の展開	・インドの人々はどのような死生観を持っているか理解する。 ・ゴータマの教えは、深い思索を続ける生き方そのものであることを理解する。 ・日本に最もなじみの深い宗教である仏教の教えを知り、仏教思想の現代的な意義はどこにあるのかを考察する。 ・「ゴータマの言葉」を味わい、仏教の基本である、人間どうしが支え合いながら生きていくという視点を読み取る。 ・ゴータマが説いた縁起や四諦とは何かを理解する。	予言者の活動 イエスの福音 愛の教え イエスの死 パウロの回心 イスラーム世界 イスラームの誕生 イスラームの教義について 輪廻の思想 ゴータマの教え 仏教思想の内容	授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
7	⑤中国の思想 1-中国の思想文化 2-儒家の思想 3-道家の思想	・中国の人々の自然観・人生観を理解する。 ・陰陽五行や風水など、身近なものにも中国の思想との関わりがあることを知り、中国の思想に対する興味・関心を高める。 ・中国の思想は、歴史的に日本に最も大きな影響を与えたものであることを知り、私たちの現在や未来にどのように関わっているのかを考察する。 ・「『論語』の中の孔子の言葉」から、中国の思想の根本を読み取る。 ・西洋と東洋の源流にある思想を比較して、人間の生き方について説いている内容の共通点と相違点を調べ、発表や討論をする。	中国の思想文化 諸子百家の思想	8
2	3章 国際社会に生きる日本人としての自覚 ①日本の風土と伝統 ②外来思想の受容 1-日本佛教の展開 2-日本儒学の展開 ③町人意識のめざめと庶民思想 1-義理と人情 2-国学の成立 3-庶民の思想 4-伝統思想の成熟 ④西洋思想との出会い 1-幕末の思想 2-明治の啓蒙思想 3-日本社会とキリスト教 4-近代的自我の確立 5-社会思想の展開 6-近代日本の思想課題	・日本人の精神的特性が、日本の風土とどのように関連しているのかを考える。 ・書籍や聞き取り調査などから日本の神話や伝承に関する諸資料を収集し、古代の日本人がどのような倫理意識を持っていたのかを理解する。 ・日本の思想や文化に大きな影響を与えていた仏教や儒教が日本にどのように伝えられ、どのように変容していくのか、その大きな流れを把握する。 ・法然、親鸞、一遍、栄西、道元、日蓮に関する資料を収集し、鎌倉佛教の各宗派の教義や特色を理解する。 ・日本人の価値意識と儒教との関連について理解し、正の部分、負の部分をともに検討する。	風土と人間 神話の世界 祭祀の意味 清明心 現代に生きる伝統の倫理 現代日本と佛教 聖徳太子と和の精神 鎮護国家 神仏習合 道臣仮船かもにらした新示派 佛教思想家について 鎌倉佛教の革新性 室町時代の宗教 江戸時代の宗教と民衆 現代日本と儒教 庶民思想について 西洋思想の需要 新しい時代の先駆者 明治維新时期の人物の思想 社会主義思想の展開 大正デモクラシーについて 日本の近代思想 人間の尊厳を求めて 宗教改革について モラリストについて 近代科学の考え方 経験論と豪理論	8
10	4章 現代に生きる人間の倫理 ①人間の尊厳 1-ルネサンスと宗教改革 2-人間性の探究	・幕末の思想の特質や、文明開化が日本の伝統社会にどのような変化をもたらしたかを把握する。 ・日本の近代思想がどのように展開していくかを理解する。 ・日本思想のまとめとして、国際社会に生きる日本人として、これからの自分の生き方やあり方について考える意欲を高め、今後の生き方について考える。	8	

11	<p>②近代の科学革命と自然観 1-近代の科学革命 2-経験論と合理論 3-近代科学と社会の進歩</p> <p>③自由で平等な社会の実現 1-社会契約の思想 2-人格の尊厳と自由-カント 3-人倫と自由の実現-ヘーゲル 4-功利主義の思想</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・近代の科学はどのような背景から生まれてきたのかを理解する。 ・ペーコンやデカルトによる科学的な考え方の特色を理解し、科学技術の発達と自然との共生についての興味・関心を高める。 ・経験論と合理論の考え方の特色はどこにあるのかを、自己の課題とつなげて理解する。 ・近代ヨーロッパの社会契約説を通して、民主社会の成り立ちを理解し、民主社会を実現した社会契約の思想について、多面的・多角的に考察する。 ・ホップズ、ロック、ルソーに関する資料を収集し、社会契約の思想の違いを整理する。 ・カントやヘーゲルの思索の内容を整理して理解する。 ・西洋近代の思想家たちは、自由の実現についてどのように考えたのか、多面的・多角的に考察する。 ・ベンサムやミルの幸福に対する考え方の違いを理解する。 ・社会主義の生まれた背景とその発展過程、現代の社会主義について考察する。 ・実存主義が追究した生き方とはどのようなものかを理解する。 ・主体的なあり方は、努力を伴う生き方であることを、実存主義の思想から考察する。 ・ロールズ、センラの思想から、私たちは何を学ぶことができるかを考察し、これから生き方につなげる。 ・実践された倫理を貫いた人々の生き方に対する興味・関心を高め、生命への畏敬や本当の愛とはどのようなものかを理解する。 ・さまざまな思想家の主張を振り返りながら、私たちの生き方はどのようなものであればよいのかを、多面的・多角的に考察する。 	<p>社会契約思想について 社会契約説と現代社会 自由と理性 自由の実現と歴史 弁証法 自由主義思想 2つの功利主義</p>	8	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
12	<p>④人間性の回復と主体性の確立 1-社会主義の思想 2-実存主義の思想 3-プラグマティズムの思想</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ホップズ、ロック、ルソーに関する資料を収集し、社会契約の思想の違いを整理する。 ・カントやヘーゲルの思索の内容を整理して理解する。 ・西洋近代の思想家たちは、自由の実現についてどのように考えたのか、多面的・多角的に考察する。 ・ベンサムやミルの幸福に対する考え方の違いを理解する。 ・社会主義の生まれた背景とその発展過程、現代の社会主義について考察する。 ・実存主義が追究した生き方とはどのようなものかを理解する。 ・主体的なあり方は、努力を伴う生き方であることを、実存主義の思想から考察する。 ・ロールズ、センラの思想から、私たちは何を学ぶことができるかを考察し、これから生き方につなげる。 ・実践された倫理を貫いた人々の生き方に対する興味・関心を高め、生命への畏敬や本当の愛とはどのようなものかを理解する。 ・さまざまな思想家の主張を振り返りながら、私たちの生き方はどのようなものであればよいのかを、多面的・多角的に考察する。 	<p>近代的社会主义の始まり 科学的社会主义 社会主义と今後の社会</p>	8	
3	<p>⑤現代の思想と人間像 1-心の深層と無意識 2-生の哲学と現象学 3-近代的理性と言語 4-正義と社会 5-他者と偏見 ⑥生命への畏敬と社会参加</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会主義が追究した生き方とはどのようなものかを理解する。 ・主体的なあり方は、努力を伴う生き方であることを、実存主義の思想から考察する。 ・ロールズ、センラの思想から、私たちは何を学ぶことができるかを考察し、これから生き方につなげる。 ・実践された倫理を貫いた人々の生き方に対する興味・関心を高め、生命への畏敬や本当の愛とはどのようなものかを理解する。 ・さまざまな思想家の主張を振り返りながら、私たちの生き方はどのようなものであればよいのかを、多面的・多角的に考察する。 ・クローン技術、遺伝子組換え、脳死臓器移植、安樂死と尊厳死、医療における自己決定権などのテーマから、探ししたい課題を見いだし、多面的・多角的に考察する。 ・生命をめぐって問題となっている事例を収集し、主体的に選択して活用する。 ・探究した結果を「問題点を話し合う」「自分の考えを文章にまとめる」などの方法で適切に表現する。 ・地球規模だけでなく、身近なところで起こっている環境問題について調べ、有限な資源を未来の世代にも配分するには何をすればよいか、環境倫理の考え方とはどのようなものか、などについて考察する。 ・探究した結果を「問題点を話し合う」「自分の考えを文章にまとめる」などの方法で適切に表現する。 	<p>主体的な生き方について 西洋の近代思想家 プラグマティズム 無意識について 生の哲学と現象学 構造主義 正義とは何か 他者と公共性</p>	4	
2	<p>5章 現代の諸課題と倫理 ①生命の問題と倫理課題 1-生殖医療と遺伝子操作 2-脳死臓器移植と再生医療 3-自己決定の尊重と末期医療 ②環境の問題と倫理課題 1-有限な地球環境 2-生物多様性と自然との共生 3-予防原則と世代間倫理</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・出生前診断と生命の選択 ・遺伝子操作とデザイナーベビー ・臓器移植と脳死 ・再生医療と人間の尊厳 ・インフォームドコンセント ・末期医療の在り方 ・地球の自己調節機能 ・持続可能な開発 ・人間中心主義 ・生態系と生物多様性 ・自然の生存権 ・将来の世代に対する責任 	6		

3	<p>③家族・地域社会と倫理課題 1-少子化と男女共同参画社会 2-高齢化と地域社会</p> <p>④情報社会と倫理課題 1-情報の洪水と情報リテラシー 2-ネットワーク社会と情報モラル</p> <p>⑤宗教・文化と倫理課題 1-宗教信仰への理解と現代世界 2-異文化理解と多文化共生</p> <p>⑥国際平和と人類の福祉 1-地球市民として 2-平和な世界に向けて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢社会の問題点を、家族の形態や地域社会はどういうに変化してきたか、それらに期待される役割とはどういったものか、などについて考察する。 ・核家族化や少子化の進行に伴う家族関係の変容、男女共同参画時代の夫婦のあり方、高齢者と地域社会のあり方などのテーマから、探究したい課題を見いだし、多面的・多角的に考察するとともに、広い視野に立って主体的かつ公正に判断する。 ・家族・地域社会をめぐって問題となっている事例を収集し、主体的に選択して活用する。 ・探究した結果を「問題点を話し合う」「自分の考えを文章にまとめる」などの方法で適切に表現する。 ・情報社会を生きていくために必要な能力、情報モラルに関する問題などのテーマから、探究したい課題を見いだし、多面的・多角的に考察するとともに、広い視野に立って主体的かつ公正に判断する。 ・高度情報化やネットワーク社会をめぐって問題となっている事例を収集し、主体的に選択して活用する。 ・探究した結果を「問題点を話し合う」「自分の考えを文章にまとめる」などの方法で適切に表現する。 ・異文化を理解するためにには、社会全体でどのような取り組みが必要かを考察する。 ・多様な外国人と交流する際の倫理的課題は何か、などのテーマから探究したい課題を見いだし、多面的・多角的に考察するとともに、広い視野に立って主体的かつ公正に判断する。 ・グローバル化が進む現代において、異文化を理解するにあたり問題となっている事例を収集し、主体的に選択して活用する。 ・探究した結果を「話し合う」「文章にまとめる」などの方法で表現する。 ・各国間の経済格差の解消、自立を支援するための援助、難民や女性・子どもの人権保障、核兵器の廃絶など、人類全体の福祉実現に向けた取り組みを調べ、地球市民としての生き方を探究する。 ・頻発する地域紛争や民族紛争、難民問題、戦争と核兵器の廃絶の問題、などのテーマから、探究したい課題を見いだし、多面的・多角的に考察するとともに、広い視野に立って主体的かつ公正に判断する。 ・人類の福祉をめぐって問題となっている事例を収集し、主体的に選択して活用する。 ・探究した結果を「問題点を話し合う」「自分の考えを文章にまとめる」などの方法で適切に表現する。 	<p>変容する家族関係 少子化の進行 男女共同参画社会 高齢化の進行と高齢者福祉 地域社会の役割 消費社会としての現代 情報社会のリテラシー 個人情報の保護 ライフスタイルの変化 インターネットコミュニティ ネット上のトラブル 情報社会の倫理</p>	6	<p>授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査</p>
---	---	--	---	---	--

教科名	外国語	科目名	英語表現 II	単位数	3 単位	
対象学年	第2学年	対象コース	志学コース(文系)	履修形態	必修	
科目の目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考案し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。					
学習内容の概要	ア. 与えられた話題について、即興で話す。また、伝えたい内容を整理して論理的に話す。 イ. 主題を決め、様々な種類の文章を書く。 ウ. 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどをまとめ、発表する。また、発表されたものを聞いて、質問したり意見を述べたりする。 エ. 多様な考え方ができる話題について、立場を決めて意見をまとめ、相手を説得するために意見を述べ合う。					
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	A: コミュニケーションへの関心・意欲・態度 コミュニケーションに関心をもち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	B: 外国語表現の能力 外国語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。	C: 外国語理解の能力 外国語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。	D: 言語や文化についての知識・理解 外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けているとともに、その背景にある文化などを理解している。		
教科書、教材など	Vision Quest English Expression II Ace (61 啓林館 英II 322) ・ワークブック					
授業形態	講義・演習(学級単位による授業)					
年間授業計画						
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価
1	4	Part 1 Lesson 1	・主語の決定 ・見えない主語の発見 ・主語のIt ・主語になる名詞句 ・形式主語 ・名詞と冠詞 ・Storytelling ・無生物主語 ・自動詞と他動詞 ・間違えやすい自・他動詞 ・群動詞 ・SVO ・SVOO	主語を決める	9	A ・モデル文： モデル文に関心を持ち、読もうとしている。 ・Exercises / GOAL： 間違いを恐れず、積極的に表現しようとしている。 ・Activity for Communication： 積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。
	5	Lesson 2	・SVC ・SVOC	動詞を決める	9	
	6	Grammar Focus Activity for Communication 1 Lesson 3	・使役動詞 ・知覚動詞	動詞を決める	12	B: Speaking ・Activity for communication： 与えられた状況に置いて、適切に話し、伝えることができる。 ・Presentation： 適切な発声で、プレゼンテーションを行うことができる。 ・Discussion / Debate： 自らの意見を、適切な表現を用いて伝えることができる。
	7	Lesson 4	・直接話法と間接話法 ・間接話法で伝達 ・主語動詞の呼応、時制の一致 ・Role-Playing ・「～する」 ・「～している」	動詞を決める	12	C: Writing ・Exercises： 学んだ文法・表現を使って文を書くことができる。 ・GOAL： 自分や与えられた課題について文章を書くことができる。
	8	Lesson 5	・「～した」 ・「～していた」	動詞の形を決める	3	
	9	Lesson 6	・能動態と受動態 ・日本語との違い	動詞の形を決める	12	
2	9	Lesson 7				
		Grammar Focus Activity for Communication 2 Lesson 8				
	8	Lesson 9				
	9	Lesson 10				

	Lesson 11	・「もし(今)～ならば」 ・「もし(あの時)～だったなら」	動詞の形を決める		C: Listening ・Activity for Communication: 相手の言ったことを正しく聞き取れる。
	Lesson 12	・義務・必要を表す助動詞 ・数量を表す助動詞 ・英語の情報構造 ・Listening & Numbers	助動詞を使う		・Presentation / Discussion / Debate: 発表者や発言者の言ったことを正しく聞き取れる。
10	Grammar Focus Activity for Communication 3				
	Lesson 13	・数量を表す語句 ・名詞を前から修飾する語句	修飾語を加える	12	
	Lesson 14	・名詞を後ろから修飾する① ・名詞を後ろから修飾する②	修飾語を加える		C: Reading ・モデル文: つなぎ言葉の使い方を理解している。パラグラフの構成を理解している。文章の要点をつかむことができる。
	Lesson 15	・関係代名詞 ・関係副詞	修飾語を加える		・Expressions / Exercises / Grammar Focus: いろいろなトピックについて、内容を理解することができる。それぞれのページ絵学んだ文法・表現を理解し、知識として定着させている。
11	Lesson 16	・副詞・副詞句 ・不定詞や分詞を使った副詞句	修飾語を加える	12	
	Lesson 17	・副詞節① ・副詞節②	修飾語を加える		
	Grammar Focus Activity for Communication 4				
	Lesson 18	・前置詞 ・Writing an Email			
12	Lesson 19	・原級 ・比較級	比較を表す	12	
	Lesson 20	・最上級 ・最上級の意味を表す表現 ・no + 名詞 ・noで始まる代名詞 ・部分否定 ・準否定 ・丁寧表現 ・Reading Graphs	比較を表す 否定を表す		
3	Grammar Focus Activity for Communication 5 Part 2				
1	Lesson 1	文と文をつなぐ	パラグラフを書く	6	・Part2: パラグラフの構成に基づいて文章を書くことができる。要約を書く手順を理解し、要約文を書くことができる。
	Lesson 2	・パラグラフ①: ・構成 / 列挙・順序	パラグラフを書く		
2	Lesson 3	・パラグラフ②: ・例示 / 追加	パラグラフを書く	9	
	Lesson 4	・パラグラフ③: ・比較 / 対照	パラグラフを書く		
	Lesson 5	・パラグラフ④: ・原因 / 理由 / 結果	パラグラフを書く		
3	Lesson 6	要点・要約① リーディングの要約		9	
	Lesson 7	要点・要約② リスニングの要約			

教科名 対象学年	保健体育 第2学年	科目名 対象コース	保健 志学コース	単位数 履修形態	1単位 必修
科目の目標	個人および社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。				
学習内容の概要	<p>②生涯を通じる健康 生涯の各段階において健康についての課題があり、自らこれに適切に対応する必要があること、およびわが国の保健・医療制度や機関を適切に活用することが重要であることについて理解できるようにする。</p>				
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	関心・意欲・態度		思考・判断	技能・表現	知識・理解
	健康に対する関心を持ち、健康を保持増進させるためには何が必要かを考え、実行できる態度が身についている。また、日々変化する健康問題について関心を持ち、自他の健康について考える意欲をもつ。		健康についての思考を深め、その日常での活用方法を適切に判断し、健康行動の適切な選択ができる。	保健の授業を通して、必要な基本的技能を習得し、実際の場面で適切な行動がとれるようになる。	保健に関する基礎的な知識や、ヘルスプロモーションの理念を理解できる。また、保健に関するさまざまな分野における知識を身につけ、その役割について理解できる。
教科書、教材など	教科書:最新保健体育(大修館書店)、最新保健ノート(大修館書店)				
授業形態	教室での一斉授業、グループ学習、ビデオ学習				

年間授業計画

学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価
1	4	単元2 生涯を通じる健康 ①思春期と健康	思春期における体の変化と心の発達にかかる健康課題を理解する。	性ホルモン、生殖器の発達 精神的な不安定	3	
	5	②性への関心・欲求と性行動	性意識の男女差、性情報が性行動の選択に影響を及ぼすことを理解する。	セクシュアルハラスメント 性情報と性行動		
	6	③妊娠・出産と健康	妊娠・出産の過程における健康課題を理解する。	母子健康手帳 母子保健サービス	3	
	7	④避妊法と人工妊娠中絶	家族計画の意義と適切な避妊法を理解し、人工妊娠中絶が女性の心身に及ぼす影響を理解する。	家族計画 人工妊娠中絶	4	
	8	⑤結婚生活と健康	心身の発達と結婚生活の関係について理解する。	性機能の成熟 精神面での発達 健康状態の把握	4	
	9	⑥中高年期と健康	中高年期を健やかに過ごすための社会的な取り組みを理解する。	健康診断 生きがい ノーマライゼーション	1 4	定期検査 ノートチェック 授業への取り組み A,B,C,Dで評価する
		⑦医薬品とその活用	医薬品の正しい使用法について理解する。	医療用医薬品 自然治癒力 お薬手帳		

10	⑧医療サービスとの活用 ⑨保健サービスとの活用	医療サービスをうける時の留意点を理解する。 保健行政の役割について理解する。	医療保険 インフォームド・コンセントとセカンドオピニオン 保健行政 保健サービス 健康相談	4	
11	⑩さまざまな保健活動や対策 単元3 社会生活と健康 ①大気汚染と健康	民間や国際機関などの保健活動や対策について理解する。 大気汚染の原因とその健康影響を理解する。	日本赤十字社の取組み WHOの取組み ヘルスプロモーション 大気汚染物質 ダイオキシン 地球温暖化	4	定期考查 ノートチェック 授業への取り組み A,B,C,Dで評価する
12	②水質汚濁、土壤汚染と健康 ③環境汚染を防ぐ取り組み	水質汚濁、土壤汚染の原因とその健康影響を理解する。 今日の環境汚染の特徴を理解する。	重金属 有機物 富栄養化 排出基準 環境基本法 産業廃棄物 環境負荷	4	
3	④ごみの処理と上下水道の整備 ⑤食品の安全を守る活動 ⑥働くことと健康	ゴミの処理の現状や、その課題について理解する。 食品の安全のため、消費者が行うべきことを理解する。 働く人の健康問題と労働災害の防ぎ方について理解する。	環境型社会 食品添加物 食品衛生監視委員 食中毒予防三原則 働き方の変化とストレス 労働災害 作業環境 健康管理	2 3	
3	⑦働く人の健康づくり	職場がおこなう健康増進対策と、余暇の大切さとその活用の仕方について理解する。	メンタルヘルスケア ワークライフバランス 余暇の確保	3	定期考查 ノートチェック 授業への取り組み A,B,C,Dで評価する

教科名	国語	科目名	現代文B	単位数	2 単位	
対象学年	第2学年	対象コース	志学コース(理)	履修形態	必修	
科目の目標	近代以降の優れた文章や作品を読解し鑑賞する能力を高めるとともに、思考力を伸ばし心情を豊かにし、更に言語感覚を磨き表現力を身につけ、自ら積極的に読書する姿勢を身につけることにより人生を豊かにする態度を育てる。					
学習内容の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の的確な読解を通して、客観的な理解・認識する力、主体的に思考・判断する力を養う。 ・文学作品を通して、日本語の美しさや表現の豊かさを味わい、自分自身や他の世界に対する感受性や想像力を育む。 ・現代社会で求められる多様な言語能力を養うため、自身の考えを効果的に伝える表現力・コミュニケーション力を高める。 ・生涯にわたり読書に親しむ習慣を身につける。 					
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解	
	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。	目的や場に応じて効果的に話し的確に聞き取ったり、話し合つたりして、自分の考えをまとめ、深めている。	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。	
教科書、教材など	教科書:精選現代文B (東京書籍) 補助教材:精選現代文B 学習課題ノート(東京書籍)、常用国語便覧(浜島書店)					
授業形態	講義・演習(学級単位による授業)					
年間授業計画						
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価
1	4	世界をつくり替えるために	・評論を読み、表現の特徴に注意して筆者の主張を的確に捉える。 ・冒頭の文の主旨を読み取り、逆接について理解し、本文の着眼の仕方について考え、まとめる。	学ぶことの意味について、筆者の主張を読み取り、自分に引き寄せて考える。 具体例に注目して筆者の主張を理解し、芸術の見方について考える。	6	・授業の取り組み姿勢、応答と発問、意見発表の意欲と的確さ、課題の提出、ノートの整理、小テスト・定期考査の成績
	5	ミロのヴィーナス	・小説を自己の問題に引き付けて味わう姿勢を養い、自己について考えを深める。 ・評論の文章を読み、具体例がどのように結論の根拠となっているかを学ぶ。	登場人物の心情を表現に即して把握し、主人公の内面と苦悩について考える。 具体的な事例と筆者の意見の関係に注意して読み、言語と自我の構造について考える。	6	・授業の取り組み姿勢、応答と発問、意見発表の意欲と的確さ、課題の提出、ノートの整理、小テスト・定期考査の成績
	6	山月記			8	・授業の取り組み姿勢、応答と発問、意見発表の意欲と的確さ、課題の提出、ノートの整理、小テスト・定期考査の成績
	7	相手依存の自己規定			8	・授業の取り組み姿勢、応答と発問、意見発表の意欲と的確さ、課題の提出、ノートの整理、小テスト・定期考査の成績
	7	見えない季節・未確認飛行物体・竹・永訣の朝	・詩の構成、展開に沿って作者の心情を深くつかむ。 ・比喩や対比の表現の特徴と効果をつかむ。	表現やリズムに留意して音読し、特色として気づいたことやその効果について考える。		・作品を表現に即して深く読み取り、作者の感動の焦点をおさえ、味わうことができたか。

2	8	旅する本	・登場人物の心情を表現から読み取り、その変化を的確に捉え、作品の主題を考える。	「旅する本」という表現に込められた寓意を把握し、「本」について考えを広げる。	2	・授業の取り組み姿勢、応答と発問、意見発表の意欲と的確さ、課題の提出、ノートの整理、小テスト・定期考査の成績
9		科学的「発見」とは おじいさんのランプ	・さまざまな物事に対する判断やものの見方、学術研究などの基本に関わる問題をつかむ。 ・情報化の進行により人間と知との関係は大きく変化していることを理解し、視点を変えることでその問題を理解する。	本文中の二つの課題を追体験して読み、科学的視点の持ち方とその意義を理解する。 話題と主張の関係に着目して読み、時代とともに変わっていく本の在り方について考える。	8	・授業の取り組み姿勢、応答と発問、意見発表の意欲と的確さ、課題の提出、ノートの整理、小テスト・定期考査の成績
10		消費されるスポーツ 牡丹花は(短歌) プラタナス(俳句)	・スポーツを社会学的な視野で捉え、「大衆消費社会」の姿について考える。 ・短詩形文学の感動の焦点をおさえ、主題をとらえられる。	筆者の提示する問題を読み取って整理し、メディアとスポーツの関係について理解を深める。 さまざまな表現、内容を整理し、さまざまな取り合わせや表現方法を整理する。	8	・授業の取り組み姿勢、応答と発問、意見発表の意欲と的確さ、課題の提出、ノートの整理、小テスト・定期考査の成績
11		こころ 「である」と「する」こと	・作品を深く読んで人間のあり方についての問題意識をつかむ。 ・明晰な論理展開を読み取り、日本の近代化の特質とその問題について考える。	人間関係における人物の心情を的確に把握して、人の心のありようについて考えを深める。 例示と意見の関係を整理して主張を捉え、変化する社会における人間の在り方について考える。	8	・授業の取り組み姿勢、応答と発問、意見発表の意欲と的確さ、課題の提出、ノートの整理、小テスト・定期考査の成績
12		人間の運命と科学 蠅	・社会と人間のあり方を主題とする評論を読み、自己の価値観と照らし合わせて考える。 ・文体や修辞など表現上の特色をとらえ、作品に描かれた情景や心情を味わう。	論の展開と構成を把握して主張を捉え、科学と人間の関係について考えを深める。 視点の移動に注意しながら、描かれた場面や状況を読み取り、主題について考える。	8	・授業の取り組み姿勢、応答と発問、意見発表の意欲と的確さ、課題の提出、ノートの整理、小テスト・定期考査の成績
3	1	藤野先生	・翻訳文学の文章を読み、文体・時代性・心理などを自信と対比しながら味わう。	「私」が出会った藤野先生の人間像と「私」の思いと、時代背景に注意し、表現に即して読み取る。	4	・授業の取り組み姿勢、応答と発問、意見発表の意欲と的確さ、課題の提出、ノートの整理、小テスト・定期考査の成績
	2	日本人の美意識	・日本の美意識の特質を理解し、それが生活行動や生活感覚にまで及んでいることについて考える。	図を適切に参照して本文中の対比を捉え、日本と西欧の美意識の違いを理解する。	6	・授業の取り組み姿勢、応答と発問、意見発表の意欲と的確さ、課題の提出、ノートの整理、小テスト・定期考査の成績
	3	地図の想像力	・提示された問題について考え、自分の見解や意見を持ち、それを自分の言葉で表す。	論理的文章を読んで、それに対する自分の考えを意見文に書く。	6	・授業の取り組み姿勢、応答と発問、意見発表の意欲と的確さ、課題の提出、ノートの整理、小テスト・定期考査の成績

教科名	国語		科目名	古典B		単位数	2 単位			
対象学年	第2学年		対象コース	志学コース(理)		履修形態	必修			
科目の目標	古典としての古文と漢文を読解し、鑑賞する能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典に親しむことによって人生を豊かにする態度を育てる。									
学習内容の概要	古文および漢文を読解し鑑賞するために、読み、語句、文法事項、表現上の特色等を理解して古典に親しみ、文章に現れた思想、感情、古典常識を通してものの見方、感じ方、考え方を豊かにし、日本文化との関係について考える。以上の観点から指導し、共通テストに対応できる学力を身につける。									
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解					
	言語文化や伝統に対する関心を深め、国語を尊重する姿勢を持ち、進んで古典に親しもうとしている。	古典に表れた思想や感情の特徴、表現上の特色などについて、筋道を立てて自分の考えをまとめ、発表したり話し合ったりすることができる。	学習した古典の作品について、積極的に情報を収集・活用して進んで表現することで、自分の考えをまとめるとともに深めることができる。	文章や作品の内容を構成や展開に即して的確に捉えることができる。また、古典に表れた思想や感情を読み取り、ものの見方・感じ方・考え方を豊かにすることができる。	古典の理解に役立てるための音声・表記・語句・語彙・漢字等を理解し、知識を身につけている。					
教科書、教材など	教科書:『精選古典B改訂版』(三省堂) 標準教科書:『体系古典文法』(数研出版) 『体系古典文法 準拠ノート』(数研出版)『新明説漢文』(尚文出版)『重要古文単語315』(桐原書店)									
授業形態	講義・演習(学級単位による授業)									
年間授業計画										
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価				
1	4	(古)説話 ・十訓抄 ・宇治拾遺物語 ・古今著聞集 (漢)小話 ・季札挂劍 漱石枕 梁上君子 病入膏 不顧後患 紀昌貫虱 畏饅頭 (古)隨筆(一) ・徒然草・方丈記	・説話に対する理解を深め、古文に親しむ態度を育てる。 ・短い文章を読み、漢文の面白さを味わう。 ・句法に注意しながら正確な理解をする。 ・各章段の主題を現代に当てはめ自分自身の考え方、生き方を振り返る。 ・漢詩の種類とその特徴を理解する。	◆助動詞の復習 文法事項を踏まえながら、展開や心情を適切に読み取る。 ◆1年次の復習 漢文に親しむとともに、登場人物の考え方や話の面白さを読み取る。 ◆助詞の学習 文章中の表現を根拠にし、筆者の生き方や考え方を話し合う。 漢詩に描かれた人物や情景・心情などを表現に即して読み取る。	6 6 8 8 2	語句や表現に即して、説話の展開を読み取ろうとしている。助動詞の用法を理解する。 話の面白さを味わい、登場人物の生き方などについて考えようとする。基本的な句法を理解する。 筆者の人生観や人間観を読み取っている。形の上で紛らわしい語を文法的に識別できる。 漢詩の詩形や押韻、対句などについて理解する。それぞれの漢詩が表現している内容や情感を理解する。				
	5				8					
	6									
	7									
2	8	(漢)漢詩(近体詩) 鹿柴 宿建德江 春夜洛城聞笛 別董大 潛州詞 送友人月夜 (古)物語(一) ・竹取物語 ・伊勢物語 ・大和物語	・登場人物の人間関係を正確に掴み、微妙な心理の変化を理解する。	物語の展開や語句を表現に即して読み取るとともに、当時の人々が物語に込めた思いを考える。	8 8	文章を通して、登場人物の行動と心情を読み取る。基本的な敬語法について理解する。				
	9									
	10									

11	(漢)史伝 ・鴻門之会 ・四面楚歌	・古代中国の歴史の面白さを味わい、登場人物の魅力を味わう。	話の展開を読み取るとともに、歴史のおもしろさや登場人物の魅力について話し合う。	8 著名な逸話について興味を持ち、内容を深く知ろうとする。 『史記』や司馬遷について理解する。
12	(古)隨筆 ・枕草子	・各章段の主題を現代に当てはめ自分自身の考え方、生き方を振り返る。	古典に表れた人間の生き方や考え方について、文章中の表現を根拠に話し合う。	8 筆者の美意識や機知を読み取る。 当時の宮廷生活を理解しようとする。
1	(漢)思想 儒家・道家の思想 ・論語・孟子・荀子	・一語一句の意味、語順、文脈に注意しながら内容を正確に読解する。	◆願望・抑揚◆選択個々の相違点を意識し、儒家・道家の主張について考える。	4 簡潔な表現や巧みな比喩に注目しながら、内容を的確に読み取り、思想を理解する。
2	2 (古)物語(二) ・源氏物語	・登場人物の人間関係を正確に掴み、微妙な心理の変化を理解する。	登場人物の心情を場面に応じて読み取る。	6 物語の内容を理解するとともに、興味関心を高める。 紛らわしい敬語法を正確に読み取る。
3	3 ・大鏡	・敬語について正しい理解を得る。	歴史の流れの中で、登場人物の境遇や心情を読み取る。	6 歴史物語の特徴と文学的意義を理解する。

教科名	理科	科目名	化学基礎・化学	単位数	2・2 単位	
対象学年	第2学年	対象コース	志学コース(理系)	履修形態	必修	
科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化への关心を高め、目的意識を持って観察、実験などを行い、科学的に探求する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。					
学習内容の概要	1 化学と人間生活 2 物質の構成 3 物質の変化					
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	A 関心・意欲・態度	B 思考・判断	C 技能・表現	D 知識・理解		
	自然の事物・現象に关心や探求心を持ち意欲的にそれらを探求しようとするとともに、科学的态度を身につけている。	化学や化学現象を通して、自然現象の中に問題を見いだし、探求する過程を通して、事象を科学的に考察した考えを表現している。	化学や化学現象について、目的意識をもって観察・実験を行い、科学的に探求する能力と技術を身につけている。	化学の基本的な概念や原理・概念を理解し、科学的な知識や見方を身につけている。		
教科書、教材など	教科書:化学基礎新訂版(実教出版)、化学新訂版(実教出版) 副教材:五訂版リードα 化学基礎+化学(数研出版)、フォトサイエンス化学図録(数研出版)					
授業形態	講義・演習(学級単位による授業)を主体とし、必要に応じて観察・実験および問題演習を行う。					
年間授業計画						
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価
1	4	序 化学と人間生活 第1章 物質の構成 1節 物質の探求 2節 物質の構成粒子	生活の中の化学について再発見をし、化学の役割について理解を深める。 物質が原子、イオン、分子から構成されていることを理解する。 構成粒子の違いと物質の種類の違いを理解する。	物質の種類と性質 物質と元素 物質の三態と熱運動 原子の構造 イオンの生成 周期表	12	• 化学と人間生活における役割について関心を示し、理解しようとする。 • 物質の状態変化は、構成粒子の分子運動に關係し、それが温度や圧力によるものであることを論理的、総合的に判断できる。
	5	第2章 物質と化学結合 1節 イオン結合 2節 共有結合と分子間力 3節 金属結合	イオンの生成を電子配置と関連づけて理解し、イオン結合及びイオン結合からなる物質の性質を理解する。 共有結合を電子配置と関連付けて理解し、分子からなる物質の性質を理解する。さらに、分子間の結合によって物質ができる事を理解する。 金属原子間の結合及び金属からなる物質の性質を理解する。	イオン結合 イオン結晶 共有結合と分子間力 共有結合でできた物質 金属結合 金属	12	• 物質の構成粒子や量的関係に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけていく。 • 物質の構造は、化学結合の仕方の違いに関わりがあることを意欲的に探究しようとする。
						• 物質の性質は、結合の違いによって異なることを代表的な物質の性質の比較から推論できる。 • 物質の構成粒子の違いによる結合・結晶の差異を、代表的な物質から具体的に理解し、知識を身につけている。

	6	第3章 物質の変化 1節 物質量と化学反応式	原子量・分子量・式量などの物質量の基本事項を学ぶ。 物質量と溶液の濃度の関係を学ぶ。 化学反応式は化学反応に関与する物質とその量的関係を表すことを理解する。 化学の進歩の歴史と基本的な法則の発見の経緯について理解する。	原子量と分子量・式量 物質量 溶液の濃度 化学反応式 基本法則に関連した化学史	16	・原子量・分子量・式量と物質量の定義を理解し、物質量を用いた基本的な計算ができる、化学変化には一定の量的関係があることを考察できる。 ・化学式を使用できるとともに、原子量、分子量、式量と物質量の知識を身につけている。また、物質量の概念を用いて、化学変化の量的関係を把握する方法を理解し、知識を身につけている。
	7	2節 酸と塩基	水溶液の酸性・塩基性の強弱と水素イオン濃度との関係及びpHについて理解する。 酸と塩基の性質と、中和反応に関与する物質の量的関係を理解する。 中和滴定と滴定曲線により、中和反応を理解する。	酸と塩基 水素イオン濃度とpH 中和反応と塩 中和滴定	16	・酸、塩基や中和反応に关心を持ち、それらを日常生活に関連付けて意欲的に探究しようとする。 ・酸・塩基の観察、実験をもとに共通性を見出し、酸・塩基の定義を理解し、日常生活と関連づけて酸・塩基反応を考察できる。 ・ここでの特別な実験器具の取り扱いができると同時に、酸・塩基の量関係から濃度未知の酸や塩基の濃度を求める技能を修得している。
	8	3節 酸化還元反応	酸化・還元の定義を学び、酸化・還元を統一的に理解する。また、酸化剤や還元剤の反応や実用電池の形成の関係を理解する。	酸化と還元 酸化剤と還元剤 酸化還元反応の起こりやすさ 身のまわりの酸化還元反応	4	・実用電池や金属の製錬と酸化還元反応との関連性を見出し、論理的に考察し、科学的に判断できる。 ・電子の授受や酸化数の変化から酸化還元反応を理解し、知識を身につけている。 ・金属のイオン化傾向とそれによる反応性の違いを理解し、実用電池など身近に酸化還元反応が利用されていることを知っている。
2	9	【化学】 第1章 物質の状態と平衡 1節 状態変化	気体、液体、固体の性質を理解し、物質の状態変化、状態間の平衡、溶解平衡および溶液の性質について理解する。	物質の構造と融点・沸点 状態間の平衡	16	・物質の気体、液体、固体の状態変化を、日常生活や社会に関連させ、探究、考察しようとする。また、状態変化の現象について、粒子の運動と関連づけて探究しようとする。 ・気体、液体、固体が示すさまざまな性質に着目し、共通の事象について規則性を予測しようとする。 ・物質の状態変化は、構成粒子の分子運動に関係し、それが温度や圧力によるものであることを論理的、総合的に判断できる。 ・状態間の平衡について、気液平衡や蒸気圧を例に考察することができる。
	10	2節 気体の性質	気体の法則や固体の構造、希薄溶液の示す性質などについて理解する。	ボイル・シャルルの法則 気体の状態方程式	16	・気体の法則や固体の構造、希薄溶液の示す性質などについて化学的に考察し、その考え方を説明することができる。 ・実験においては、沸点や融点の測定には減圧下や加圧下での沸騰実験などにも抜け、実験の測定結果から量的関係を的確に表現できる。

		3節 固体の構造	結晶格子の概念および結晶構造を理解する。	結晶の構造 アモルファス		・結晶格子の概念について、身近な物質を例にしたり、結晶構造のモデルを用いたりして、特徴を観察する技能を身につけている。 ・物質の沸点、融点を分子間力や化学結合と関連づけて理解している。また、状態変化に伴うエネルギーの出入りおよび状態間の平衡と温度や圧力との関係について理解している。 ・気体の体積と圧力や温度との関係を理解している。また、結晶格子の概念および結晶の構造について理解している。	C D D
11	4節 溶液	溶液のしくみ、溶解度を溶解平衡と関連付けて理解する。身近な現象を通して溶媒と溶液の性質の違いを理解する。	溶解 溶解度 希薄溶液の性質 コロイド溶液の性質	16	・溶液の性質の法則性、コロイド溶液に関する事象について理解し、知識を身につけている。	D	
12	第2章 物質の変化と平衡 1節 化学反応と熱・光エネルギー 2節 化学反応と電気エネルギー	化学反応における熱および光の発生や吸収は、反応の前後における物質の持つ化学エネルギーの差から生じる事を理解する。外部から加えられた電気エネルギーによって、電極で酸化還元反応が起こる事を理解する。その反応に関与した変化量と電気量との関係を理解する。電池は酸化還元反応によって電気エネルギーを取り出すしくみであることを理解する。	エネルギーの変換と保存 化学反応と熱エネルギー ヘスの法則 化学反応と光エネルギー 電池 電気分解	16	・化学反応に伴って熱、光、電気エネルギーの出入りがあること、温度・濃度・触媒の影響などによって速い反応と遅い反応があること、また、化学平衡などの複雑な仕組みがあることを、意欲的に探究・考察しようとする。 ・化学反応に伴って熱、光、電気エネルギーの出入りがあること、反応は温度や濃度、触媒などの影響を受けることを、代表的な物質の反応や性質の比較から推論することができる。また、導き出した考えを的確に表現することができる。 ・化学反応における熱および光の発生や吸収は、反応前後における化学エネルギーの差から生じることを理解している。 ・外部から加えた電気エネルギーによって、電極で酸化還元反応が起こること、また、その反応に関与した物質の変化量と電気量との関係を理解している。	A B B D	
3	1 3節 反応の速さとしくみ 2 3 4節 化学平衡	反応速度の表し方および反応速度に影響を与える要因を理解する。	反応の速さ 反応速度を変える条件 反応のしくみ 可逆反応と化学平衡 化学平衡の移動 化学平衡と化学工業 電解質水溶液の平衡	8 12 12	・反応速度の表し方、反応速度に影響を与える要因、可逆反応、化学平衡の移動、水のイオン積、pH、弱酸や弱塩基の電離平衡などについて理解している。 ・化学平衡になる典型的な反応について、実証的・論理的に考え、分析し、科学的に考えることができる。 ・化学反応とエネルギー、反応速度や化学平衡に関する観察、実験を行い、その操作や記録などの技能が習得でき、結果から結論を導くことができる。	D B B	

教科名	地理歴史	科目名	地理A	単位数	2 単位	
対象学年	第2学年	対象コース	志学コース	履修形態	選択必修	
科目の目標	1地理への興味・関心を持ち、主体的に学習する態度を育てる。 2現代世界についての地理的な認識をいっそう深めるとともに、国際社会における立場と役割を考えさせる。					
学習内容の概要	現代世界の地理的な諸課題を地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。					
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解		
	現代世界の地形的な諸課題に対する関心と課題意識を高め追求し、国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとする。	現代社会の地理的事象から課題を見いだし、それを多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえて公正に判断する。	地図や統計などの諸資料を集め、有用な情報を選択、活用できるようにする。	現代世界の地理的な諸課題について基本的な事柄の追求の方法を理解し、その知識を身につけている。		
教科書、教材など	高等学校新地理A 初訂版(帝国書院)、新詳高等地図 初訂版(帝国書院)					
授業形態	講義・演習(学級単位による授業)					
年間授業計画						
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価
1	4	第1部 1章 1節 1 地上の現象と地球上の位置 2 経度の違いと時差 3 球面と平面の世界 4 国家の領域と国境 5 日本の領域と領土問題	地図上の位置と国家について理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・緯度や経度の基本的なしくみと、時差のしくみについて理解する ・地球を地図におきかえるさまざまな図法について理解する ・國家の領土・領空・領海の範囲について理解する ・日本の位置と排他的經濟水域の範囲や資源の利用について理解する 	6	時差のしくみや時差と日常生活との関連をふまえて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。
	5	2節 1 結びつきを強める現代世界 2 世界を結ぶ交通 3 世界を一つに結ぶ通信 4 拡大する世界の貿易 5 観光の国際化と人々の移動	グローバル化が進む世界について理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・国家間の結びつきが軍事的結合から經濟的結合へと変化したことを理解する ・航空交通の発達により、地球規模での国際交流が活発化したことを探る ・日本における観光の国際化について理解する 	6	国家の領域とさまざまな国境についての基本的な事がらを理解し、それらの知識を身につけている。
						結びつきを強める現代社会に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。
						国際的な観光の広がりについての基本的な事がらや追究の方法を理解し、その知識を身につけている。

	2章 1節 生活に影響を与える環境条件とは	生活に影響を与える環境条件について理解する	・自然環境と社会環境について理解する		世界の人々の生活・文化は、自然環境や社会環境と深く関わって成り立っていることを理解し、その知識を身につけている。人々の生活と地形に関する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。 山地・平野・海岸・氷河・カルスト・乾燥地形と人々の生活との関わりについての基本的な事がらや追究の方法を理解し、その知識を身につけている。
6	2節 1 さまざまに変化する大地と生活 2 世界の大地形と人々の生活 3 山地・平野の地形と人々の生活 4 海岸の地形と人々の生活 5 氷河地形・カルスト地形・乾燥地形と人々の生活	人々の生活と地形について理解する	・地形を形成する内的・外的要因について理解する ・河川がつくる山地・平野の地形の種類や特徴と人々の生活との関係を理解する ・海岸でみられる地形の特徴と、人々の生活との関わりについて理解する ・氷河地形・カルスト地形・乾燥地形の特徴や人々の生活との関わりについて理解する	8	世界の人々の生活・文化は、自然環境や社会環境と深く関わって成り立っていることを理解し、その知識を身につけている。人々の生活と地形に関する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。 山地・平野・海岸・氷河・カルスト・乾燥地形と人々の生活との関わりについての基本的な事がらや追究の方法を理解し、その知識を身につけている。
7	3節 1 生活と気候のかかわり 2 熱帯の気候と人々の生活 3 乾燥帯の気候と人々の生活 4 温帯の気候と人々の生活 5 亜寒帯・寒帯の気候と人々の生活	人々の生活と気候について理解する	・気候の特徴と人間生活との関わりについて理解する ・各気候区の分布や特徴を理解する	8	気温・降水量・などの気候要素についての基本的な事がらや追究の方法を理解し、その知識を身につけている。 各気候帯に暮らす人々の生活についての基本的な事がらや追究の方法を理解し、その知識を身につけている。
8	4節 1 生活を支える世界の農業 2 生活を支える世界の工業	人々の生活と産業について理解する	・農業の発達と自給的農業・商業的農業について理解する ・さまざまな製品をつくる工業の発達と種類について理解する	8	生活を支える世界の農業、工業に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。
2	5節 1 生活と宗教・言語のかかわり 2 生活・文化のグローバル化	人々の生活と文化について理解する	・世界の三大宗教をはじめとする宗教の特徴や、宗教と人々の生活との関わりを理解する ・グローバル化が進む世界について、その影響を理解する	2	生活・文化のグローバル化をめぐる諸課題についての基本的な事がらや追究の方法を理解し、その知識を身につけている。
8	3章 1節 1 中国の自然環境 2 中国の歴史と社会 3 13億人の食を支える農業農民 4 急進する工業と資源・環境 5 生活の変化と格差の拡大	中国の生活と文化について理解する	・中国の社会が日本どのように異なるかを理解する ・気候と農業との関係と、地域により異なる食文化について理解する ・工業化の変遷とその背景について理解する	8	中国の内陸部と沿岸部、北部と南部の自然環境の違いについて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 中国の経済発展や地域格差についての基本的な事がらや追究の方法を理解し、その知識を身につけている。

	2節 1 朝鮮半島の自然環境 2 韓国の歴史と日本との交流 3 産業の発展と生活の変化	韓国の生活と文化について理解する	・経済発展に伴い、世界各国が注目していることを理解する ・日本と朝鮮半島をめぐる歴史や、韓国と北朝鮮との関係について理解する ・急速な工業の発展はどのようになされたかを理解する	韓国の歴史や文化について、日本との関わりをふまえながら基本的な事がらや追究の方法を理解し、その知識を身につけている。
10	3節 1 東南アジアの自然環境 2 東南アジアの歴史と民族 3 東南アジアの農業とその変化 4 工業の発展と ASEAN	東南アジアの生活と文化について理解する	・歴史や、植民地支配とモノカルチャー経済との関係、多様な民族と文化について理解する ・さかんに行われている稻作の特徴について理解する ・ASEAN域内の結びつきと、近隣諸国との関係について理解する	東南アジアの歴史と民族に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。東南アジアの工業化について、モノカルチャー経済からの脱却やASEANの役割をふまえて、基本的な事がらや追究の方法を理解し、その知識を身につけている。
	4節 1 インドとその周辺の自然環境 2 インド世界の歩みとヒンドゥー教 3 インドの産業の発展	インドの生活と文化について理解する	・インドとその周辺の自然環境について理解する ・農業の展開を理解する ・自然環境にはどのような特徴があるかを理解する	インドとその周辺の自然環境の特徴について、山脈の位置や季節風(モンスーン)の影響と関連させながら基本的な事がらや追究の方法を理解し、その知識を身につけている。
	5節 1 中央アジア・西アジア・北アフリカの自然環境 2 地域の歴史とムスリムの生活 3 豊かな石油資源と人々の生活	中央アジア・西アジア・北アフリカの生活と文化について理解する	・乾燥した気候のもとで行われる灌漑農業について理解する ・イスラームの歴史と伝播について理解する ・イスラームと人々の生活との関わりを理解する	8 イスラームと人々の生活との関わりについて基本的な事がらや追究の方法を理解し、その知識を身につけている。 豊かな石油資源と人々の生活について基本的な事がらや追究の方法を理解し、その知識を身につけている。
	6節 1 サハラ以南のアフリカの自然環境 2 サハラ以南のアフリカの歴史と文化 3 変わるサハラ以南のアフリカ	サハラ以南のアフリカの生活と文化について理解する	・アフリカの自然環境の特徴を理解する ・ヨーロッパ諸国による植民地支配の歴史とその影響について理解する	サハラ以南のアフリカの歴史とさまざまな民族の伝統的文化について、基本的な事がらや追究の方法を理解し、その知識を身につけている。
	7節 1 ヨーロッパの自然環境 2 ヨーロッパの歩みと文化 3 ヨーロッパの産業 4 ヨーロッパの統合 5 統合による影響と課題	ヨーロッパの生活と文化について理解する	・植民地支配の歴史とその影響について理解する ・多様な地形や、高緯度の割に温暖な気候について理解する ・キリスト教に深く結びついた文化と、宗派や言語の多様性について理解する	ヨーロッパの自然環境について、高緯度の割に温暖な気候や地域により異なる地形のようすをふまえ、基本的な事がらや追究の方法を理解し、その知識を身につけている。

	8節 1 ロシアとその周辺の自然環境 2 ロシアの歴史と社会の変化 3 ロシアの産業と日本との結びつき	・ロシアの生活と文化について理解する	・ロシアの自然環境の特徴を理解する ・経済を支える資源をめぐる動きや、外国企業との関係について理解する ・自然環境に適した農業地域の特徴とその背景について理解する	ロシアの産業と日本との結びつきについて、ロシア経済を支える資源をめぐる動きや外国企業との関係をふまえ、基本的な事がらや追究の方法を理解し、その知識を身につけている。
	9節 1 アメリカ合衆国とその周辺の自然環境 2 移民の歴史と多文化社会 3 大規模な農業とアグリビジネス 4 先端技術産業の発展と工業の変化	アメリカ合衆国の生活と文化について理解する	・アメリカ合衆国の先端技術産業が世界をリードしている背景を理解する	アメリカ合衆国の工業の変遷や先端技術産業の発展と地域経済統合について、基本的な事がらや追究の方法を理解し、その知識を身につけている。
11	10節 1 ラテンアメリカの自然環境 2 混血社会と多様な文化 3 ラテンアメリカの産業とその変化	ラテンアメリカの生活と文化について理解する	・ラテンアメリカの自然環境について理解する ・大土地所有制と農業の変化について理解する	8 ラテンアメリカの産業についての基本的な事がらや追究の方法を理解し、その知識を身につけている。
	11節 1 オーストラリアとその周辺の自然環境 2 オーストラリアの結びつきの変化 3 自然を生かした産業	オーストラリアの生活と文化について理解する	・オーストラリアとその周辺の自然環境について理解する ・自然環境に適した農業が行われていることを理解する	オーストラリアとその周辺の自然環境についての基本的な事がらや追究の方法を理解し、その知識を身につけている。 オーストラリアの自然を生かした産業についての基本的な事がらや追究の方法を理解し、その知識を身につけている。
	4章 1節 1 地球的課題の特性とその解決	複雑にからみ合う地球的課題について理解する	・地球規模で直面している深刻な課題について、どのような地域的特徴があるかを理解する	複雑にからみ合う地球的課題について、その背景にある先進国と発展途上国との経済格差などに着目し、基本的な事がらや追究の方法を理解し、その知識を身につけている。
	2節 1 さまざまな環境問題 2 热帯林の破壊とその解決 3 地球温暖化の現状と対策	世界の環境問題について理解する	・世界で起こるさまざまな環境問題について理解する ・地球温暖化によってどのような問題が発生するのか理解する	さまざまな環境問題とその解決に向けた取り組みについての基本的な事がらや追究の方法を理解し、その知識を身につけている。
12	3節 1 限りある資源・エネルギー	世界の資源・エネルギー問題について理解する	・世界の資源やエネルギーはどこで生産、消費されているかを理解する	8 資源・エネルギーをめぐる問題とその対策や今後のエネルギーのあり方についての基本的な事がらや追究の方法を理解し、その知識を身につけている。

		4節 1 人口増加と少子化・高齢化 2 地域で異なる人口問題	世界の人口問題について理解する	・地域による人口問題の違いやその背景を理解する	世界の人口問題に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている
3	1	5節 飢餓と飽食	世界の食料問題について理解する	・世界の食料生産・消費には著しいかたよりがあることを理解する	世界の食料をめぐる課題について、生産と消費の著しいかたよりに着目し、その解決に向けた取り組みなどについて、基本的な事がらや追究の方法を理解し、その知識を身につけている。
	6節 1 都市への人口集中と諸問題 2 地域で異なる都市・居住問題	世界の都市・居住問題について理解する	・都市への人口集中が世界的に進んだ背景と、どのような都市問題が発生しているのか理解する	4	世界の都市・居住問題とその解決に向けた取り組みについて、基本的な事がらや追究の方法を理解し、その知識を身につけている。
	第2部 1章 1 身近な地図とその特色 2 GISのしくみと使える技術 3 GIS技術の活用と地図 4 目的に合わせた地図の作成	身近にあるさまざまな地図について理解する	・身のまわりには、さまざまな一般図と主題図があることを理解する ・GISやGPSのしくみについて理解する ・情報を地図化する方法を習得し、自分で地図を作成する	6	身のまわりに普及するGISを用いた技術の活用について紙地図と比較しながら、基本的な事がらや追究の方法を理解し、その知識を身につけている。 自分で地図を作成することへの関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究している。
2	2章 1 日本の自然環境 2 火山災害と防災 3 地震被害と防災 4 風水害と防災 5 身近な地域の防災を考える	日本の自然環境と防災について理解する	・日本の地形や気候の特徴を捉え、その自然環境がどのような自然災害と結びつかず理解する ・梅雨や台風の時期に発生しやすい風水害の種類と防災について理解する	6	身近な地域で発生しやすい災害を捉え、自分たちにできることを考察し、その知識を身につけている。
3	3章 1 地域を調べる課題の設定 2 課題の調査 3 調査内容の発表	身近な地域の課題と地域調査	・地域調査を行うためには、目的やテーマをはつきりさせることが大切であることを理解する ・調査内容のまとめ方や発表方法を習得し、実践する	6	調査発表に資する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 調査内容のまとめ方や発表方法についての基本的な事がらや追究の方法を理解し、その知識を身につけている。

教科名	地理歴史	科目名	世界史A	単位数	2 単位
対象学年	第2学年	対象コース	志学コース(文・理)	履修形態	選択必修
科目の目標	1 近現代史を中心とする世界の歴史を、わが国の歴史と関連付けながら理解させる。 2 人類が直面する課題を政治・経済・文化・生活など様々な観点から考察させることによって、歴史的思考力を育てる。 3 国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を育成する。				
学習内容の概要	近世以前の諸地域世界の特質をつかんだ上で、大航海時代を背景にアジア世界とヨーロッパ世界が接触や交流・進出を深め世界が一体化に向かいはじめる状況を概略的に把握する。また、近現代史以降一体化がさらに進んでいく状況を、わが国と関連付けながら歴史的に理解し、あわせて人類の今後の課題について具体的に考察する。				
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	a.関心・意欲・態度	b.思考・判断・表現	c.資料活用の技能	d.知識・理解	
	近現代史を中心とする世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求するとともに、国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとしている。	近現代史を中心とする世界の歴史から課題を見出し、世界史的視野にたって多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断している。	近現代史を中心とする世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追求する方法を身につけるとともに、追及し考察した過程や結果を適切に表現している。	近現代史を中心とする世界の歴史についての基本的な事柄を、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身につけている。	
教科書、教材など	教科書 明解 世界史A (帝国書院) 副教材 明解 世界史Aノート (帝国書院)				
授業形態	講義形式・グループ学習(学級単位による授業)				
年間授業計画					
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間
1	4	1部 世界の一体化と日本 1章 前近代の諸文明 序節 人類の始まり 1節 東アジアの文明	各地域世界が形づくられていく過程を理解する。 東アジアを通して、日本を含む東アジアの文明の特質を理解する。	人類の登場と、農耕・牧畜による食料生産革命。人類が文明を築き、歴史時代へはいっていくありさまを概観。 東アジアの風土と諸民族、封建制度、漢字文化圏、儒教思想、律令体制、文治主義、冊封体制。	6 【関】食料生産革命、文明の成立などについて関心を高め、意欲的に追究するとともに、人類史について考えようとしている。 【思】この時代について考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】先史時代について概観し、人間の進化を把握するとともに、基本的知識を身につけている。 【関】東アジアについて関心を高め、意欲的に追究するとともに、東アジアの特質について考えようとしている。 【思】考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】日本を含む東アジアの文明の特質を構造的視野から把握し、基本的知識を身につけている。

5	<p>2節 南アジアの文 明</p> <p>3節 東南アジア</p> <p>4節 西アジア・北アフリカの文明</p>	<p>南アジアの文明の特質を理解する。</p> <p>東南アジアの特質を理解する。</p> <p>西アジア・北アフリカの文明の特質を理解する。</p>	<p>南アジアの風土と諸民族と宗教。仏教、ヒンドゥー教、イスラームの影響。</p> <p>自然環境や地理的位置に着目。インドと中国の両文明の影響の様子。それぞれの地域での多様な社会と文化。</p> <p>西アジア・北アフリカの風土と諸民族。イスラームの成立と拡大・分裂。</p>	<p>6</p> <p>【問】南アジアについて関心を高め、意欲的に追究するとともに、南アジアの特質について考えようとしている。 【思】考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】南アジアの文明の特質を構造的視野から把握し、基本的知識を身につけている。</p> <p>【問】東南アジアについて関心を高め、意欲的に追究するとともに、東南アジア世界の特質について考えようとしている。 【思】考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】東南アジアの特質を構造的視野から把握し、基本的知識を身につけている。</p> <p>【問】西アジア・北アフリカについて関心を高め、意欲的に追究するとともに、西アジア・北アフリカの特質について考えようとしている。 【思】考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】西アジア・北アフリカがの成立とその特色、地域的な拡大と独自の世界の形成について、イスラーム国家の柔軟性やムスリム商人の役割などを把握し、基本的知識を身につけている。</p> <p>8</p> <p>【問】ヨーロッパについて関心を高め、意欲的に追究するとともに、ヨーロッパ文明の特質について考えようとしている。 【思】考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】ヨーロッパの文明の特質を構造的視野から把握し、基本的知識を身につけている。</p> <p>【問】南北アメリカの独自の文明に対する関心を高め、意欲的に追究するとともに、特質について考えようとしている。 【思】特質を考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】南北アメリカの文明の特質を構造的視野から把握し、基本的知識を身につけている。</p> <p>【問】ユーラシアの交流圏のに対する関心を高め、意欲的に追究し、考えようとしている。 【思】考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】ユーラシア規模の交流圏の成立とそれを支えた内陸および海域(都市や港市)のネットワークを把握し、基本的知識を身につけている。</p>
6	<p>5節 ヨーロッパの文明</p> <p>6節 南北アメリカの文明</p> <p>7節 ユーラシアの交流圏</p>	<p>ヨーロッパの文明の特質を理解する。</p> <p>南北アメリカ大陸において独自の文化が築かれていたことを理解する。</p> <p>ユーラシアの交流圏が成立していくようすを巨視的かつ視覚的に把握し、相互の文化受容の進展について理解する。</p>	<p>ヨーロッパの風土と諸民族。ギリシア・ローマ文明の伝統。キリスト教の発展。封建社会。</p> <p>南北アメリカ大陸の風土と先住民。ヨーロッパが進出する以前の南北アメリカ大陸独自の文化。</p> <p>ユーラシア規模の交流圏が成立していくようす。</p>	

	7	2章 一体化に向かう世界 1節 繁栄するアジア	アジア諸地域の安定した支配と経済の繁栄を背景に、文化も黄金時代を迎えたことを理解する。	アジアのティムール・オスマン・ムガル・明・清などの諸帝国の政治と社会と文化。	8	【関】アジア諸地域に対する関心を高め、意欲的に追究し、その特色について考えようとしている。 【思】考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】成熟期を迎えたアジア諸地域の特色を理解し、その知識を身につけている。
2	8	2節 大航海時代と新たな国家の形成	16世紀頃から始まつた世界の一体化への動きと新たなヨーロッパのわく組みとなった主権国家体制の形成について理解する。	ルネサンスと宗教改革、新航路の開拓。16世紀頃から始まつた主権国家体制の形成。	2	【関】16～18世紀にかけてのヨーロッパ世界に対する関心を高め意欲的に追究し、考察しようとしている。 【思】考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】ヨーロッパではルネサンスと宗教改革、新航路の開拓を通じて主権国家体制が形成され、アメリカではヨーロッパ人による征服と入植・開発が先住民社会の変質を余儀なくしたこと、またアジア貿易への参入やメキシコ銀の流入がヨーロッパ経済の成長と転換をもたらしたことを把握し、その知識を身につけている。
9	3章 欧米の工業化とアジア諸国の動揺 1節 ヨーロッパとアメリカの諸革命	市民社会および国民国家の形成が進行したことを理解する。	アメリカ諸国の独立、フランス革命、産業革命。西ヨーロッパとアメリカの産業社会。	8	【関】18世紀後半から19世紀にかけてのヨーロッパとアメリカの諸革命に対する関心を高め、意欲的に追究し近代世界が確立したことについて考えようとしている。 【思】社会の産業化と国民国家の形成により近代世界が確立したことの過程を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用して、社会の産業化と国民国家の形成により近代世界が確立したことを探査する技能を身につけている。 【知】18世紀後半から19世紀にかけてのヨーロッパとアメリカの諸革命について理解し、その知識を身につけている。	
10	2節 自由主義・ナショナリズムの進展 3節 アジア諸国の動揺	自由主義とナショナリズムが進展していくようすとアメリカの発展について理解する。 アジア諸国の動揺のようすを理解する。	19世紀後半のヨーロッパ、アメリカ社会。 オスマン帝国の弱体化やムガル帝国の崩壊。ヨーロッパ諸国とのアジア進出とアジア諸国の状況。植民地化や従属化の過程での抵抗と挫折。伝統文化の変容。	8	【関】1848年頃に関心を持ち、意欲的に追究し、考えようとしている。 【思】1848年頃を考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】1848年頃の資料を収集し、適切に活用する技能を身につけている。 【知】1848年を転換点として、自由主義とナショナリズムが進展したことを理解し、その知識を身につけている。 【関】ヨーロッパの進出によって引き起こされた変貌に対する関心を高め、意欲的に追究するとともに、その特質について考えようとしている。 【思】考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】ヨーロッパ諸国とのアジア進出とアジア諸国の状況など、アジア諸国の動揺を理解し、その知識を身につけている。	

	11	4節 東アジアの大変動 2部 地球社会と日本 1章 現代世界の芽ばえと世界大戦 1節 現在につながる社会の形成	東アジアの大変動を理解する。 20世紀という時代の特質を把握とともに、世界の支配・従属関係を伴う一体化と社会の変容を理解する。	アヘン戦争やアロー戦争。東アジアの伝統的な国際秩序が崩壊していく過程。ヨーロッパ諸国の東アジア進出と東アジア諸国の状況。半植民地化や従属化の過程での抵抗と挫折。 交通革命。マス=メディアの発達。企業や国家の巨大化。社会の大衆化と政治や文化の変容。公教育の普及と国民統合。世界の変容。	8	【関】ヨーロッパの進出によって引き起こされた変貌に対する関心を高め、意欲的に追究するとともに、その特質について考えようとしている。 【思】考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】ヨーロッパ諸国の東アジア進出と東アジア諸国の状況、半植民地化や従属化の過程での抵抗と挫折、その中の日本の対応など、東アジアのようすを理解しその知識を身につけている。 【関】19世紀社会の急激な変化と世界の一体化に対する関心を高め、意欲的に追究するとともに、その特質を人類史的視野から考えようとしている。 【思】考察し、判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し、適切に活用する技能を身につけている。 【知】20世紀という時代の特質を人類史的視野から把握するとともに、人口移動から世界の支配・従属関係を伴う一体化と社会の変容を理解しその知識を身につけている。
	12	2節 第一次世界大戦がもたらしたもの	20世紀初頭の変化の様相を理解する。	第一次世界大戦。ロシア革命、ソヴィエト連邦の成立。戦争と革命による国際秩序の変化。アメリカの大衆生活とその波及。	8	【関】第一次世界大戦、平和の意義などに対する関心を高め意欲的に追究するとともに、20世紀初頭の変化の様相について考えようとしている。 【思】考察し一連の思考の過程を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】第一次世界大戦の原因と性格、ロシア革命の展開と影響、戦争と革命による国際秩序の変化、国際協調とヴェルサイユ体制、アメリカの生活様式の資本主義社会への普及について理解し、その知識を身につけている。
3	1	3節 “民族自決”を求めて 4節 経済危機から第二次世界大戦へ	“民族自決”を求めたアジアのナショナリズムの動きを理解する。 第二次世界大戦と20世紀前半の国際政治の流れを概観し、国際関係の変遷と社会の特質を理解する。	インド・中東および東アジアの民族運動。アジアのナショナリズム。 第二次世界大戦。及ぼした影響。平和の意義。国際政治、国際関係の変遷と社会の特質。	4	【関】民族運動に対する関心を高め意欲的に追究するとともに、アジアのナショナリズムの動きについて考えようとしている。 【思】考察し一連の思考の過程を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】第一次世界大戦後の民族運動の動向が世界史の新しい潮流をつくり出したことを理解し、その知識を身につけている。 【関】戦争の特質と平和の意義について考え、国際社会に生きる日本人としての自覚をもとうとしている。 【思】考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】世界恐慌と資本主義の変容、20世紀前半の国際政治の流れ、第二次世界大戦の原因や性格、平和の意義について理解し、その知識を身につけている。

2	<p>2章 冷戦から地球社会へ 1節 冷たい戦争の時代</p> <p>2節 冷戦終結への道のり</p>	<p>第二次世界大戦後の米ソ対立、アジア・アフリカの民族運動と独立を理解し、核兵器問題やアジア・アフリカ諸国が抱える問題などについて考察する。</p> <p>米ソ冷戦の終結などから、世界が大きく変容し、今日に至っていることを理解する。</p>	<p>第二次世界大戦後の米ソ両陣営の対立。アジア・アフリカの民族運動と植民地支配からの独立。核兵器問題やアジア・アフリカ諸国が抱える問題。</p> <p>米ソ冷戦の終結。世界の変容。</p>	6	<p>【関】大戦後の世界動向について関心を高め、意欲的に追究し考え、國際社会に生きる日本人としての自覚をもどうとしている。 【思】考察し判断した過程や結果について適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】第二次世界大戦後の米ソ両陣営の対立、アジア・アフリカの民族運動と植民地支配からの独立、平和共存と多極化の進展などを通じて、1970年頃までの世界の大きな動向について理解しその知識を身につけている。</p> <p>【関】1970年代以降世界の大きな変容に対する関心を高め、意欲的に追究し考え、國際社会に生きる日本人としての自覚をもどうとしている。 【思】考察し判断した過程や結果について適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】市場絏済の世界化、米冷戦の終結などから、1970年代以降の世界の大きな変容について理解し、その知識を身につけている。</p> <p>【関】これからの國際社会における日本の役割、共存する方向について考え、國際社会に生きる日本人としての自覚をもどうとしている。 【思】考察し判断した過程や結果について適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】冷戦終結後の世界の政治・経済の動向、これからの國際社会における日本の役割、日本が世界の諸国・諸地域と多様性を認め合いながら共存する方向について理解し、その知識を身につけている。</p>
3	3節 地球社会への歩み			6	

教科名	数学	科目名	数学B	単位数	2 単位		
対象学年	第2学年	対象コース	志学コース	履修形態	必修		
科目の目標	ベクトル、数列および確率分布と統計的な推測について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。						
学習内容の概要	《ベクトル》向きと大きさを持つベクトル量の概念を学び、それが力や速度などを表す指標となることを理解する。また、ベクトルを図示したり、加えたり引いたりするとはどういうことかを学ぶ。さらに、ベクトルの成分による表現方法や内積について考える。《数列》いろいろな規則性をもつ数列について調べ、数列の和や数学的帰納法について学ぶ。《確率分布と統計的な推測》数学Aで学んだ確率についてさらに深く理解を進める。次にいろいろなデータを整理して分析するための理論を学ぶ。						
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	A: 数学への関心・意欲・態度 ・多面的にものを見たり、理論性のあるいろいろな考えに触れたり、試行錯誤しながら考え、主体的に数学的な見方や考え方のよさを学ぼうとする。 ・身近な事象を数学化し、積極的に数学を活用しようとする。	B: 数学的な見方や考え方 ・数学的な見方や考え方のよさを認識できる。 ・自らの思考過程を振り返りながらより発展的に考え一般化して問題の本質を探ることができる。	C: 数学的な表現・処理 ・数学的な見方や考え方を生かし自分で工夫して問題を解決したり判断することができる。 ・設定した数学的な課題を既習事項や公理・定義等を基にして分析・整理し、数学的に考察したことを明確に表現することができる。	D: 数量・図形などについての知識・理解 ・数理的に考察し処理することのよさや既習事項などを体系的に整理し活用できる。 ・構成した数学的な知識の意味を考えたり、見いだした数学的な知識をいろいろな場面に活用できる。 ・文化や社会生活において数学が果たしている役割などを理解している。			
教科書、教材など	教科書:改訂版 高等学校 数学B(数研出版) 補助教材:チャート式 解法と演習 数学Ⅱ+B(数研出版)						
授業形態	講義・演習(学級単位による授業)						
年間授業計画							
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間		
1	4	第1章 平面上のベクトル	<ul style="list-style-type: none"> ・平面上のベクトルについてその意味、相等、加法、減法及び実数倍について理解させる。 ・ベクトルの演算については数の演算と類似の法則が成立することを理解させる。 ・座標との関連において成分表示を取り扱い、ベクトルとその演算についての理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・有向線分とベクトル ・ベクトルの表記 ・ベクトルの加法 ・零ベクトル ・ベクトルの減法 ・ベクトルの実数倍 ・ベクトルの計算 ・ベクトルの平行 ・ベクトルの分解 ・ベクトルの成分表示 ・和、差、実数倍の成分表示 ・座標平面上の点とベクトル ・ベクトルの内積 ・成分による内積の表示 ・ベクトルのなす角 ・内積の性質 	6	A/B/C/Dの総合評価	
		第1節 ベクトルとその演算					
		1. ベクトル					
		2. ベクトルの演算					
	3. ベクトルの成分						
	5	4. ベクトルの内積					
			<ul style="list-style-type: none"> ・二つのベクトルのなす角や成分表示に関するベクトルの内積の意味や基本的な性質について理解させ、平面图形の性質の考察に内積を活用できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・補充問題 			

1	6	第2節 ベクトルと平面図形 5. 位置ベクトル 6. ベクトルの図形への応用 7. 図形のベクトルによる表示 研究: 点と直線の距離	・位置ベクトルを活用することによって図形の性質の考察において形式的な処理ができる理解させいろいろな平面図形の性質の考察に位置ベクトルを活用できるようする。	・位置ベクトル ・内分点・外分点の位置ベクトル ・三角形の重心の位置ベクトル ・位置ベクトルの利用 ・直線上の点 ・内積の利用 ・ベクトルに平行な直線 ・異なる2点を通る直線 ・ベクトルに垂直な直線 補充問題 章末問題	8
		第2章 空間のベクトル 1. 空間の点 2. 空間のベクトル 3. ベクトルの成分	・空間座標の概念を導入し、その意味や表し方について理解させる。 ・成分などの平面上のベクトルの考え方を空間に拡張して空間ベクトルを理解させる。 ・内積や位置ベクトル、ベクトル方程式などの平面上のベクトルの考え方を空間に拡張して空間ベクトルを理解させる。	・空間の点の座標 ・原点Oと点Pの距離 ・空間のベクトル ・ベクトルの分解 ・ベクトルの成分表示 ・和、差、実数倍の成分表示 ・座標空間の点とベクトル ・ベクトルの内積 ・ベクトルの垂直 ・位置ベクトル ・平面上の点の位置ベクトル ・内積の利用 ・2点間の距離と内分点・外分点の座標 ・座標平面に平行な平面の方程式 ・球面の方程式	
2	7	4. ベクトルの内積 5. ベクトルの図形への応用 6. 座標空間における図形		補充問題	2
	8			章末問題	8
	9				
	10	第3章 数列 第1節 等差数列と等比数列 1. 数列と一般項 2. 等差数列 3. 等比数列 4. 等差数列の和 5. 等比数列の和	・数列{an}についてnとanとの対応関係に着目し、数列の一般項の意味を理解させる。 ・等差数列と等比数列を理解させ、それらの一般項を求め、さらに第n項までの和を求めることができるようにして、数列を身近な問題の解決などに活用できるようにする。	・数列の表記 ・数列の一般項をnで表す ・等差数列 ・等差数列の一般項 ・等差数列の性質 ・等差数列の和の公式 ・自然数の和、奇数の和 ・等比数列 ・等比数列の一般項 ・等比数列の性質 ・等比数列の和の公式 補充問題	8

	11	<p>第2節 いろいろな数列</p> <p>6. 和の記号 Σ</p> <p>7. 階差数列</p> <p>8. いろいろな数列の和</p>	<ul style="list-style-type: none"> ある数列の一般項は、その数列の各項の階差に着目すれば容易に求められる場合があることを理解させる。 数列$\{n\}$, $\{n^2\}$, $\{n^3\}$などの和を扱う。 $\{n(n+1)\}$などについて、第n項までの和を Σ を用いて表しその値を求めるができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然数の2乗の和 和の記号 Σ 和の記号 Σ の性質 階差数列 階差数列から一般項を求める 数列の和と一般項 いろいろな数列の和 群に分けられた数列 	8	
2	12	<p>第3節 数学的帰納法</p> <p>9. 漸化式</p> <p>研究: 隣接2項間漸化式 隣接3項間漸化式</p> <p>10. 数学的帰納法</p>	<ul style="list-style-type: none"> 数列を漸化式で表現し、漸化式の意味を理解させ、簡単な漸化式を用いて表された数列の一般項を求めることができます。 自然数nを用いて表された命題を証明する一つの方法として、数学的帰納法の意味とその扱い方を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 数列の漸化式と項 漸化式から一般項を求める 数学的帰納法の原 等式の証明 不等式の証明 	8	
	1	問題演習			4	
3	2				6	
	3				6	

教科名	地理歴史	科目名	日本史B	単位数	3単位	
対象学年	第2学年	対象コース	志学コース	履修形態	選択必修	
科目的目標		<p>我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察させ、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。</p> <p>原始・古代から現代に至る歴史の展開を、同じ地理歴史科の世界史や地理との関連を一層重視して、国内外の地理的条件やアジアを含む世界史的視野に立ち、政治、経済、社会、文化、国際環境など歴史を構成する要素を統合した幅広い見方で大きく把握させる。同時に、各時代の国家・社会の特色や時代の変遷に関する総合的な考察を通じて、我が国の文化がどのような特色をもち、どのような伝統が形成されてきたかについての認識を深めることを重視している。その際、諸事象の本質をその歴史的な形成・展開の過程の実証的な考察によってとらえる歴史的な見方や考え方を身に付け、歴史的な思考力の育成を図るとともに、国際社会に主体的に生き平和的で民主的な国家・社会を形成する日本国民としての自覚と資質を養うことがこの科目のねらいである。</p>				
学習内容の概要		<p>1 「原子・古代の日本と東アジア」では、旧石器時代から平安時代までを扱い、原始社会の特色及び古代国家と社会や文化の特色について、東アジア世界の動向と関連付けて考察させる。なお、この大項目における「歴史と史料」では、歴史が諸資料に基づいて考察され、叙述されていることの理解を図ると同時に、歴史への関心を高め、文化財保護の重要性に気づかせる。</p> <p>2 「中世の日本と東アジア」では、中世国家と社会や文化の特色について、東アジア世界の動向と関連付けて考察させる。なお、この大項目における「歴史の解釈」では、諸資料を活用して、歴史的事象の推移や変化、相互の因果関係を考察するなどの活動を通じて、歴史の展開の置ける諸事象の意味や意義を解釈させる。</p> <p>3 「近世の日本と世界」では、近世国家と社会や文化の特色について、国際環境と関連づけて考察させる。なお、この大項目における「歴史の説明」では、歴史的事象には複数の歴史的解釈が成立立つことに気付かせ、それぞれの根拠や論理を踏まえて、筋道を立てて考えを説明させる。</p>				
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)		a. 関心・意欲・態度	b. 思考・判断・表現	c. 資料活用の技能	d. 知識・理解	
		<ul style="list-style-type: none"> ・日本の歴史展開に関心と問題意識を高めているか。 ・民主的、平和的国家、社会の一員としての自覚を深め、現代日本社会に生きる意欲を高めているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本史の知識を踏まえて、現代日本の課題を歴史的視点から考察しようとしているか。 ・追求し、考察した過程や結果を適切な方法で表現しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本史の基本的な事柄に関する諸資料を様々な方法で収集しているか。 ・日本史の理解に必要な情報を主体的に選択して活用し、歴史的事柄を追求する方法を身に付けていているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本史を理解するために必要な知識を身に付けているか。 ・日本史と世界史を関連づけながら理解しているか。 ・地域の歴史と日本史の関連を理解しているか。 	
教科書、教材など		教科書:詳説日本史B(山川出版) 補助教材:日本史のライブラリー(とうほう)				
授業形態		講義・演習(学級単位による授業)				
年間授業計画						
学期	月	單元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価
1	4	第1部 原始・古代	人類文化の発生を考え、日本列島における旧石器文化・縄文文化の時代の社会を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・図表を理解しながら、原始的な生活や文化を総合的に理解させる。 	9	日本列島における旧石器文化・縄文文化の成立を自然環境の変化や大陸との影響に着目してとらえることができたか。
	5	第1章 日本文化のあけぼの 1. 文化の始まり 2. 農耕社会の成立 3. 古墳とヤマト政権	古墳時代後期～終末期の変容と、ヤマト政権の政治制度を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・稻作の普及が国家の成立につながる過程を構造と結びつけながら理解させる。 ・大陸文化の影響を直後に受けていることをおさえ、文化の新たな展開につなげさせる。 	9	古墳時代から終末期にかけての文化・生活の変化、大王を中心とする政治制度を踏まえ、ヤマト政権を総合的に理解できたか。

	6	<p>第2章 律令国家の形成</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 飛鳥の朝廷 2. 律令国家への 3. 平城京の時代 4. 天平文化 5. 平安王朝の形 	<p>律令国家が成立するまでの政治の動向と白鳳文化の形成過程について考察し、律令に基づく国内統治体制について理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・文化史ではセンター試験を考慮し、教科書の写真等を利用して視覚による理解も深めさせる。 	12	血縁関係の推古天皇による政権運営や飛鳥文化の形成、律令体制の過程と白鳳文化の形成過程や大宝律令に基づく、統治組織・官僚制・土地と民衆の把握・税制及び密教芸術が生まれた弘仁・貞觀文化の意義を理解できたか。
	7	<p>第3章 貴族政治と国風文化</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 摂関政治 2. 国風文化 3. 地方政治の展開と武士 	<p>摂関政治の成立過程と政治運営への影響について考察し、新しい貴族文化として国風文化が展開されたことを理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・寺院や仏像のプリントを配布して視覚から特徴を理解させる。 ・藤原氏の台頭と国風文化の関連を考えさせる。 	12	律令体制の変容の観点から摂関政治を考察し浄土教の出現による浄土の信仰の変容、かな文学の成立による国文学の発達に着目して、貴族の生活・文化や武士の反乱や成長などから中世社会の萌芽を見出すことを理解できたか。
2	8	<p>第II部 中世 第4章 中世社会の成立</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 院政と平氏の台 2. 鎌倉幕府の成 3. 武士の社会 4. 蒙古襲来と幕府の衰退 5. 鎌倉文化 	<p>院政期前後の土地支配形態を踏まえて、院政期の政治・経済・社会・文化を理解する。鎌倉幕府が東国の地方政権から全国的な武家政権に成長していく過程や鎌倉仏教が成立するなど、文化の新しい機運が生まれたことを理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・激動の時代、宗教・思想・文学が人を動かし社会を変える力を持つことを、資料集等を用いて理解を深めさせる。 	3	院政期の政治構造や経済・社会・文化・外戚関係や日宋貿易の展開、平氏政権の特性、封建制度の成立、文永の役・弘安の役、得宗専制政治の展開、農業・商工業の発達による社会の変動、永仁の徳政令の発布、鎌倉仏教の多様な動きの社会的・思想的な意義やその影響について考察できたか。
	9	<p>第5章 武家社会の成長</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 室町幕府の成立 2. 幕府の衰退と庶民の台頭 3. 室町文化 4. 戦国大名の登場 	<p>南北朝の動乱から室町幕府の成立と安定について、日本諸地域の動向などを踏まえ、幕府の動搖や武家文化と公家文化及び大陸文化と伝統文化の関わりについて理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・室町時代は社会背景をもとに、大きく文化の特色が異なることを理解させる。 	12	建武政権の成立と崩壊を踏まえ南北朝の動乱を考察し、守護大名に着目して室町幕府の機構の確立、日明貿易・日朝貿易の展開、土一揆の発生、南北朝・北山・東山文化を通じ、武家・公家文化の融合、禪文化の果たした役割などを踏まえ、能・狂言・茶の湯・生け花などを理解できたか。
	10	<p>第III部 近世 第6章 幕藩体制の確立</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 織豊政権 2. 桃山文化 3. 幕藩体制の成立 4. 幕藩社会の構造 	<p>大航海時代と呼ばれる世界史的背景を踏まえて、歐州人の東アジアへの進出とその影響や幕藩体制の確立期の兵農分離や村落・都市支配などを理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・織豊政権下の文化との関連でその特色を学ばせる。 	12	鉄砲やキリスト教の伝来、南蛮貿易の展開を踏まえてヨーロッパ世界との接触とその影響、検地や刀狩、織豊政権の統一過程と桃山文化が幅広い国際性を持ちつつ、生活文化の中に溶け込んでいったこと、秀吉の朝鮮侵略や南蛮文化にも着用して考察できたか。

3	12 1	第7章 幕藩体制の展開 1. 幕政の安定 2. 経済の発展 3. 元禄文化	17世紀後半から18世紀前半までの幕府の安定期について、その平和と秩序の確立の視点で理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・身分社会を維持するため、儒学が果たした役割を資料集で深め、特に幕府の禁教・仏教界策を中止させる。 ・上方文化の背景を学び、その代表作家や作品、なぜ文化の担い手が町人に移ったのか、その背景を学ばせる。 	<p>9 9</p> <p>文治政治への転換から元禄時代・正徳の政治を取り上げ、幕政の安定過程や農業技術の進歩に伴う農業生産の進展、貨幣・金融制度の確立による商品経済・流通の発達、三都の発達、元禄文化について、町人の経済的繁栄や商業活動の拡大、幕府の教學として発展する儒学に着目し、文学・学問・美術を踏まえて考察できたか。</p>
2 3	2 3	第8章 幕藩体制の動搖 1. 幕政の改革 2. 宝暦・天明期 の文化 3. 幕府の衰退と 近代への道 4. 化政文化	農村や都市の変容により幕藩体制が動搖する中、幕府や諸藩が行った諸改革の意義とその影響を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・幕府の政策と洋学の発達との関連を学ばせる。 ・伝統文化の否定、その再発見に重点をおき学ばせる。 	<p>9 9</p> <p>幕府・諸藩の経済的窮乏、百姓一揆・打ちこわしの頻発、享保の改革や田沼時代の諸政策の意義、鎖国政策への批判や寛政の改革・文化文政時代・天保の改革における失政、寺子屋など庶民教育機関の普及、浮世絵など文化における近代化の芽生えを考察できたか。</p>

教科名	地理歴史	科目名	世界史B	単位数	3 単位	
対象学年	第2学年	対象コース	志学コース(地理A選択者)	履修形態	選択必修	
科目の目標	世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察することによって歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。					
学習内容の概要	<p>1. 身近なものや日常生活にかかわる主題、我が国の歴史にかかわる主題など、適切な主題を設定し追究する学習を通して、歴史に対する関心と世界史学習への意欲を高める。</p> <p>2. 人類は各地の自然環境に適応しながら農耕や牧畜を基礎とする諸文明を築き上げ、やがてそれらを基により大きな地域世界を形成したことを把握させる。</p> <p>3. ユーラシアの内陸及び海域のネットワークを背景に、諸地域世界の交流が一段と活発になり、新たな地域世界の形成や再編を促したことを探る。</p> <p>4. アジアの繁栄とヨーロッパの拡大を背景に、諸地域世界の結合が一層進んだことを把握するとともに、主権国家体制を整え工業化を達成したヨーロッパの進出により、世界の構造化と社会の変容が促されたことを理解させる。</p> <p>5. 科学技術の発達や生産力の著しい発展を背景に、現代世界は地球規模で一体化し、相互依存を強めたことを理解させる。また、国際対立と国際協調、科学技術と現代文明などの観点から20世紀の歴史の特質を考察させ、未来を展望させる。</p>					
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	a. 関心・意欲・態度	b. 思考・判断・表現	c. 資料活用の技能	d. 知識・理解		
	世界の歴史の大きな枠組みと流れに対する関心と課題意識を高め、意欲的に追及するとともに、国際社会を主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとする。	世界の歴史から課題を見出し、文化の多様性と現代社会の特質を世界的視野に立って多角的・多面的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断する。	世界の歴史についての諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を身につけるとともに、追及し考察する過程や結果を適切に表現する。	世界の歴史についての基本的な事柄を、我が国の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。		
教科書、教材など	教科書:詳説世界史B(山川出版) 補助教材:新詳世界史図説(浜島書店)・新世界史研究ノート応用編(啓隆社)					
授業形態	講義・演習(学級単位による授業)					
年間授業計画						
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価
1	4	世界史のとびら 序章 先史の世界	・世界史学習への関心・意欲を喚起する。	・気候変動と人類の生活・漂流民・砂糖から見た歴史を学ぶ。 ・人類の進化の過程を把握する。	9	a. 諸地域世界に対する関心と改題意識を持ち、各世界の形成過程を意欲的に追及しようとしているか。
	5	第1章 オリエントと地中海世界	・オリエントの古代文明の成立、ギリシア・ローマの発展過程を理解する。	・メソポタミア、エジプトを中心にオリエント世界の特質やギリシア・ローマ世界の特質を理解させる。	9	b. 諸地域世界の歴史について多角的・多面的に考察し、歴史的意義を的確・公正に判断しているか。
	6	第2章 アジア・アメリカの古代文明	・古代インド史の特質を仏教を中心に理解する。 ・中国の古代文明から秦・漢の国家形成を理解する。 ・古アメリカ文明の特徴を理解する。	・東南アジア・インド文明の形成を理解させる。 ・中国において、文明の起源から漢帝国までの動向を理解する。 ・南北アメリカ文明の特徴を理解させる。	12	c. 諸地域世界に対する資料を活用して、追及し考察した過程や結果を適切に表現できるか。
	7				6	d. 諸地域世界の形成過程を理解し、基礎的な知識を身につけているか。

1	7	第3章 内陸アジア世界・東アジア世界の形成	・スキタイ、匈奴などの騎馬民族のユーラシア世界における役割を理解する。 ・隋や唐の中央集権的国家の形成について理解する。	・10世紀までの騎馬遊牧民の活動を理解させる。 ・東アジア北方民族の興亡と魏晋南北朝から島までの東アジア文化圏形成の流れを理解させる。	6	a. 諸地域世界に対する関心と課題意識を持ち、各世界の形成過程を意欲的に追及しようとしているか。 b. 諸地域世界の歴史について多角的・多面的に考察し、歴史的意義を的確・公正に判断しているか。 c. 諸地域世界に対する資料を活用して、追及し考察した過程や結果を適切に表現できるか。 d. 諸地域世界の形成過程を理解し、基礎的な知識を身につけているか。
2	8 9				3 12	
	10	第4章 イスラーム世界の形成と発展	・イスラーム教成立の経過およびイスラーム世界について理解する。	・アラブ人とイスラム帝国の発展、トルコ系民族の活動、南アジア・アフリカのイスラーム化について認識し、イスラーム世界の形成・拡大の過程を把握し、理解させ	12	a. 諸地域世界の形成過程を現代の課題と照らし合わせながら理解しようとしているか。 b. 諸地域世界の歴史について多角的・多面的に考察し、歴史的意義を的確・公正に判断しているか。 c. 諸地域世界に対する資料を活用して、課題や事象を追及・考察した過程や結果を適切に表現できるか。 d. 諸地域世界の交流と再編を理解し、その知識を理解しているか。
	11	第5章 ヨーロッパ世界の形成と発展	・イスラーム文化の世界史的意義について認識する。 ・中世ヨーロッパ世界の形成と発展、特徴について理解する。	・ビザンツ帝国の特色、西ヨーロッパ封建社会の形成とキリスト教の関係を理解させる。	12	
	12	第6章 内陸アジア世界・東アジア世界の展開	・ユーラシア東西交流におけるモンゴル帝国の歴史的意義について理解する。	・内陸アジアで活躍したトルコ系民族の活動および国家形成を把握させる。 ・モンゴル帝国によるユーラシア大陸の一体化を理解させる。	6	
3	1				9	
	2	第7章 アジア諸地	・明の社会・経済、文化の発展、清の統治体制の特徴を理解させる。	・明および清帝国と朝鮮や日本との関係、東南アジア世界、イスラーム世界の動向を知り、その関係性を理解させる。	9	a. 一体化する世界を理解し、社会の変化について意欲的に追及しようとしているか。 b. 一体化する世界について、多角的・多面的に考察し、歴史的意義を的確・公正に判断しているか。 c. 一体化する世界に関する資料を活用して、諸課題を追及し、考察した過程や結果を適切に表現できるか。 d. 一体化する世界を理解し、社会の変化について基本的な知識を身につけているか。
	3					

教科名	地理歴史	科目名	地理B	単位数	3 単位	
対象学年	第2学年	対象コース	志学コース	履修形態	選択必修	
科目の目標	現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚を養う。					
学習内容の概要	(1) 現代世界の地理的な諸問題を地域性をふまえて考察する。 (2) 現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚を養う。					
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	a 関心・意欲・態度	b 思考・判断	c 技能・表現	d 知識・理解		
	現代世界の地理的な諸問題に対する課題意識を高め、それを意欲的に追求しているか。	現代世界の地理的事象から課題を見出し、それに地域性をふまえて考察する。また国際社会の変化を踏まえて公正に判断しているか。	地図や統計資料などの諸資料を収集し、現代世界の地理的事象を追求する技能を身につけるとともに、考察した課程や結果を表現しているか。	現代世界の地理的な諸課題についての基本的な事柄や追求の方法を理解し、その知識を身につけているか。		
教科書、教材など	教科書:新詳地理B(帝国書院) 補助教材:新詳高等地図、新詳地理資料COMPLETE2020(帝国書院)					
授業形態	講義形式					
年間授業計画						
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価
1	4	〈第I部〉 『さまざまな地図と地理的技能』 地理情報と地図 地図の活用と地域調査	地域調査の一連の方法を理解する。	現代世界の地図 地図の種類とその利用 地理情報の地図化	9 9	c 地図や統計などの諸資料を収集し、現代世界の地理的事象を追求する技能を身につけるとともに、考察した課程や結果を表現しているか。
	5	〈第II部〉 『現代世界の系統地理的考察』 自然環境	地形環境が構成する各種の地形の特徴を理解し、具体的な事例を通して人間生活とのかかわりを考察する。 世界の気候区や土壤带・植生の特徴を理解し、人間生活との関わりを考察する。日本列島の地帯構造や地形、気候の特色について理解する。 農業地域区分と分類について理解し、自然条件との関わりを考察する。	世界の地形 世界の気候 日本の自然の特徴と人々の生活 環境問題	12 12 3	a 現代世界の地理的な諸問題に対する課題意識を高め、それを意欲的に追求しているか。 d 現代世界の地理的な諸課題についての基本的な事柄や追求の方法を理解し、その知識を身につけているか。 a 現代世界の地理的な諸問題に対する課題意識を高め、それを意欲的に追求しているか。 d 現代世界の地理的な諸課題についての基本的な事柄や追求の方法を理解し、その知識を身につけているか。
	6					
	7					
	8					

2	9	資源と産業	産業の発達と変化について、自然環境とのかかわりやグローバル化の視点から考察する。 資源・エネルギー問題について、現代世界の資源・エネルギー問題を体感し、世界の資源をめぐる問題、エネルギー生産や消費の抱える課題、日本の資源・エネルギー問題を考察する。 資源分布や生産・消費について特徴を理解する。様々な工業の特色と立地条件について理解する。	産業の発達と変化 世界の農林水産業 食料問題 世界のエネルギーと鉱山資源 資源・エネルギー問題 世界の工業 第3次産業 世界を結ぶ交通・通信 現在世界の貿易と経済圏	12 12 12 12 12 9 9	b 現代世界の地理的事象から課題を見出し、それに地域性を踏まえて考察する。また、国際社会の変化を踏まえて公正に判断しているか。 a 現代世界の地理的な諸問題に対する課題意識を高め、それを意欲的に追求しているか。 b 現代世界の地理的事象から課題を見出し、それに地域性を踏まえて考察する。また、国際社会の変化を踏まえて公正に判断しているか。 d 現代世界の地理的な諸課題についての基本的な事柄や追求の方法を理解し、その知識を身につけているか。 c 地図や統計などの諸資料を収集し、現代世界の地理的事象を追求する技能を身につけるとともに、考察した課程や結果を表現しているか。 d 現代世界の地理的な諸課題についての基本的な事柄や追求の方法を理解し、その知識を身につけているか。
12	10	人口・村落・都市	人々の生活の地域的差異、消費・余暇活動の影響、集落の立地条件や発達・形態による分類と特色を理解する。	世界の人口 人口問題 村落と都市	9	c 地図や統計などの諸資料を収集し、現代世界の地理的事象を追求する技能を身につけるとともに、考察した課程や結果を表現しているか。
1	11		村落と都市について、村落・都市の立地や発達・機能や、日本の都市の特徴を考察する。		9	d 現代世界の地理的な諸課題についての基本的な事柄や追求の方法を理解し、その知識を身につけているか。
3	2	生活文化 民族・宗教	民族と宗教について、民族と言語、世界の宗教の分布や特徴、生活との関わりについて考察する。	生活文化 民族と宗教	9 9	a 現代世界の地理的な諸問題に対する課題意識を高め、それを意欲的に追求しているか。
	3			現代世界の国家 民族区分とは何か 地域区分の様々なスケール		b 現代世界の地理的事象から課題を見出し、それに地域性を踏まえて考察する。また、国際社会の変化を踏まえて公正に判断しているか。

教科名	数学	科目名	数学Ⅱ+数学Ⅲ序説	単位数	4+1 単位	
対象学年	第2学年	対象コース	志学コース(理系)	履修形態	必修	
科目の目標	【数学Ⅱ】図形と方程式、指數関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を育てる。【数学Ⅲ序説】平面上の曲線と複素数平面、極限、微分法及び積分法についての理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用する態度を育てる。					
学習内容の概要	【图形と方程式】座標や式を用いて、直線や円などの基本的な平面图形の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。【指數関数・対数関数】指數関数及び対数関数について理解し、それらの事象の考察に活用できるようにする。【三角関数】角の概念を一般角まで拡張して、三角関数及び三角関数の加法定理について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。【微分・積分の考え方】微分・積分の考え方について理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。【平面上の曲線と複素数平面】平面上の曲線がいろいろな式で表されること及び複素数平面について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。					
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	A関心・意欲・態度	B数学的な見方や考え方	C数学的な技能	D知識・理解		
	图形と方程式、指數関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考え方における考え方に関する考え方をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする	图形と方程式、指數関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考え方において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通じて、数学的な見方や考え方を身に付けている。	图形と方程式、指數関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考え方において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能技術を身に付けている。	图形と方程式、指數関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考え方における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けている。		
教科書、教材など	教科書:改訂版 高等学校 数学Ⅱ(数研出版) 改訂版 高等学校 数学Ⅲ(数研出版) 補助教材:チャート式 解法と演習 数学Ⅱ+B(数研出版) チャート式 解法と演習 数学Ⅲ(数研出版)					
授業形態	講義・演習(学級単位による授業)					
年間授業計画						
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価
1	4	第3章 图形と方程式	座標や式を用いて、直線や円などの基本的な平面图形の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようになる。	第1節 点と直線 1. 直線上の点 2. 平面上の点 3. 直線の方程式 4. 2直線の関係 問題 第2節 円 5. 円の方程式 6. 円と直線 7. 2つの円 問題 第3節 軌跡と領域 8. 軌跡と方程式 9. 不等式の表す領域 問題 章末問題	15	A/B/C/Dの総合評価

1	6	第4章 三角関数	角の概念を一般角まで拡張して、三角関数及び三角関数の加法定理について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	第1節 三角関数 1. 角の拡張 2. 三角関数 3. 三角関数のグラフ 4. 三角関数の性質 5. 三角関数の応用 問題 第2節 加法定理 6. 加法定理 7. 加法定理の応用 問題 章末問題	20
	7				
2	8	第5章 指數関数と対数関	指數関数及び対数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	第1節 指數関数 1. 指數の拡張 2. 指數関数 問題 第2節 対数関数 3. 対数とその性質 4. 対数関数 5. 常用対数 問題 章末問題	5
	9				
2	10	第6章 微分法と積分法	微分・積分の考え方について理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	第1節 微分係数と導関数 1. 微分係数 2. 導関数とその計算 3. 接線の方程式 問題 第2節 関数の値の変化 4. 関数の増減と極大・極小 5. 関数の増減・グラフの応用 問題 第3節 積分法 6. 不定積分 7. 定積分 8. 定積分と面積 問題 章末問題	20
	11				

2	12	第1章 複素数平面	複素数平面について理解し、それらを事象の考察に活用できるようとする。	1. 複素数平面 2. 複素数の極形式 3. ド・モアブルの定理 4. 複素数と図形 問題 章末問題	20	A/B/C/Dの総合評価
3	1	第2章 式と曲線	平面上の曲線がいろいろな式で表されることについて理解し、それらを事象の考察に活用できるようとする。	第1節 2次曲線 1. 放物線 2. 楕円 3. 双曲線 4. 2次曲線の平行移動 5. 2次曲線と直線 研究 2次曲線の性 問題 第2節 媒介変数表示と極座標 6. 曲線の媒介変数 7. 極座標と極方程式 8. コンピュータの利用 問題 章末問題	10	
					15	
3	3	第3章 関数	簡単な分数関数と無理関数及びそれらのグラフの特徴について理解する。合成関数や逆関数の意味を理解し、簡単な場合についてそれらを求める。	1. 分数関数 2. 無理関数 3. 逆数と合成関数 問題 章末問題	15	

- ** -

教科名	保健体育	科目名	体育	単位数	2 単位		
対象学年	第2学年	対象コース	志学コース	履修形態	必修		
科目の目標	各種運動の合理的な実践を通じて、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようとする。また、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。						
学習内容の概要	体づくり運動、体ほぐし、体力を高める運動、各種目における基本技能の習得、各種目のルール等の知識習得、生徒の自主性によるゲーム運営と安全への意識の向上。						
科目的評価基準 (観点及びその趣旨)	関心・意欲・態度		思考・判断	運動技能	知識・理解		
	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、自ら進んで計画的に運動しようとする。		自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指し、活動の仕方を考え、工夫している。	自己の能力と各種運動の特性に応じた技能を高め、体力向上のための合理的な行い方を身につけている。	運動の意義や必要性及び運動の特性と合理的な行い方を理解し、知識を身につけている。		
教科書、教材など	特になし						
授業形態	実技(男女別合併授業)						
年間授業計画							
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価	
1	4	オリエンテーション	年間計画を十分に理解し、授業に積極的に参加できるようにする。	授業の内容、方法、評価などについて説明する。	6	授業中の行動の観察	
	5	体育理論	スポーツの歴史、現代スポーツの特徴。	スポーツの歴史、技術、ドーピングについて学習。	6	授業中の行動の観察 評価テスト(総時数6時間) 授業中の行動の観察 実技テスト	
	5	体つくり運動	体つくり運動の特性を理解し、体をほぐしたり体力を高めたりする。	城北体操の習得。	6	診断テスト結果	
	6	新体力テスト	自己の体力と運動能力を把握する。	正しい測定を行い、自己の能力診断をする。	8	授業中の行動の観察 実技テスト	
	6	陸上競技	自己的能力に応じて運動技能を高め、競技したり記録を高める。	自己の能力や課題に応じて、目標を設定し、その解決に向けて練習する。	8	診断テスト結果	
	7	バレーボール	自己の能力に応じて運動技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようにする。	種目の特性を理解し、個人やチームの能力や課題を把握し、練習を工夫する。	8	授業中の行動の観察 実技テスト	
	8	ソフトボール	自己の能力に応じて運動技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようにする。	種目の特性を理解し、個人やチームの能力や課題を把握し、練習を工夫する。	8	授業中の行動の観察 実技テスト	
	9					2	
	10	サッカー	自己の能力に応じて運動技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようにする。	種目の特性を理解し、個人やチームの能力や課題を把握し、練習を工夫する。	8	授業中の行動の観察 実技テスト	
	11	バスケットボール	自己の能力に応じて運動技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようにする。	種目の特性を理解し、個人やチームの能力や課題を把握し、練習を工夫する。	8	授業中の行動の観察 実技テスト	
12					8		
3	1	バドミントン	自己の能力に応じて運動技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようにする。	種目の特性を理解し、個人やチームの能力や課題を把握し、練習を工夫する。	4	授業中の行動の観察 実技テスト	
	2	ダンス	感情をこめて踊ったり、仲間と楽しく踊ったりし、発表できるようにする。	ダンスの特性を理解し、基本動作やリズム感、協調性を養うようにする。	6	授業中の行動の観察 作品の評価	
	3					6	
※ 年間を通しての出席状況							

教科名	芸術	科目名	音楽I	単位数	1単位	
対象学年	第2学年	対象コース	志学コース	履修形態	選択必修	
科目の目標	・音楽に対する興味・関心を深め、意欲的に音楽活動に取り組む態度を身に付ける。 ・音楽的感性・技能を身に付け、音楽の生み出す曲想やリズムなどの美しさを感じ取りながら表現する能力を養う。					
学習内容の概要	・音楽理論の基礎～音楽を学習する上での最も基礎的な音楽上の決まり事について学習する。 ・実技～アルトリコーダーを使用し、独奏曲や二重奏曲をグループ学習で学ぶ。 ・鑑賞～バロック時代からの作曲家の紹介と、その作品を鑑賞する。 また、音楽に関わりの深い映画を鑑賞する。					
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	意欲・関心・態度 音楽を愛好し、音や音楽に関心をもち、意欲的、主体的に音楽活動を行い、その喜びを味わおうとする。	芸術的な感受や表現の工夫 感性を働かせて、音楽の諸要素を知覚し、音楽のよさや美しさを感じ取り創造的な音楽活動の工夫をする。	創造的な表現の技能 自己のイメージをもじり創造的な表現をするための技能を身に付けていく。	鑑賞の能力 多様な音楽を理解し、そのよさや美しさを創造的に味わう。		
教科書、教材など	MOUSA1(教育芸術社) アルトリコーダー					
授業形態	講義、実技、鑑賞					
年間授業計画						
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価
1	4	オリエンテーション アルトリコーダー実技 音楽の歴史と鑑賞	B♭ C♯の運指を覚える。 古典派の作曲家とその音楽を理解する。 映画により、モーツアルトについて深く知る。	二重奏「小さな木の実」 ハイドン モーツアルト ベートーヴェン 「アマデウス」	3	正確な運指と曲に合った表現がで演奏することができたか。 作曲家の生い立ちや時代背景を理解し、作品を味わうことができたか。 モーツアルトについてより深く知ることができたか。
	5				3	
	6				4	
	7				4	
2	8	アルトリコーダー実技 音楽の歴史と鑑賞	読譜能力を高める。 レガート奏法を身につける。 ロマン派の作曲家とその音楽を理解する。	二重奏「魔弾の射手」 二重奏「愛の喜び」 シューベルト メンデルスゾーン J.シュトラウス ショパン 「陽のあたる教室」	1	正確な運指と曲に合った表現がで演奏することができたか。 作曲家の生い立ちや時代背景を理解し、作品を味わうことができたか。
	9				4	
	10				4	
	11				4	
12	4					
3	1	アルトリコーダー実技 鑑賞	F♯ D♯の運指を覚える。 ロマン派の作曲家とその音楽を理解する。	二重奏「少年時代」 ドボルザーク スマタナ	2	正確な運指と曲に合った表現がで演奏することができたか。 作曲家の生い立ちや時代背景を理解し、作品を味わうことができたか。
	2				3	
	3				3	

教科名	芸術	科目名	美術Ⅰ	単位数	1単位	
対象学年	第2学年	対象コース	志学コース	履修形態	選択必修	
科目の目標	美術の幅広い活動を通して、生涯にわたり美を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、描写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、美術の伝統と文化についての理解を深める。					
学習内容の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・サンドアート制作…砂を使った絵画技法を学び作画を行う。 ・水墨画…墨についての学習を通じ様々な表現法を身に付け、創作活動に生かす。名画や完成作品の鑑賞、批評会などの言語活動も適宜行う。 					
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)		意欲・関心・態度	芸術的な感受や表現の工夫	創造的な表現の技能	鑑賞の能力	
		美の創造的活動の喜びを味わい、美の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。	墨、色砂のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	創造的な色彩表現をするために、基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身に付け表している。	日常生活の美術の効用や美の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、美のよさや美しさを創造的に味わっている。	
教科書、教材など	高校生の美術Ⅰ（日本文教出版） スケッチブック、書道セット、サンドアートセット、和紙					
授業形態	講義、実技、鑑賞					
年間授業計画						
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価
1	4	オリエンテーション 水墨画の世界①	前年の学習を振り返るとともに、美の芸術的要素を理解し表現する。	<p>「墨を知ろう」</p> <p>「食べ物を描こう」</p> <p>「人物を描こう」</p>	3	墨の特性を踏まえ、水墨画の芸術的要素を理解し、個性を活かした表現が出来たか。
	5		墨の技法について理解し、その特性を生かして作品に取り組む。		3	墨の明暗を美しく表現し、濃淡の用法を身に付け、表現することが出来たか。
	6		4			
	7		4			
2	8	水墨画の世界② 砂絵、サンドアートの世界①	有名画家の技法を学習し、その技法を異なった画材で行い作品に取り組む。	<p>「北斎漫画とは」 映像学習 「北斎になろう」</p> <p>「色砂に親しもう」</p> <p>「練習作品を作ろう」</p>	1	映像の中から、その作者の技法を学び、表現することができたか。
	9		4			
	10		4			
	11		4			
3	12		4			
	1	砂絵、サンドアートの世界②	学習した技法を生かし、意図に応じた個性的な表現の工夫をする。	「オリジナル作品を描こう」	2	グラデーション、混色など、様々な技法を使い表現が出来たか。
	2				3	
	3				3	

教科名	芸術	科目名	書道I	単位数	1単位
対象学年	第2学年	対象コース	志学コース	履修形態	選択必修
科目の目標	書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。				
学習内容の概要	<ul style="list-style-type: none"> 漢字仮名交じりの書…高校での古典臨書を生かし、感興や意図に応じた題材(書く言葉)の設定や創造的な作品制作を行う。 漢字の書…中国及び日本の名筆(古典作品)の臨書学習を通じ様々な表現法や用筆法を身に付け、創作活動に生かす。 仮名の書…日本の重要文化である仮名の発生と展開を理解し、また臨書学習を通じ様々な表現法や用筆法を身に付け、創作活動に生かす。 <p>古典や完成作品の鑑賞、批評会などの言語活動も適宜行う。</p>				
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	意欲・関心・態度 書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。	芸術的な感受や表現の工夫 書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	創造的な表現の技能 創造的な書表現をするために、基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身に付け表している。	鑑賞の能力 日常生活の書の効用や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっている。	
教科書、教材など	書I(教育図書) 鳥取城北高校選定筆、固形墨、半紙				
授業形態	講義、実技、鑑賞				

年間授業計画						
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価
1	4	漢字の書の学習① 【楷書の古典に学ぶ】	書の歴史や作者の人物像、表現の多様性を理解し、楷書の用筆法を身に付け、表現する。	【古典臨書】 ①顏氏家廟碑 ②鄭羲下碑 ③牛橛造像記 【創作】 古典を基にした一字創作	3 3 4	古典に関わる様々な背景を理解するとともに、唐代、北魏時代の楷書の用筆法を身に付け、表現することが出来たか。
	5 6 7	漢字の書の学習② 【行書の古典に学ぶ】	書の歴史や作者の人物像、表現の多様性を理解し、行書の用筆法を身に付け、表現する。	【古典臨書】 ①争坐位文稿	4	古典に関わる様々な背景を理解するとともに、行草書の用筆法を身に付け、表現することが出来たか。
2	8	漢字仮名交じりの書②	・学習した古典の用筆法に基づいた表現を行う。 ・感興や意図に基づく個性的な表現の工夫を行う。	「自作の高校生短歌を書こう」	1 4	短歌制作に意欲的に取り組み、表現においては古典を基にした、感興や意図に応じた表現の工夫ができたか。
	9 10 11 12	漢字の書の学習③ 【篆書・隸書の古典に学ぶ】 創作活動	書の歴史や作者の人物像、表現の多様性を理解し、篆・隸書の用筆法を身に付け、表現する。	【古典臨書】 ①甲骨文②泰山刻石 ③曹全碑 書道カレンダーを作ろう	4 4 4	古典に関わる様々な背景を理解するとともに、篆書、隸書の用筆法を身に付け、表現することが出来たか。 題材の選定に工夫を凝らし、言葉の内容に沿った自分なりの表現が出来たか。
3	1 2 3	仮名の書の学習	・仮名の歴史や諸要素を理解する。 ・仮名の用筆法を身に付け、表現する。	基本点画練習 【古筆臨書】 ①高野切第3種 ②寸松庵色紙 【創作】 古筆を基にした半紙創作	2 3 3	日本独自の伝統文化であるかなの歴史や古典の背景を理解するとともに、仮名の基本的な用筆法を身に付け、表現することが出来たか。

教科名	外国語	科目名	コミュニケーション英語Ⅱ	単位数	4 単位	
対象学年	第 2 学年	対象コース	志学コース(理系)	履修形態	必修	
科 目 の 目 標		<p>英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。</p> <p>具体的な言語活動は以下の通り。</p> <p>ア. 事物に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。</p> <p>イ. 説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。また、聞き手に伝わるように音読する。</p> <p>ウ. 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする。</p> <p>エ. 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、簡潔に書く。</p>				
学習内容の概要		<p>(1)音読 意味の区切りで読む。(チャンクリーディング・リート'アント'ルックアップ・シャドーイング)</p> <p>(2)テキスト理解 「英語」を「英語」で理解する。</p> <p>(3)技能統合活動 読んだり、聞いたりした内容を話したり、書いたりする活動につなげていく。</p> <p>(4)補充リーディング 教科書の本文の内容に関連する英文読解を行う。</p> <p>(5)発表活動 学習内容をベースに、次のような活動を行う。エッセイライティング、スピーチライティング、要約ライティング、グラフィックオーガナイザーを用いての口頭発表、意見発表、意見交換</p>				
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)		A:コミュニケーションへの関心・意欲・態度	B:外国語表現の能力	③外国語理解の能力	④言語や文化についての知識・理解	
		コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーション活動を図ろうとする。	外国語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。	外国語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを適切に理解している。	外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けているとともに、その背景にある文化などを理解している。	
教科書、教材など						
授業形態						
年間授業計画						
学期	月	單元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価
1	4	Lesson1 I'm the Strongest!	<ul style="list-style-type: none"> 車いすテニスのルールを理解する。 慎吾が車いすテニス選手になるまでの経緯を理解する。 慎吾がどのようにスランプを克服したか理解する。 プロ車いすテニス選手としての慎吾の願いを理解する。 	完了形の分詞構文、受動態の分詞構文について理解する。	12	<p>A [ア]言語活動への積極的な取り組み [イ]コミュニケーションを継続する努力</p> <p>B [ア]正確さ(リズム・イントネーション・文法、情報の内容) [イ]適切さ(場面や状況に応じた表現、声の大きさ、速さ)</p> <p>C [ア]正確さ(リズム・イントネーション・文法などの知識を利用した理解) [イ]適切さ(場面や状況、目的に応じた聞き取り、読み取り)</p> <p>D [ア]言語についての知識 [イ]文化についての理解</p>

	5	Lesson2 Tokyo's Seven-minute Miracle	・新幹線の清掃員が7分間で行うことについて理解する。 ・清掃員が何と呼ばれているか、彼らのどのような点が評価されているか理解する。 ・清掃員に対する高い評価の背景を理解する。	強調のための倒置、形式目的語のitについて理解する。	12	A [ア]言語活動への積極的な取り組み [イ]コミュニケーションを継続する努力 B [ア]正確さ(リズム・イントネーション・文法。情報の内容) [イ]適切さ(場面や状況に応じた表現。声の大きさ、速さ) C [ア]正確さ(リズム・イントネーション・文法などの知識を利用した理解) [イ]適切さ(場面や状況、目的に応じた聞き取り、読み取り) D [ア]言語についての知識 [イ]文化についての理解
	6	Lesson3 Saint Bernard Dogs	・セントバーナード犬の救助犬としての歴史を理解する。 ・優秀な救助犬、パリーの功績を理解する。 ・セントバーナード犬が売りに出された経緯を理解する。	現在完了進行形、現在完了形の受動態、S+V+分詞について理解する。	16	A [ア]言語活動への積極的な取り組み [イ]コミュニケーションを継続する努力 B [ア]正確さ(リズム・イントネーション・文法。情報の内容) [イ]適切さ(場面や状況に応じた表現。声の大きさ、速さ) C [ア]正確さ(リズム・イントネーション・文法などの知識を利用した理解) [イ]適切さ(場面や状況、目的に応じた聞き取り、読み取り) D [ア]言語についての知識 [イ]文化についての理解
7 8	Lesson4 Chanel's Style	・IT業界とファッショニア界、それぞれの革新者について理解する。 ・シャネルがシンプルで快適な服を作った時代背景について理解する。 ・シャネルが考案したファッショング品を理解する。	S+V+分詞／S+V+O +分詞、付帯状況を表すwith+O+Cについて理解する。	16 4	A [ア]言語活動への積極的な取り組み [イ]コミュニケーションを継続する努力 B [ア]正確さ(リズム・イントネーション・文法。情報の内容) [イ]適切さ(場面や状況に応じた表現。声の大きさ、速さ) C [ア]正確さ(リズム・イントネーション・文法などの知識を利用した理解) [イ]適切さ(場面や状況、目的に応じた聞き取り、読み取り) D [ア]言語についての知識 [イ]文化についての理解	
2	9	Lesson5 Science of Love	・なぜ人は恋をするのかの発表の概要を理解する。 ・子ども時代の経験、遺伝子、体内の化学物質、それぞれを理由とする3つの学説を理解する。	同格のthat節、疑問詞+do you think(+S)+V?について理解する。	16	A [ア]言語活動への積極的な取り組み [イ]コミュニケーションを継続する努力 B [ア]正確さ(リズム・イントネーション・文法。情報の内容) [イ]適切さ(場面や状況に応じた表現。声の大きさ、速さ) C [ア]正確さ(リズム・イントネーション・文法などの知識を利用した理解) [イ]適切さ(場面や状況、目的に応じた聞き取り、読み取り) D [ア]言語についての知識 [イ]文化についての理解

	10	Lesson6 Gaudi and His Messenger	・ガウディーとサグラダ・ファミリアの歴史を理解する。 ・外尾が専任彫刻家になるまでの経緯を理解する。 ・外尾が述べる、ガウディーの信条について理解する。	関係副詞の非限定用法, if節を用いない仮定法について理解する。	16	A [ア]言語活動への積極的な取り組み [イ]コミュニケーションを継続する努力 B [ア]正確さ(リズム・イントネーション・文法。情報の内容) [イ]適切さ(場面や状況に応じた表現。声の大きさ, 速さ) C [ア]正確さ(リズム・イントネーション・文法などの知識を利用した理解) [イ]適切さ(場面や状況, 目的に応じた聞き取り, 読み取り) D [ア]言語についての知識 [イ]文化についての理解
	11	Lesson7 Letters from a Battlefield	・硫黄島の戦いや、栗林中将の作戦について理解する。 ・硫黄島から兵士が家族に宛てた手紙について理解する。 ・レッスン本文を読んでのエッセイを書く。	譲歩を表す複合関係詞, 動名詞の意味上の主語について理解する。	16	A [ア]言語活動への積極的な取り組み [イ]コミュニケーションを継続する努力 B [ア]正確さ(リズム・イントネーション・文法。情報の内容) [イ]適切さ(場面や状況に応じた表現。声の大きさ, 速さ) C [ア]正確さ(リズム・イントネーション・文法などの知識を利用した理解) [イ]適切さ(場面や状況, 目的に応じた聞き取り, 読み取り) D [ア]言語についての知識 [イ]文化についての理解
	12	Lesson8 Edo:A Sustainable Society	・今日のごみ問題について理解する。 ・江戸時代の循環型社会について理解する。 ・江戸時代の自然環境と生活水準の変化を理解する。 ・江戸時代の循環型社会が成功した理由を理解する。	注意すべき関係代名詞の非限定用法, 独立分詞構文について理解する。	16	A [ア]言語活動への積極的な取り組み [イ]コミュニケーションを継続する努力 B [ア]正確さ(リズム・イントネーション・文法。情報の内容) [イ]適切さ(場面や状況に応じた表現。声の大きさ, 速さ) C [ア]正確さ(リズム・イントネーション・文法などの知識を利用した理解) [イ]適切さ(場面や状況, 目的に応じた聞き取り, 読み取り) D [ア]言語についての知識 [イ]文化についての理解
3	1	Lesson9 AI and Our Future	・AIとは何か理解する。 ・「ディープ・ラーニング」を用いてAIができることについて理解する。 ・AIがもたらし得る利点について理解する。 ・AIの潜在的な危険性について理解する。 ・AIについて意見交換する。	as if[though]+仮定法, 助動詞+have+過去分詞について理解する	8	A [ア]言語活動への積極的な取り組み [イ]コミュニケーションを継続する努力 B [ア]正確さ(リズム・イントネーション・文法。情報の内容) [イ]適切さ(場面や状況に応じた表現。声の大きさ, 速さ) C [ア]正確さ(リズム・イントネーション・文法などの知識を利用した理解) [イ]適切さ(場面や状況, 目的に応じた聞き取り, 読み取り) D [ア]言語についての知識 [イ]文化についての理解

2	Lesson10 Bhutan: A Happy Country	<ul style="list-style-type: none"> ・震災後の日本を訪れたブータン国王夫妻について理解する。 ・ブータンの地理と歴史を理解する。 ・ブータンの国民総幸福量への捉え方について理解する。 	<p>強調構文、副詞節中の<S+be>の省略について理解する。</p>	12	<p>A [ア]言語活動への積極的な取り組み [イ]コミュニケーションを継続する努力 B [ア]正確さ(リズム・インтоーション・文法。情報の内容) [イ]適切さ(場面や状況に応じた表現。声の大きさ、速さ) C [ア]正確さ(リズム・インтоーション・文法などの知識を利用した理解) [イ]適切さ(場面や状況、目的に応じた聞き取り、読み取り) D [ア]言語についての知識 [イ]文化についての理解</p> <p>A [ア]言語活動への積極的な取り組み [イ]コミュニケーションを継続する努力 B [ア]正確さ(リズム・インтоーション・文法。情報の内容) [イ]適切さ(場面や状況に応じた表現。声の大きさ、速さ) C [ア]正確さ(リズム・インтоーション・文法などの知識を利用した理解) [イ]適切さ(場面や状況、目的に応じた聞き取り、読み取り) D [ア]言語についての知識 [イ]文化についての理解</p>
3	Reading3 My Education, My future	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の教育に対して責任を持つことについて理解する。 ・同世代の高校生や有名人がどのように難題に取り組み、成功したか理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どのような目的のため勉強しているか書く。 	12	

教 科 名	理科	科 目 名	生物	単 位 数	4 单位		
対 象 学 年	第 2 学年	対象コース	志学コース(理系)	履 修 形 態	選択必修		
科 目 の 目 標	生物や生物現象に対する探求心を高め、目的意識をもって観察・実験などをを行い、生物学的に探求する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。						
学習内容の概要	生物基礎との関連を図りながら、生物や生物現象の概念の理解を深めさせる。内容は「生命現象と物質」「生殖と発生」「生物の環境応答」「生態と環境」「生物の進化と系統」の5つの大項目から構成され、生物や生物現象を分子の変化や働きを踏まえて扱う内容、動物や植物について主に個体レベルでみられる現象やその仕組み、生態や進化など生物全体を概観する内容など、ミクロレベルからマクロレベルまで幅広い領域について学ぶ。						
A 関心・意欲・態度	B 思考・判断・表現	C 観察・実験の技能	D 知識・理解				
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心をもち、自然現象に対して探求していく態度を身につけている。	生物や生物現象を通して、自然現象の中に問題を見いだし、科学的に考察した考え方を表現できている。	生物や生物現象について、目的意識をもって観察・実験を行い、生物学的に探求する能力と技術を身につけている。	生物学の基本的な概念や原理・概念を理解し、科学的な知識や見方を身につけている。			
教科書、教材など	教科書:改訂版 生物(数研出版)						
授業形態	講義形式の授業を主体とし、必要に応じて観察・実験および問題演習を行う。						
年 間 授 業 計 画							
学 期	月	单 元	单 元 の 目 標	学 习 内 容 (実験・実習等)	時 间	評 価	
1 学 期	4	生物現象と物質	生命現象を支える物質の働きについて観察・実験などを通して探求し、タンパク質や核酸など物質の働きを理解させ、生命現象を分子レベルでとらえさせる。	細胞と分子	12	生物を構成する物質を知ろう A とする。特にタンパク質についての機能、構造を理解しようとしているか。また、酵素のはたらきなど、生体内でのタンパク質の重要性を理解しようとしているか。	
	5				12	タンパク質の1次構造から高次構造まで理解し、説明できるか。また、細胞の機能とそこではたらくタンパク質の特徴を理解し、説明できるか。	
	6			代謝	16	タンパク質の変性についての C 実験、カタラーゼと酸化マンガン(IV)の性質の違いを実験を通して理解できるか。	
	7				16	アミノ酸、タンパク質の分子構造、酵素の特徴、細胞ではたらく酵素以外のタンパク質の機能、特徴を理解しているか。	

2 学 期	8			遺伝情報の発現	4	DNAの複製、タンパク質の A 合成について理解しようとしているか。また、遺伝子を用いたバイオテクノロジーに興味・関心を示しているか。
	9				16	遺伝暗号の読解と、遺伝子の変異が発現する形質にどのように影響を与えるかを説明できるか。
	10				16	オペロン説における調節タンパク質の働きを考え、酵素合成の誘導や抑制を説明できるか。
	11	生殖と発生	生物の生殖や発生について観察、実験などを通して探求し、動物と植物の配偶子形成から形態形成まで仕組みを理解させる。	生殖と発生	16	DNAの構造や複製の仕組み、遺伝子発現の仕組みが転写レベルで調節されていることを理解しているか。
	12				16	体細胞分裂と減数分裂の違い、生殖から発生までの流れ、誘導について知ろうとしているか。
						染色体とDNAの関係、減数分裂時の染色体の様子、ウニやカエルの発生過程、重複受精の仕組みについて説明できるか。
						染色体の乗換えと配偶子の組み合わせを作業を通じて考えることができるか。
						染色体と遺伝子の関係、配偶子形成から発生までの過程を理解しているか。
	1	生物の環境応答	まず、ニューロン(神経細胞)の基本的な構造とそのはたらきを理解させる。次に、受容器で受け取られた刺激(情報)が、神経系を介して、効果器へと至る経路を学習する。その際、刺激の受容に関しては視覚器と聴覚器を中心取り上げ、効果器に関しては筋肉を中心取り上げる。動物の行動については、神経系における情報の流れと関連づけながら扱う。	動物の反応と行動	8	受容器、効果器、神経系それ A ぞれの働きやしくみと関係性について理解しようとしているか。また、動物の行動について理解しようとしているか。
	2				12	刺激の受容のしくみや脳の働き、学習による行動と神経の発達について説明することができるか。
	3				12	網膜の検出、筋肉の収縮実験を通して、実験や観察した結果をまとめることができるか。 受容器、脳や脊髄の構造、筋肉の反応、動物の行動について理解している。

教科名	理科	科目名	物理	単位数	4 単位
対象学年	第2学年	対象コース	志学コース(理)	履修形態	必修
科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探求する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。				
学習内容の概要	1 様々な運動(物体の運動とつり合い、運動量と力積、円運動と単振動、万有引力、気体分子の運動) 2 波動(波の性質、音の性質、光の性質) 3 電気と磁気(電界と電位、電流、電流と磁界、電磁誘導と電磁波) 4 原子・分子の世界(電子と光、原子・原子核・素粒子)				
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	A:関心・意欲・態度 日常生活や社会との関連を図りながら物理現象への関心をもち、自然現象に対し探求していく態度を身につけています。	B:思考・判断・表現 物理や物理現象を通して、自然現象の中に問題を見いだし、科学的に考察した考えを表現できています。	C:観察・実験の技能 物理や物理現象について、目的意識をもって観察・実験を行い、物理学的に探求する能力と技術を身につけています。	D : 知識・理解 物理学の基本的な概念や原理・概念を理解し、科学的な知識や見方を身につけている。	
教科書、教材など	教科書:改訂版 物理 (教研出版)				
授業形態	講義、問題演習、振り返りを含んだ形式の授業を主体とし、必要に応じて観察・実験を行う。				
年間授業計画					
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間
1	4	物理基礎の復習			12
	5	第1編 力と運動 第1章 平面内の運動 1 平面運動の速度・加速度 2 落体の運動	平面内での物体の運動について、また大きさのある剛体の重心やつり合いの関係について学習する。	・自由落下 鉛直投射 ・水平投射 ・斜方投射	12
	6	第2章 剛体 1 剛体にはたらく力のつりあい 2 剛体にはたらく力の合力と重心	剛体にはたらく力の効果は、力の大きさと向きのほかに、作用線の位置により決まるこどを理解させる。また、剛体にはたらく力がつりあうためには、剛体が並進運動と回転運動をし始めないことに留意する。	・力のモーメントのつりあい ・重心	16
	7	第3章 運動量の保存 1 運動量と力積 2 運動量保存則 3 反発係数	運動の法則をもとに、2つの物体が衝突したり、1つの物体が分裂したりする際に成り立つ法則について理解する。	・運動量と力積 ・運動量保存則 ・反発係数	16
	8	第1部 様々な運動 第3章 円運動と単振動 1 円運動 2 惯性力と遠心力 3 単振動 4 万有引力	等速円運動の速度、角速度、向心加速度、向心力や遠心力について理解させる。単振動と円運動の関係を通して、単振動の周期、変位、速度、加速度を理解させる。ケプラーの法則から万有引力の法則を導く過程を理解させる。万有引力を受ける物体の運動を理解させる。	・円運動と向心力 ・慣性力 ・遠心力 ・万有引力の法則 ・ケプラーの法則	4
	9				16
2					

	10	第5章 気体分子の運動 1 気体の法則 2 気体分子の運動 3 気体の状態変化 探究活動	気体の内部エネルギー、気体の仕事について理解させる。また、気体の状態変化に対して、熱力学第一法則が適用できることを理解させる。気体の定積比熱と定圧比熱について理解させる。熱力学第二法則を理解させる。	・気体の状態方程式 ・気体の分子運動論 ・熱力学第1法則	16	熱が関係する現象に関心をもち、A物質の状態変化や物質中の原子の振る舞いについて興味関心を持ち、意欲的に調べようとする態度を身につけている。 物質の状態変化に伴なう量的変化を考察でき、気体の分子運動の力学的な振る舞いを分子の集団としても思考できる。
	11	第2部 波動 第1章 波の性質 1 正弦波 2 波の伝わり方 第2章 音の性質 1 音の伝わり方 2 音のドップラー効果	単振動と円運動から正弦波の式が導き出せることを理解する。波特有の現象である干渉は、重ね合わせの原理から説明できることを理解させる。ハイレンズの原理から波の回折、屈折、反射を理解させる。	・正弦波の式 ・波の屈折・干渉 ・音の回折 ・ドップラー効果	16	音や光などの現象が波動という同じ物理的な性質を持つことに興味を持ち、一体化して捉えようという態度を身につけている。 波動の特徴的現象としての干渉・回折を、水面波・音・光の様々な具体例の観察・実験から理解できる。 グラフでは横軸を空間に取った場合と時間に取った場合を組み合わせて波という現象の全体像を理解し、グラフで表現できる。
	12	第3章 光の性質 1 光の性質 2 レンズ 3 光の干渉と回折 探究活動	光の回折や干渉など、光が波であることを示す典型的な現象について、ヤングの実験などを通して理解させる。くさび形空気層による干渉やニュートンリングについて理解させる。	・光の屈折 ・レンズの公式 ・ヤングの実験 ・回折格子 ・ニュートンリング	12	光・音などの波動現象を、波動の一般的性質として統一的に理解できる。
3	1	第3部 電気と磁気 第1章 電界と電位 1 静電気 2 電界 3 電位 4 コンデンサー	摩擦電気を通して、帶電の仕組み、電気量の保存を理解させる。電場と電位差の関係を理解させる。平行板コンデンサーを具体例として取り扱い、静電気現象の理解を深めさせる。	・静電気 ・電界と電界 ・コンデンサー	8	電気と磁気の現象が、どのように生じるかに關して関心をもち、五感に訴えにくい現象について意欲的に調べる態度を身につけている。
	2	まとめ			12	電場と磁場の捉え方が様々な電磁気現象に共通することに興味を持ち、総合的に捉えようとする意欲を持つ。
	3				12	

教科名	外国語	科目名	英語表現 II	単位数	2 単位	
対象学年	第 2 学年	対象コース	志学コース(理系)	履修形態	必修	
科目の目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理的展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。					
学習内容の概要	ア. 与えられた話題について、即興で話す。また、伝えたい内容を整理して論理的に話す。 イ. 主題を決め、様々な種類の文章を書く。 ウ. 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどをまとめ、発表する。また、発表されたものを聞いて、質問したり意見を述べたりする。 エ. 多様な考え方ができる話題について、立場を決めて意見をまとめ、相手を説得するために意見を述べ合う。					
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	A: コミュニケーションへの関心・意欲・態度 コミュニケーションに関心をもち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	B: 外国語表現の能力 外国語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。	C: 外国語理解の能力 外国語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。	D: 言語や文化についての知識・理解 外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けているとともに、その背景にある文化などを理解している。		
教科書、教材など	Vision Quest English Expression II Ace (61 啓林館 英 II 322) ・ワークブック					
授業形態	講義・演習(学級単位による授業)					
年間授業計画						
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価
1	4	Part 1 Lesson 1	・主語の決定 ・見えない主語の発見 ・主語のIt ・主語になる名詞句 ・形式主語 ・名詞と冠詞 ・Storytelling ・無生物主語 ・自動詞と他動詞 ・間違えやすい自・他動詞 ・群動詞 ・SVO ・SVOO	主語を決める	6	A ・モデル文： モデル文に関心を持ち、読もうとしている。 ・Exercises / GOAL!： 間違いを恐れず、積極的に表現しようとしている。 ・Activity for Communication： 積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。
	5	Lesson 2	・SVC ・SVOC	動詞を決める	6	
	6	Grammar Focus Activity for Communication 1 Lesson 3	・使役動詞 ・知覚動詞	動詞を決める	8	B: Speaking ・Activity for communication： 与えられた状況に置いて、適切に話し、伝えることができる。 ・Presentation： 適切な発声で、プレゼンテーションを行うことができる。 ・Discussion / Debate： 自らの意見を、適切な表現を用いて伝えることができる。
	7	Lesson 4	・直接話法と間接話法 ・間接話法で伝達 ・主語動詞の呼応、時制の一致 ・Role-Playing ・「～する」 ・「～している」	動詞を決める	8	C: Writing ・Exercises： 学んだ文法・表現を使って文を書くことができる。 ・GOAL!： 自分や与えられた課題について文章を書くことができる。
	8	Lesson 5	・「～した」 ・「～していた」	動詞の形を決める	2	
	9	Lesson 6	・能動態と受動態 ・日本語との違い	動詞の形を決める	8	
2	9	Lesson 7		動詞の形を決める		
		Grammar Focus Activity for Communication 2 Lesson 8				
	8	Lesson 9				
2	9	Lesson 10				

セッション	単元	内容	目標	時間	評価	
					評価基準	評価方法
10	Lesson 11	・「もし(今)～ならば」 ・「もし(あの時)～だったなら」	動詞の形を決める	8	C: Listening ・Activity for Communication: 相手の言ったことを正しく聞き取れる。 ・Presentation / Discussion / Debate: 発表者や発言者の言ったことを正しく聞き取れる。	
	Lesson 12	・義務・必要を表す助動詞 ・数量を表す助動詞	助動詞を使う			
	Grammar Focus 3	・英語の情報構造				
	Activity for Communication 3	・Listening & Numbers				
	Lesson 13	・数量を表す語句 ・名詞を前から修飾する語句	修飾語を加える			
	Lesson 14	・名詞を後ろから修飾する① ・名詞を後ろから修飾する②	修飾語を加える			
	Lesson 15	・関係代名詞 ・関係副詞	修飾語を加える			
	Lesson 16	・副詞・副詞句 ・不定詞や分詞を使った副詞句	修飾語を加える			
	Lesson 17	・副詞節① ・副詞節② ・前置詞 ・Writing an Email	修飾語を加える			
	Grammar Focus 4	・原級 ・比較級	比較を表す			
11	Activity for Communication 4			8	C: Reading ・モデル文： つなぎ言葉の使い方を理解している。パラグラフの構成を理解している。文章の要点をつかむことができる。 ・Expressions / Exercises / Grammar Focus： いろいろなトピックについて、内容を理解することができる。それぞれのページ絵学んだ文法・表現を理解し、知識として定着させている。	
	Lesson 18					
	Lesson 19	・最上級 ・最上級の意味を表す表現	比較を表す			
	Lesson 20	・no + 名詞 ・no-で始まる代名詞 ・部分否定 ・準否定 ・丁寧表現 ・Reading Graphs	否定を表す			
	Grammar Focus 5					
	Activity for Communication 5					
	Part 2					
	Lesson 1	文と文をつなぐ	パラグラフを書く			
	Lesson 2	・パラグラフ①： ・構成 / 列挙・順序	パラグラフを書く			
	Lesson 3	・パラグラフ②： ・例示 / 追加	パラグラフを書く			
3	Lesson 4	・パラグラフ③： ・比較 / 対照	パラグラフを書く	6	・Part 2: パラグラフの構成に基づいて文章を書くことができる。要約を書く手順を理解し、要約文を書くことができる。	
	Lesson 5	・パラグラフ④： ・原因 / 理由 / 結果	パラグラフを書く			
	Lesson 6	要点・要約① リーディングの要約	パラグラフを書く			
	Lesson 7	要点・要約② リスニングの要約	パラグラフを書く			

教科名	保健体育	科目名	保健	単位数	1 単位
対象学年	第2学年	対象コース	志学コース	履修形態	必修
科目の目標	個人および社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。				
学習内容の概要	<p>②生涯を通じる健康 生涯の各段階において健康についての課題があり、自らこれに適切に対応する必要があること、およびわが国の保健・医療制度や機関を適切に活用することが重要であることについて理解できるようにする。</p>				
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
	健康に対する関心を持ち、健康を保持増進させるためには何が必要かを考え、実行できる態度が身についている。また、日々変化する健康問題について関心を持ち、自他の健康について考える意欲をもつ。	健康についての思考を深め、その日常での活用方法を適切に判断し、健康行動の適切な選択ができる。	保健の授業を通して、必要な基本的技能を習得し、実際の場面で適切な行動がとれるようになる。	保健に関する基礎的な知識や、ヘルスプロモーションの理念を理解できる。また、保健に関するさまざまな分野における知識を身につけ、その役割について理解できる。	
教科書、教材など	教科書:最新保健体育(大修館書店)、最新保健ノート(大修館書店)				
授業形態	教室での一斉授業、グループ学習、ビデオ学習				

年間授業計画

学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価
1	4	単元2 生涯を通じる健康 ①思春期と健康	思春期における体の変化と心の発達にかかる健康課題を理解する。	性ホルモン、生殖器の発達 精神的な不安定	3	定期考査 ノートチェック 授業への取り組み A,B,C,Dで評価する
	5	②性への関心・欲求と性行動	性意識の男女差、性情報が性行動の選択に影響を及ぼすことを理解する。	セクシュアルハラスメント 性情報と性行動	3	
	6	③妊娠・出産と健康	妊娠・出産の過程における健康課題を理解する。	母子健康手帳 母子保健サービス	3	
	7	④避妊法と人工妊娠中絶	家族計画の意義と適切な避妊法を理解し、人工妊娠中絶が女性の心身に及ぼす影響を理解する。	家族計画 人工妊娠中絶	4	
	8	⑤結婚生活と健康	心身の発達と結婚生活の関係について理解する。	性機能の成熟 精神面での発達 健康状態の把握	4	
	9	⑥中高年期と健康	中高年期を健やかに過ごすための社会的な取り組みを理解する。	健康診断 生きがい ノーマライゼーション	1 4	
		⑦医薬品とその活用	医薬品の正しい使用法について理解する。	医療用医薬品 自然治癒力 お薬手帳		

	10	⑧医療サービスとの活用 ⑨保健サービスとの活用	医療サービスをうける時の留意点を理解する。 保健行政の役割について理解する。	医療保険 インフォームド・コンセントとセカンドオピニオン 保健行政 保健サービス 健康相談	4	
	11	⑩さまざまな保健活動や対策 单元3 社会生活と健康 ①大気汚染と健康	民間や国際機関などの保健活動や対策について理解する。	日本赤十字社の取組み WHOの取組み ヘルスプロモーション	4	
	12	②水質汚濁、土壤汚染と健康 ③環境汚染を防ぐ取り組み	大気汚染の原因とその健康影響を理解する。 水質汚濁、土壤汚染の原因とその健康影響を理解する。 今日の環境汚染の特徴を理解する。	大気汚染物質 ダイオキシン 地球温暖化 重金属 有機物 富栄養化 排出基準 環境基本法 産業廃棄物 環境負荷	4	定期考查 ノートチェック 授業への取り組み A,B,C,Dで評価する
3	1	④ごみの処理と上下水道の整備	ゴミの処理の現状や、その課題について理解する。	環境型社会	2	
	2	⑤食品の安全を守る活動 ⑥働くことと健康	食品の安全のため、消費者が行うべきことを理解する。 働く人の健康問題と労働災害の防ぎ方について理解する。	食品添加物 食品衛生監視委員 食中毒予防三原則 働き方の変化とストレス 労働災害 作業環境 健康管理	3	
	3	⑦働く人の健康づくり	職場がおこなう健康増進対策と、余暇の大切さとその活用の仕方について理解する。	メンタルヘルスケア ワークライフバランス 余暇の確保	3	定期考查 ノートチェック 授業への取り組み A,B,C,Dで評価する